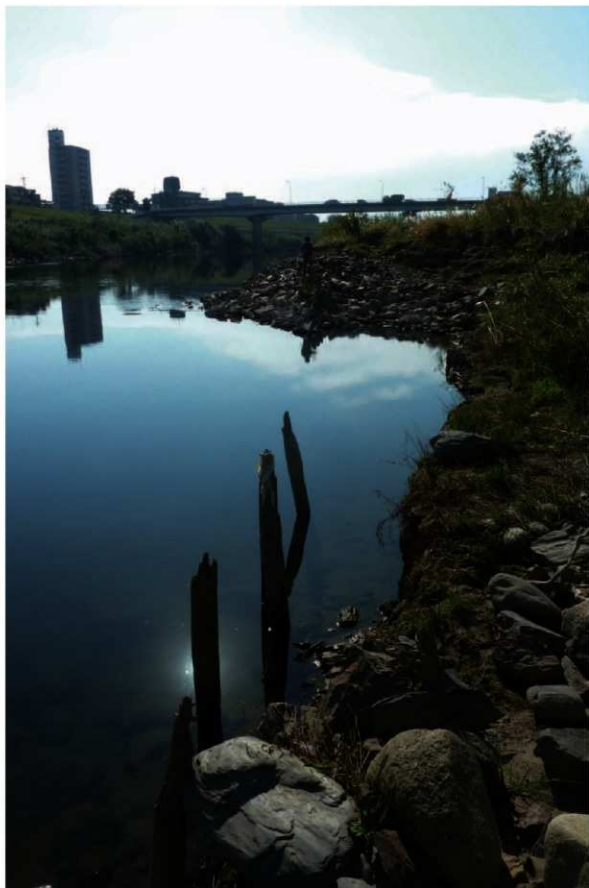


京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成27年度

2016年3月

京 都 市 文 化 市 民 局



1 長岡京左京九条三坊・四・六町跡・従水垂大下津町遺跡(14A004)
宮前橋と護岸 (北から)(第IV章-7)



1 伏見城跡・指月城跡 (14F529) 出土金箔瓦 (第IV章 - 5)



2 伏見城跡・指月城跡 (14F018) 出土金箔瓦 (第IV章 - 6)

例 言

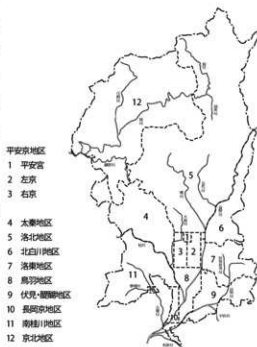
- 1 本書は、京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成 27 年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。

平成 27 年 1 月から 12 月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。

- 2 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
- 3 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系 VI による。標高は T. P. (東京湾平均海面高度) による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点 (KBM) として用いている。
- 4 本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図 (縮尺 1 / 2,500) を調整し、作成したものである。なお、図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版 1 ~ 13 1 / 8,000 図版 14 ~ 28 1 / 10,000

- 5 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第 3 号、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1996 年に準拠する。
- 6 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 7 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡については重複する遺跡は省略し、官衙・条坊を優先して記載し、官衙・条坊が複数にまたがるものは代表するものを掲載した。長岡京跡については、官衙・条坊を優先し、複数にまたがるものは代表するものを掲載した。
- 8 遺物整理にあたっては、上茶谷美保・上別府亜紀・熊代信吾・中村春美・美馬順二・義井良作・吉本健吾の協力を得た。
- 9 調査及び本書作成は、京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課が担当し、(公財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

本文目次

	頁
I 調査概要	1
II 平安京左京	5
1 平安京左京三条三坊七条跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡（14H418）	5
III 平安京右京	7
1 平安京右京北辺三坊六町跡（13H145）	7
2 平安京右京四条三坊十二町跡・西院城（小泉城）跡（15H211）	11
IV その他の遺跡	14
1 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園隣接地（15A004）	14
2 植物園北遺跡（10S134）	17
3 法観寺旧境内（14S646）	19
4 山科本願寺跡（寺内町遺跡）・左義長町遺跡（14S612）	22
5 伏見城跡・指月城跡（14F529）	25
6 伏見城跡・指月城跡（14F018）	33
7 長岡京左京九条三坊三・四・六町跡・淀水垂大下津町遺跡（14A004）	35
調査一覧表	38
報告書抄録	67

挿 図 目 次

地区設定概念図

平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡（14H418）

図 1	調査位置図（1：5,000）	5
図 2	調査地点位置図（1：500）	5
図 3	石組み井戸実測図（1：50）	6
図 4	石組み井戸出土遺物実測図	6

平安京右京北辺三坊六町跡（13H145）

図 5	調査位置図（1：5,000）	7
図 6	遺構位置図（1：1,000）	7
図 7	調査区全景（南から）	8
図 8	柱穴 2 断面（南から）	8
図 9	掘立柱建物 5 平・断面図（1：50）	9
図 10	柱列 1・3 平・断面図（1：100）	10
図 11	柱列 3 及び耕作溝の重複関係（南から）	10

平安京右京四条三坊十二町跡・西院城（小泉城）跡（15H211）

図 12	調査位置図（1：5,000）	11
図 13	遺構位置図（1：500）	11
図 14	調査区北壁断面図（1：50）	12
図 15	出土遺物実測図（1：3）	13

特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閻寺）庭園隣接地（15A004）

図 16	調査位置図（1：5,000）	14
図 17	不動山と土塁の位置（1：1,500）	14
図 18	北辺土塁断面図（1：80）	15
図 19	西辺土塁現状（南から）	16
図 20	北辺土塁断面（東から）	16

植物園北遺跡（10S134）

図 21	調査位置図（1：5,000）	17
図 22	調査地点位置図（1：1,000）	17
図 23	遺構断面図（1：50）	18
図 24	古墳時代前期の竪穴建物検出地点（1：2,000）	18

法観寺旧境内 (14S646)	
図 25	調査位置図 (1:5,000) 19
図 26	出土遺物 拓本・実測図 (1:4) 20
図 27	整地層 平・断面図 (1:50) 20
図 28	1998 年立会調査 断面図 (1:1,000) 21
図 29	法観寺旧境内の調査地と主な成果 (1:500) 21
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)・左義長町遺跡 (14S612)	
図 30	調査位置図 (1:5,000) 22
図 31	遺構配置図 (1:1,000) 22
図 32	断面図 (1:50) 23
図 33	土坑 1 出土遺物 (1:4) 23
図 34	山科本願寺概念図 (1:5,000) 24
伏見城跡・指月城跡 (14F529)	
図 35	今回の調査地と既存調査 (1:5,000) 25
図 36	「伏見御城郭並武家屋敷取図」調査地周辺 26
図 37	調査地点位置図 (1:300) 27
図 38	調査地断面図 1 (1:50) 28
図 39	調査地断面図 2 (1:50) 29
図 40	出土遺物 (1:4) 31
伏見城跡・指月城跡 (14F018)	
図 41	調査位置図 (1:5,000) 33
図 42	遺構検出地点位置図 (1:1,000) 33
図 43	No.2 地点出土軒丸瓦 (1:4) 33
図 44	No.1・2 地点断面図 (1:50) 34
図 45	No.2 地点断面 (南から) 34
長岡京左京九条三坊・四・六町跡・淀水垂大下津町遺跡 (14A004)	
図 46	上段:調査位置図 (1:5,000), 下段:11NG438 各区平・断面図 (1:250) 36
図 47	①地点 杭列及び石積 (南東から) 37
図 48	③地点 石積と護岸捨石 (南東から) 37
図 49	④地点 杭列及び護岸捨石 (南から) 37
図 50	⑤地点 石積 (南東から) 37
図 51	②地点 石積と護岸捨石 (北から) 37

図 版 目 次

- 巻頭図版 1 長岡京左京九条三坊・四・六町跡・淀水垂大下津町遺跡 (14A004)
宮前橋と護岸 (北から) (第IV章 - 7)
- 巻頭図版 2 1 伏見城跡・指月城跡 (14F529) 出土金箔瓦 (第IV章 - 5)
2 伏見城跡・指月城跡 (14F018) 出土金箔瓦 (第IV章 - 6)
- 図版 1 ～ 26 調査位置図
- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14 伏見城跡・板橋遺跡・金森出雲遺跡・指月城跡
- 図版 15 伏見城跡・指月城跡
- 図版 16 円宗寺跡・仁和寺院家跡・草木町遺跡・太秦馬塚町遺跡・村ノ内町遺跡・
常盤東ノ町古墳群・森ヶ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡・上ノ段町遺跡・
西野町遺跡・梅津坂本町遺跡・門田町遺跡
- 図版 17 北白川廃寺・池田町古墳群・北白川追分町遺跡・北白川追分町縄文遺跡・
吉田上大路町遺跡・吉田泉殿町遺跡・吉田山遺跡・吉田神社境内・
吉田二本松町遺跡・白河街区跡・白河北殿跡・白河南殿跡・得長寿院跡・
尊勝寺跡・最勝寺跡・延勝寺跡・成勝寺跡・法勝寺跡・岡崎遺跡・
栗田口窯跡
- 図版 18 御土居跡・高台寺境内 (雲居寺跡)・法観寺旧境内・六波羅政庁跡・
法住寺殿跡・法性寺跡・烏部 (辺) 野

- 図版 19 中久世遺跡・中久世遺跡・大藪遺跡・大藪城跡・長岡京跡・戌亥遺跡・宮ノ脇遺跡・東土川遺跡・鶏冠井遺跡
- 図版 20 長岡京跡・東土川遺跡・鶏冠井遺跡・羽東師菱川城跡・川原寺跡・長黒遺跡・久我殿遺跡
- 図版 21 長岡京跡・水垂遺跡・淀水垂大下津町遺跡・興杼神社旧境内・淀城跡・木津川河床遺跡
- 図版 22 1 雲林院跡・寺ノ内旧域・上京遺跡・上御霊遺跡・相国寺旧境内・室町殿跡(花の御所)・本満寺の構え跡・公家町遺跡・寺町旧域
2 大徳寺旧境内 3 御土居跡
- 図版 23 1 史跡・名勝嵐山・嵯峨遺跡・臨川寺境内・嵯峨北堀町遺跡
2 植物園北遺跡
- 図版 24 1 上京遺跡・北野烏居前町遺跡・北野天満宮・北野遺跡・北野廃寺
2 烏羽離宮跡・烏羽遺跡
- 図版 25 1 中臣遺跡・中臣十三塚 2 福西古墳群・大枝遺跡
3 周山瓦窯跡 4 観空寺跡 5 長福寺境内
- 図版 26 1 寂光院境内 2 中の谷窯跡
3 八幡古墳群・本山古墳群・栗栖野瓦窯跡
4 特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園
5 一乗寺向畑町遺跡・渡辺館跡・一乗寺西浦畑町遺跡
6 寺町旧域 7 法性寺跡 8 安朱遺跡
- 図版 27 1 山科本願寺(寺内町遺跡)・左義長町遺跡 2 山科本願寺南殿跡
3 史跡隨心院境内 4 唐橋遺跡・吉祥院天満宮境内 5 石原城跡
6 安楽行院跡・深草坊町遺跡・貞観寺跡
7 太閤堤(小倉堤・槇島堤)
8 史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡
- 図版 28 1 桂徳大寺町遺跡 2 革嶋館跡・革嶋遺跡・下津林遺跡
3 櫻原遺跡・塚ノ本古墳
4 上里北ノ町遺跡・上羽古墳・大原野石見遺跡
- 図版 29～34 遺構写真
- 図版 29 平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡(14H418)
1 石組み井戸検出状況(北西から)
2 石組み井戸石積状況(北西から)
平安京右京四条三坊十二町跡・西院城(小泉城)跡(15H211)
3 木杭出土状況(南から)

- 図版 30 法観寺旧境内 (14S646)
- 1 整地土検出状況 (南西から)
 - 2 東壁断面 (西から)
- 図版 31 伏見城跡・指月城跡 (14F529)
- 1 No.4 対象地南壁断面 (北西から)
 - 2 No.3 断割り北壁断面 (南から)
 - 3 No.3-7 遺物出土状況：遺物報告No.7 (南東から)
- 図版 32 伏見城跡・指月城跡 (14F529)
- 1 No.10 断割り北壁断面 (南から)
 - 2 No.16 断割り北壁断面 (南西から)
- 図版 33 伏見城跡・指月城跡 (14F529)
- 1 No.9 断割り北壁断面 (南から)
 - 2 No.9-11：西側石垣裏込め (南から)
- 図版 34 伏見城跡・指月城跡 (14F529)
- 1 No.6 対象地東壁断面 (西から)
- 長岡京左京九条三坊三・四・六・町跡・淀水垂大下津町遺跡 (14A004)
- 2 ②地点 石積と護岸捨石 (北から)

表 目 次

表 1	詳細分布調査件数	2
表 2	遺物概要表	4

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う平成27年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本報告書では平成27年1月5日から3月31日までの平成26年度分120件、平成27年4月1日から12月28日までの平成27年度分360件をあわせて報告する。調査件数は480件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は、表1のとおりである。

近年の調査総件数は、平成26年が474件で、平成25年の552件から大幅に減少しており、減少傾向が続くと考えられたが、本年は480件と昨年並みの件数を維持した。本年度の特徴を述べるとするならば、平安宮域及び京城以外の周辺地区での調査が充実してきたと言えるであろう。昨年との比較でも平成26年の総件数が474件で平安宮域及び京城が251件、それ以外が223件であった。本年は総件数が480件で平安宮域及び京城が221件、それ以外が259件であり、周辺地区が多くなっている。概要の報告に関しても平成26年では、平安宮域及び京城の報告が8件、それ以外の報告が6件であったものが、本年は平安宮域及び京城の報告が3件、それ以外の報告が7件である。調査に伴う土木・建築工事が京都周辺部に重きを置くようになり、詳細分布調査も周辺部に調査の比重が移っていく先駆けをあらわしているのかもしれない。

以下、各地区の概要を述べる。

平安宮（HQ）平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡の4箇所の遺跡で調査を行なった。

豊楽院跡（15K218）で平安時代の整地層、御井跡（15K010）で鎌倉時代の南北溝を検出した。平安京左京（HL）左京域では、平安京跡、新在家構え跡、内膳町遺跡、一条室町殿跡、二条城北遺跡、史跡旧二条離宮（二条城）、高陽院跡、旧二条城跡、公家町遺跡、烏丸丸太町遺跡、妙顕寺城跡、堀川御池遺跡、烏丸御池遺跡、等持寺跡、本能寺城跡、妙覚寺城跡、妙満寺の構え跡、寺町旧域、烏丸綾小路遺跡、中堂寺城跡、本圀寺城跡、東本願寺前古墓群、東市跡、烏丸町遺跡、御土居跡の25箇所の遺跡で調査を行なった。

室町時代の石組み井戸を検出した三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡（13H529）を報告する。二条三坊十二町跡（14H542）で平安時代の東西溝、平安時代前期のピットを検出した。二条四坊五町跡・烏丸丸太町遺跡（14H658）で平安時代から鎌倉時代のピットを検出した。四条四坊八町跡・烏丸御池遺跡（14H209）では地表下約3mの深さで弥生時代の遺物包含層を検出している。また、四条四坊十六町跡（14H209）では時期は不明であるが東京極大路の推定地で路面と考えられる砂礫層を検出した。六条二坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡（14H498）では鎌倉時代の土坑を検出した。

平安京右京（HR）右京域では、平安京跡、史跡妙心寺境内、史跡・名勝妙心寺庭園、御土居跡、西ノ京遺跡、龍翔寺跡、安井馬塚町古墳群、壬生遺跡、西院城跡（小泉城）、山ノ内遺跡、西京極

表1 詳細分布調査件数

地区	26年度1~3月	27年度4~12月	小計	地区	26年度1~3月	27年度4~12月	小計
平安宮 (HQ)	13	36	49	洛東地区 (RT)	12	37	49
平安京左京 (HL)	22	67	89	鳥羽地区 (TB)	6	16	22
平安京右京 (HR)	17	66	83	伏見・醍醐地区 (FD)	5	32	37
太秦地区 (UZ)	9	17	26	長岡京地区 (NG)	11	13	24
洛北地区 (RH)	11	28	39	南桂川地区 (MK)	7	25	32
北白川地区 (KS)	7	22	29	京北地区 (UK)	0	1	1
				合計	120	360	480

遺跡、西院遺跡、衣田町遺跡、西寺跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡、吉祥院城跡の17箇所の遺跡で調査を行なった。

奈良時代の掘立柱建物と中世の柱列を検出した北辺三坊六町跡（13H145）、近世の溝状遺構を検出した四条三坊十二町跡・西院城（小泉城）跡（15H211）の2件の概要を報告する。これらの調査以外に試掘調査後の調査で平安時代の柱穴及び土坑を検出した三条二坊六町跡・西ノ京遺跡（15H247）と平安時代の四行八門を区画する溝を検出した六条三坊一町跡・西院遺跡（14H481）は、『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』に試掘調査の成果と共に報告する。

他には、北辺四坊三・四・五・六・七町、一条四坊八・九・十六町跡、史跡・名勝妙心寺庭園、史跡妙心寺境内（26N005）では妙心寺北総門の下層で時期は不明であるが地業を検出した。一条二坊十一町跡（15H238）で平安時代後期の土坑、二条二坊十五町跡（15H077）で時期は不明であるが大炊御門大路の北側溝と考えられる溝状遺構を検出した。三条三坊十二町跡・西ノ京遺跡（14H172）では地表下約1.6mの深さで弥生時代の遺物包含層を検出している。四条二坊三町跡・壬生遺跡（15H400）で時期は不明であるが西叡負小路の内溝と考えられる南北溝を検出した。八条一坊三町跡（11H346）では平安時代前期から中世の池跡を検出した。九条一坊十町跡・西寺跡・唐橋遺跡（15H325）では地表下0.25mで古墳時代後期から飛鳥時代の遺物包含層を検出している。太秦地区（UZ） 円宗寺跡、仁和寺院家跡、草木町遺跡、太秦馬塚町遺跡、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、上ノ段町遺跡、西野町遺跡、門田町遺跡、梅津坂本町遺跡、史跡・名勝嵐山、嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡、臨川寺境内、観空寺跡、長福寺境内の16箇所の遺跡で調査を行なった。

このうち、試掘調査後の調査で古墳時代と室町時代の土坑を検出した嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡（12S132）は、『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』に試掘調査の成果と共に報告する。

洛北地区（RH） 雲林院跡、寺町旧域、上京遺跡、相国寺旧境内、上御霊遺跡、公家町遺跡、寺ノ内旧域、本満寺構え跡、室町殿跡（花の御所）、北野天満宮、北野麩寺、北野遺跡、北野鳥居前町遺跡、御土居跡、大徳寺旧境内、植物園北遺跡、寂光院境内、中の谷窟跡、八幡古墳群、本山古墳群、栗栖野瓦窟跡、特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園隣接地の22箇所の遺跡で調査を行なった。

弥生時代の竪穴建物を検出した植物園北遺跡（10S134）と鹿苑寺境内北辺に設けられた土塁状遺構を検出した特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園隣接地（15A004）の2件の概要を報告する。

他に上京遺跡・寺ノ内旧域(15S237)で平安時代から鎌倉時代の土坑、上京遺跡・室町殿跡(花の御所)(15S274)では室町時代の土坑を検出している。注目すべきは、上京遺跡隣接地(15S206)で弥生時代の土坑を検出している。平成22年度の西陣中央小学校の試掘調査においても弥生時代の包含層を検出しており、両調査地を含む弥生時代の遺跡が想定される。

北白川地区(KS) 北白川廃寺、池田町古墳群、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、追分町古墳群、吉田上大路町遺跡、吉田二本松町遺跡、吉田神社境内、吉田山遺跡、吉田泉殿町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、延勝寺跡、成勝寺跡、最勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、一乗寺向畑町遺跡、一乗寺西浦町遺跡、渡辺館跡の23箇所の遺跡で調査を行なった。

法勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡(12R305)は、京都市立動物園内の調査で1981年に発掘調査を行った建物の改築に伴う未調査部分の調査であるが、発掘調査で検出した弥生時代から古墳時代初頭の流路の延長と考えられる流路や土坑を検出した。同じく法勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡(13R457)で法勝寺の池西岸と考えられる平安時代後期の落込を検出した。また吉田神社境内・吉田上大路町遺跡・吉田山遺跡(14S459)では吉田神社の祭祀遺物と考えられる江戸時代の高台付皿を多量に含んだ土坑を検出した。

洛東地区(RT) 粟田口窯跡、御土居跡、鳥部(辺)野、高台寺境内(雲居寺跡)、法観寺旧境内、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、法性寺跡、寺町旧域、中臣遺跡、中臣十三塚、安朱遺跡、山科本願寺跡(寺内町遺跡)、左義長町遺跡、山科本願寺南殿跡、史跡随心院境内の16箇所の遺跡で調査を行なった。

このうち平安時代後期の法観寺の回廊跡の可能性のある整地層を検出した法観寺旧境内(14S646)と平成27年の発掘調査(14S612)後の未調査部分において発掘調査で確認された室町時代の堀の延長部を検出した山科本願寺跡(寺内町遺跡)・左義長町遺跡(14S612)の2件について概要を報告する。

他には、寺町旧域(14S494)で桃山時代の土坑を検出した。鳥部(辺)野隣接地(14A006)では近世の土坑を検出した。調査地内では石仏・墓石等も検出しており近世の墓地に関連する遺構と考えられる。法性寺跡(14S572)では東福寺方丈増築工事に伴う調査において方丈直下で時期不明の礎石を4石検出した。礎石は現方丈の柱基礎と同じ位置の直下で出土しており、旧方丈の礎石と考えられる。

鳥羽地区(TB) 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、唐橋遺跡、吉祥院天満宮境内、石原城跡、久我殿遺跡、木津川河床遺跡の7箇所の遺跡で調査を行った。

調査例の少ない石原城跡(15S065)では地表下約0.7mで中世の遺物包含層を検出した。伏見・醍醐地区(FD) 伏見城跡、板橋廃寺、金森出雲遺跡、指月城跡、安楽院跡、深草坊町遺跡、貞観寺跡、太閤堤(小倉堤・槇島堤)の8箇所の遺跡で調査を行なった。

このうち伏見城跡・指月城跡(14F529, 14F018)の2件の概要を報告する。14F529は平成27年の発掘調査(14F529)後発掘調査未調査部分において検出した近世石垣の構築前造成土を検

出したものである。14F018は指月城跡の南側斜面において伏見城期の不明遺構と金箔瓦を検出したものである。他に伏見城跡（15F182）で地表下約0.1mで伏見城期の化粧土を含む造成土と考えられる層を検出した。伏見城跡における伏見城期の造成土及び整地と考えられる層は15F145、14F616、15F035、15EE等で検出した。

伏見城跡以外の遺跡では、太閤堤（小倉堤・槇島堤）（14S179）で地表下約0.9mで堤の造成土と考えられる粗砂層とシルト層の互層堆積を検出した。

長岡京地区（NG）長岡京跡、大藪遺跡、東土川遺跡、宮ノ脇遺跡、戌亥遺跡、鶏冠井遺跡、羽東師菱川城跡、長黒遺跡、水垂遺跡、淀水垂下津町遺跡、淀城跡の11箇所の遺跡で調査を行なった。このうち、與杼神社に伴う近世の護岸列を検出した長岡京左京九条三坊三・四・六町跡・淀水垂下津町遺跡（14A004）の概要を報告する。

南桂川地区（MK）上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡、大藪城跡、福西古墳群、大枝遺跡、史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡、桂徳大寺町遺跡、革嶋館跡、下津林遺跡、椋原遺跡、上里北ノ町遺跡、大原野石見遺跡、上羽古墳の15箇所の遺跡で調査を行なった。

下津林遺跡（14S390）では地表下約0.5mで古墳時代中期の遺物包含層を検出した。上久世遺跡（15S179）で平安時代末期のピットを検出した。中久世遺跡・大藪遺跡・大藪城跡（14S025）では西国街道の調査地点で地表下約0.3mで時期不明であるが路面跡を検出した。

京北地区（UK）周山瓦窯跡で調査を行なったが顕著な成果は得られなかった。

（吉本健吾・馬瀬智光）

表2 遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク 箱数	Cランク 箱数	出土箱数 合計
点数及び箱数	29点（2箱）	土師器皿5点、陶器2点、瓦器浅鉢1点、軒平瓦1点、金箔瓦16点、貨銭4点	2箱	8箱	12箱

Ⅱ - 1 平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡 妙覚寺城跡（14H418）

1. 調査の経緯（図1・2）

本件は、中京区衣欄通押小路下る下妙覚寺町における共同住宅建設に伴う詳細分布調査である。調査地は、平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡に該当する。文献によると、当町域には平安時代に冷泉上皇の鴨院（鴨井殿）が所在していたとされる。また、室町時代には法華宗二十一カ寺の一つに数えられる妙覚寺が置かれていた。これまで当町域の南側を中心に発掘調査が実施されており、室町時代から桃山時代にか

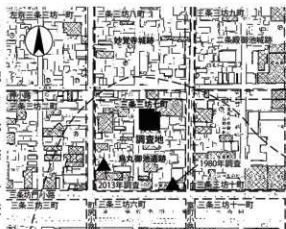


図1 調査位置図（1：5,000）

けて堀や井戸、柱穴などの遺構が多く検出されていることから、中世において活発な土地利用があったことが判明している¹⁾。調査は、3月20・24～27・30日にかけて実施した。本稿では、検出した石組み井戸を中心に報告を行う。

2 層序と遺構（図3）

層序は、各調査箇所によって若干異なるものの、基本的にはGL-2m前後まで現代～近代盛土で、その直下が黄褐色粗砂～砂礫の地山となる。

遺構は、石組み井戸と土坑を確認した。これらの遺構は、全て地山を掘り込んで成立している。土坑は4基確認しており、出土した土師器から室町時代の遺構と考えられる。

石組み井戸 調査地の中央から5mほど北東に位置する。この石組み井戸は確認した時点で、既に平面の2/3以上が破壊されており、遺存状況は悪い。GL-2.9mまで現代盛土があり、その直下が地山の黄褐色砂礫層となる。この砂礫層を更に1.5mほど掘り込んで石組み井戸が構築されている。他の調査箇所ではGL-1.8m～2mで地山を検出しており、本来の地山の高さがこの程度であると想定するならば、おおよそ2.6m以上も地山を掘り込んで構築されていると考えられる。掘方は、底から0.4mの

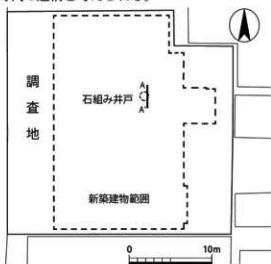


図2 調査地点位置図（1：500）

高さまでは幅0.7mほどで掘削しているが、それより上方は急激に広がり、2.6m程の幅を有する。掘方の断面形は、北側は約65度の傾斜で上がっていくが、南側では標高50mほどで傾斜が変わり、そこからは約30度の緩い傾斜で徐々に開く。構造は、底部付近に長さ0.7m、幅0.15m程の横板を用いて一段のみの四角い枠を組む。底部から0.4mより上方は、0.2～0.3m程度の河原石を横に目地が通るように積んでいる。

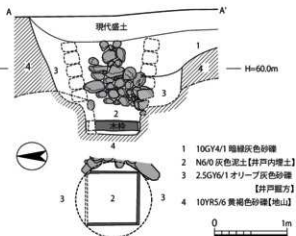


図3 石組み井戸実測図 (1:50)

3 遺物 (図4)

石組み井戸の埋土からは、少量ながら土師器の小片や銭貨が出土した。1は、井戸の石材と石材の間に挟まるようにして出土した。

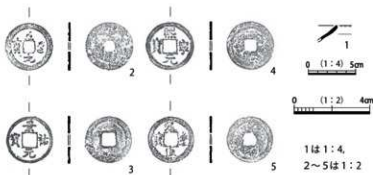


図4 石組み井戸出土遺物実測図

皿(S)小で、京都VII期に位置づ

けられる。2は北宋の「至道元寶」で初鑄は995年。3は北宋の「景祐元寶」で初鑄は1034年。4は北宋の「熙寧元寶」で初鑄は1068年。5は北宋の「元豐通寶」で初鑄は1078年。

4 まとめ

以上、本稿では検出した石組み井戸を中心に報告を行った。一般的に石組み井戸は平安時代後期以降に見られるとされる。京都市域では、昭和57年に国際武道センター建設に伴って実施された発掘調査で平安時代後期の石組み井戸が検出されている²⁾。この井戸は、人頭大の礫を用いて構築されており、石積みと掘方の断面形が上方に向かってハ字形に開く。これは、当時の技術水準では垂直に石を積むことが困難であった事に起因すると考えられる。

本報告の井戸は石積みの遺存状況が悪いものの、掘方の断面形や石材の大きさなどの点において類似した特徴を有する。埋土等からは宋銭や室町時代の土師器が出土しているものの、構造をみる限り古い要素も認められる。類例が少ない現段階においては、古い段階の石組み井戸を考える上での資料の一つになろう。(熊井 亮介)

註

1) 『妙覺寺城跡—平安京左京三条三坊七町・烏丸御池遺跡—』古代文化調査会 2013

「19 平安京左京三条三坊七町」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和55年度(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011

2) 「23 尊勝寺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和57年度(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984

Ⅲ - 1 平安京右京北辺三坊六町跡 (13H145)

1 調査の経緯

本件は、北区大將軍坂町町地内における大学寮建設に伴う調査である。調査地は、平安京右京北辺三坊六町跡に該当する。同町は、『捨芥抄』において、宇多上皇の後院「宇多院」の南東部にあったことが示されている。寮建設に先立ち、平成25年度に発掘調査¹⁾が実施されているが(図6・調査1)、発掘調査終了後の計画変更により、発掘調査範囲外で掘削を伴う部分が生じたため、今回補足調査を実施した。



図5 調査位置図 (1 : 5,000)

調査1では、飛鳥・奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代の大きく三時期の遺構が確認されている。飛鳥・奈良時代の遺構として、竪穴建物や掘立柱建物が検出されており、平安京遷都直前まで継続した集落と考えられている。一方、「宇多院」の時期である平安時代中期前半の遺構・遺物は少なく、その所在地や規模、機能については不確定な要素が多い。平安京右京衰退後、鎌倉時代～室町時代前期には耕作地として使用されていたが、

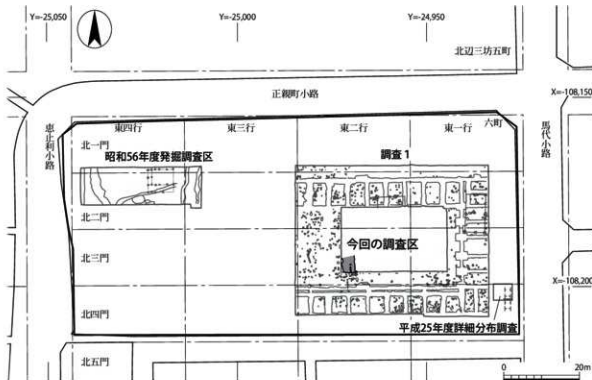


図6 遺構位置図 (1 : 1,000)

室町時代後期の16世紀初頭頃に耕作溝が埋められ、掘立柱建物や塀、井戸が構築されるなど、土地利用に変化がみられることが明らかになっている。

上記の成果を踏まえると、今回の調査位置においては、調査1で検出された飛鳥・奈良時代の掘立柱建物5及び鎌倉・室町時代の柱列1の延長部が検出されることが予測された。調査の結果、掘立柱建物5に伴う柱穴、および柱列1に並行する柱列を検出した。

2 層序と遺構・遺物

層序は、現地表面から-0.3～0.4mまで現代盛土で、-0.5mまで黒褐色シルトの遺物包含層が堆積する。遺物包含層の下層で0.1mほどの暗褐色シルト層が確認でき、さらにその下層がにぶい黄褐色シルトの地山となる。遺構は、暗褐色シルト層および地山上面で検出した。検出した遺構は、柱穴とピットである。

掘立柱建物5 (図9)

調査1で確認された奈良時代の掘立柱建物5の柱穴983(柱穴1)の北肩および柱穴2を検出した。掘立柱建物5は柱間1.6～1.7m、桁行3間・梁行1間以上の南北棟建物と想定されている。

柱穴1・2間の柱間は2.4mである。掘方は隅丸方形を呈し、一辺の長さ0.4m、深さは0.3mである。埋土は、黒褐色シルト～暗褐色シルトで、褐色～灰黄褐色シルトをブロック状に含む(図8)。柱間の距離がやや離れるが、平面形や埋土が共通する。柱穴2が掘立柱建物5に伴うと考えられ、桁行3間、梁行2間以上の建物に復元できる。遺物は出土しなかった。

柱列3 (図10・11)

調査区中央で確認した南北方向の柱列である。南北3間分を検出した。柱間は0.5～0.7mである。柱穴3でのみ礎石を確認した。掘方は円形か隅丸方形で、径0.2～0.3m、深さ0.15～0.25mである。埋土は灰黄褐色シルトで、埋土から室町時代の土器皿片などが出土した。調査1では、柱穴3の南延長線上で、礎石を持つ柱穴が確認されており、同一の柱列の可能性が高い。また柱列1が、柱列3の西約1.0mで確認されており、並行する柱列であると考えられる。

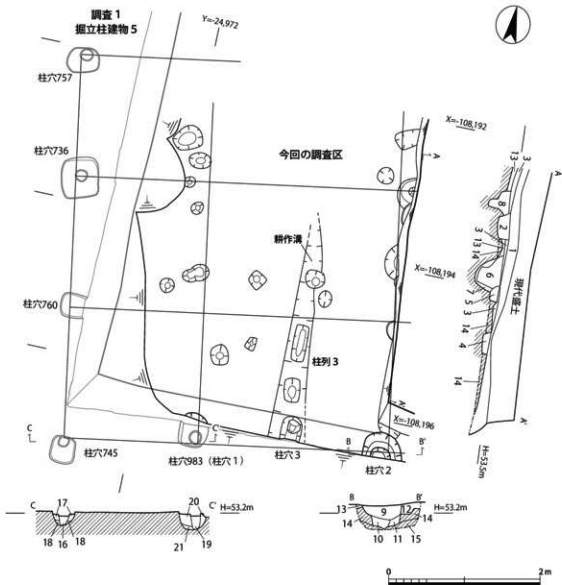
なお、柱列3は耕作溝を切って成立している。耕作溝が埋められた後に、室町時代後期の掘立柱建物や井戸などが成立することが既に明らかになっており、これと矛盾しない。



図7 調査区全景(南から)



図8 柱穴2断面(南から)



今回の調査区

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 10YR2/3 黒褐色シルト(土師器細片含む) | 8 10YR2/3 黒褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトをブロック状に含む) |
| 2 10YR2/3 黒褐色シルト | 9 7.5YR2/2 黒褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトをブロック状に含む)【柱穴埋土】 |
| 3 10YR3/3 暗褐色シルト | 10 10YR3/3 暗褐色シルト(10YR4/2 灰黄褐色シルトをブロック状に含む)【柱穴埋土】 |
| 4 7.5YR2/2 黒褐色シルト(直径1cm大の礫混) | 11 7.5YR3/2 黒褐色シルト【柱穴埋土】 |
| 5 7.5YR3/1 黒褐色シルト(直径1cm大の礫混) | 12 7.5YR3/3 暗褐色シルト(10YR4/6 褐色シルトをブロック状に多く含む) |
| 6 10YR2/3 黒褐色シルト(礫少量含む) | 13 7.5YR3/3 暗褐色シルト |
| 7 10YR4/6 褐色シルト(直径1cm大の礫混) | 14 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト【地山】 |
| | 15 7.5YR2/1 黒色シルト【地山】 |

調査1

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 16 10YR2/1 黒色シルト～細砂 | 19 10YR3/1 黒褐色シルト～細砂 |
| 17 10YR3/1 黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色シルトが混ざる | 20 10YR3/1 黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色シルトが混ざる |
| 18 10YR3/1 黒色シルト～細砂 | 21 10YR5/6 黄褐色細砂 |

※調査1 掘立柱建物5 平面図およびC-C断面図・土色は柱1の文献による

図9 掘立柱建物5 平・断面図(1:50)

3 まとめ

今回の調査は、調査1の補足調査であり、調査1の遺構の延長を確認することができた。

奈良時代の掘立柱建物5は、桁行3間、梁行2間以上の建物に復元できる。また、室町時代の柱列3を検出し、柱列1に並行することを確認した。

一方、確実に平安時代と考えられる遺構は、今回の調査区では確認することができなかった。調査1でも、平安時代の遺構・遺物が非常に少ないことが指摘されており、宇多院の実態については今後の課題である。

なお、調査1で確認された室町時代後期の円形石組井戸は、京都市内では最大級の規模で、現在でも湧水する貴重な井戸であることから現地保存されている。今年度、現地保存された井戸に、説明板が設置され、露出展示されていることを付記する。

(熊谷 舞子)

註

- 1) 『平安京右京北辺三坊六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-14 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2014

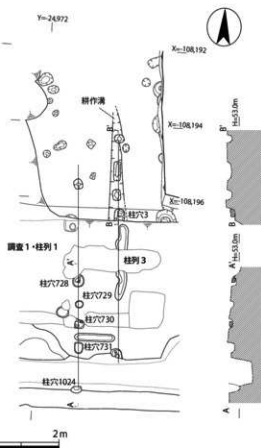


図10 柱列1・3 平・断面図(1:100)



図11 柱列3及び耕作溝の重複関係(南から)

Ⅲ - 2 平安京右京四条三坊十二町跡・

西院城（小泉城）跡（15H211）

1 調査の経緯（図12・13）

調査地は、四条通と西小路通の交差点より北東に位置する。平安京右京四条三坊十二町の南限付近に相当し、敷地の北端部を四条大路の北側築地塀の推定ラインが通る。

この町域は、隣接する四条三坊十三町とともに淳和院の諸領地と推測されているが、関連すると見られる明確な遺構は確認されていない。

平安時代後期になると、周辺では耕地化が進み、西院小泉庄が成立する。この小泉庄を地盤とする小泉氏が築いた城が西院小泉城で、西大路市場の西北にあったと推測されている（『山城名勝志』）。小泉城は室町時代まで存続しており、天文19年（1550）におこった細川晴元と三好長慶の争乱時には、城が三好側にあったと記されている（『言継卿記』）。また、翌々年（1552）には、城主である小泉秀清が自ら小泉城を焼き、破却したとされる。

現在、西院城の具体的な建物位置は明らかではないが、上杉本『洛中洛外図屏風』に描画されるとおり、西院城が当該地域に存在したことは確実視される。今年度、この区画において、店舗および共同住宅新築工事が計画されたため、詳細分布調査を行なった。調査日は、8月19日及び21日の2日間である。

2 層序と遺構（図14）

調査地は、西、南、東の三方が大きく削平をうけていたため、北壁の3箇所でのみ堆積状況を観察した（A～C地点）。主に近世包含層、中世包含層、平安時代包含層を確認している。

近世包含層 暗褐色～黒褐色礫混じりシルトを主体とする。しまりが悪く、径1.0m未満の礫や炭化物、陶磁器片、木片を多く含む。B地点1層からは、施釉陶器碗（図15-2）が出土した。

中世末包含層 黒褐色礫混じり粘土質シルト、黄灰色微砂混じり粘土質シルトを主体とする。炭化

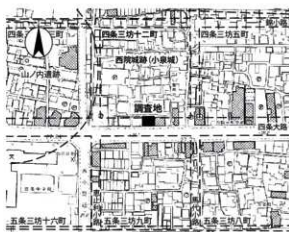


図12 調査位置図（1：5,000）

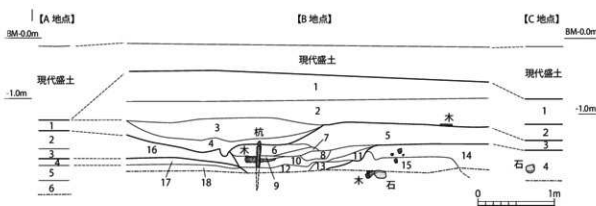


図13 遺構位置図（1：500）

物及び 16 世紀に製作時期をもつ土師器片を多く含む(図 15-3・4)。B 地点では、この層を除去した段階で南北方向へのびる溝を確認した。また、東方向への落込み(14・15 層)を確認した。

中世後期包含層 灰色粗砂混じり粘土質シルトを主体とする。礫や炭化物のほか、15 世紀に製作された土器片を少量含む。調査区西辺部にもみ存在する。

平安時代包含層 円礫とブロック土を含む粘土質シルト(A 地点 4・5 層・B 地点 17・18 層)と、その下に堆積するオリーブ黒色を呈する粘土質シルト(A 地点 6 層)を主体とする。A 地点 4 層と、B 地点 17 層は締まりが良く、整地土と考えられる。A 地点 5 層からは、平安時代の土師器皿・黒色土器碗(A 類)の破片が出土した。



[A 地点]

- 1) 2.5Y/3 黒褐色礫混じり粘土質シルト 径 2.0 cm未満の礫少量含む炭化物・土器多量入る やや締まり良い(近世)
- 2) 2.5Y/4 黄灰色微砂混じり粘土質シルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む炭化物・土器片入る 軟質
- 3) 5Y/4 灰色粗砂混じり粘土質シルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む炭化物・土器片入る 軟質(近世)
- 4) 5Y/3 オリーブ黒色礫混じり粘土質シルトに 5Y/3 灰オリーブ色シルトブロック 5%程度入る 径 2.0 cm未満の円礫少量含む 固く締まる
- 5) 5Y/2 灰オリーブ色粗砂混じり粘土質シルトに 5Y/3 灰オリーブ色シルトブロック 10%程度入る
- 6) 5Y/2 オリーブ黒色粘土質シルト 炭化物少量入る

[B 地点]

- 1) 10YR/3 暗褐色礫混じりシルト 炭化物・土器入る 締まり悪い
- 2) 10YR/2 黒褐色礫混じりシルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む やや軟質 締まり悪い(近世後半)
- 3) 10YR/3 暗褐色粗砂混じり粘土質シルト 炭化物・土器片入る 軟質 締まり悪い(中世末)
- 4) 2.5Y/1 黒褐色礫混じり粘土質シルト 炭化物・土器片多量入る 径 2.0 cm未満の礫少量入る(近世)
- 5) 5Y/1 灰色粗砂～微砂混じり粘土質シルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む 黒色化する部位あり 軟質
- 6) 2.5Y/1-4/2 黄灰～暗灰黄色微砂～細砂 ラミナを形成
- 7) 2.5Y/1 黒褐色微砂混じり粘土 径 1.0 cm未満の礫少量入る 軟質
- 8) 2.5Y/1 黄灰色粗砂と同色粘土の混合層 径 0.5 cm未満の礫少量含む 締まり悪い
- 9) 2.5Y/1 黄灰色粗砂と粘土の混合層 径 0.5 cm未満の礫少量入る 2.5Y/1 黄灰色微砂の流入あり 締まり悪い

- 10) 2.5Y/1 黄灰色細砂ブロックと 2.5Y/1 黄灰色粘土の混合層 径 0.5 cm未満の礫少量入る 軟質 締まり悪い
- 11) 5Y/1 灰色粘土ブロックと 5Y/3 オリーブ黒色粘土ブロックの混合層 軟質
- 12) 5Y/1 灰色粘土ブロックと 5Y/3 オリーブ黒色粘土ブロックの混合層 11 層よりオリーブ黒色粘土ブロックが主体 軟質
- 13) 7.5Y/3 オリーブ黒色微砂～細砂に 2.5Y/1 オリーブ黒色粘土ブロック 10%程度入る 締まり悪い 軟質
- 14) 5Y/1 オリーブ黒色粗砂混じり粘土質シルトと 7.5Y/1 灰色微砂混じり粘土質シルトと 7.5Y/2 オリーブ黒色シルトブロックの混合層 竹片・木片・炭化物・土器片入る
- 15) 5Y/1 オリーブ黒色微砂混じり粘土質シルト 径 2.0 cm未満の円礫少量入る 軟質 締まり悪い
- 16) 5Y/1 灰色粗砂粘土質シルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む 炭化物・土器片入る 軟質
- 17) 5Y/1 オリーブ黒色礫混じり粘土質シルトに 5Y/3 灰オリーブ色シルトブロック 5%程度入る 径 2.0 cm未満の円礫多く含む 固く締まる
- 18) 5Y/2 灰オリーブ色粗砂混じり粘土質シルトに 5Y/3 灰オリーブ色シルトブロック 10%程度入る

[C 地点]

- 1) 10YR/2 暗褐色礫混じりシルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む やや軟質 締まり悪い(近世)
- 2) 10YR/3 暗褐色粗砂混じり粘土質シルト 炭化物・土器片入る 軟質 締まり悪い(近世)
- 3) 5Y/1 灰色粗砂～微砂混じり粘土質シルト 径 1.0 cm未満の礫少量含む 黒色化する部位あり 軟質(近世)
- 4) 5Y/1 オリーブ黒色粗砂混じり粘土質シルトと 7.5Y/1 灰色微砂混じり粘土質シルトと 7.5Y/2 オリーブ黒色シルトブロックの混合層 竹片・木片・炭化物・土器片入る(近世包含層)

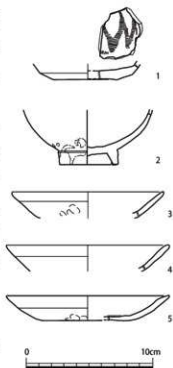
図 14 調査区北壁断面図(1:50)

溝1 B地点において南北方向に主軸をもつ溝を検出した。最大幅は2.0mを測る。西肩に杭が打ち込まれており、横木の存在も目視できる。杭は最大径5.0cmの一木材で、枝を削ぎ、先端部を尖らせる。転用した痕跡は認められない。横木は一部が炭化する。

溝の埋土は上下に大別できる。横木より下層（B地点8～13層）はシルトブロックの混合層で、人為的に埋め戻された土であると考えられる。一方上層（B地点6・7層）は黒色粘土と微砂～細砂で構成される流水堆積である。このため、溝1の埋没には少なくとも2時期あり、溝がある程度埋め戻された段階で、杭と横木が設置されたとみられる。また、上方で粗粒化が認められるため、溝は強い水流にさらされたことが想定できる。このため、西肩の杭と横木は、護岸を目的として設置されたと推測される。

遺構内より遺物の出土は確認できていないが、層序関係から溝上層の埋没時期は16世紀と考えられる。

落込み B地点の中央付近より東方向へ大きく下がる落込みである。図15 出土遺物実測図（1：3）埋土はシルトブロックの混合層で、土器片や炭化物、木片、礫が一定量含まれており、人為的に埋め戻された土であると考えられる。調査区東端に設定したC地点においても同様の層序を保つことから、大規模な落ち込み（もしくは東西方向の大溝）の痕跡である可能性がある。埋没時期は15世紀と推測される。



3 遺物（図15）

各包含層より遺物が出土した。1は、灰軸陶器の皿である。内面及び器壁外面に灰オリーブ色の灰軸を施す。底部外面は露胎する。13世紀の製品である。B地点の5層より出土した。2は、施軸陶器の碗である。内面及び器壁外面に濃オリーブ色の織部軸を施す。高台及び底部は露胎、高台畳付の一部に黒色軸が付着する。近世後期の製品である。3～5は土師器皿である。すべて破片での出土であるが、口径12～13cmに復原できる。3・4は、器壁外面に一段ナデを施し、口縁端部を丸く作る。16世紀の製品である。5は、やや器壁が厚く、口縁端部を外方に尖らせる。15世紀の製品である。

4 まとめ

今回の調査では、中世後期から近世初頭の遺構を検出した。平安時代に遡る明確な遺構は確認できなかったが、人為的に埋め戻された中世後期の溝と落ち込みは、16世紀に築城と破却が行われた西院城との関連が想起される。なお、昭和64年度に調査地より東へ100m隔てた地点で行われた試掘調査では、今回確認した溝1と同じく南北方向に主軸をもつ大溝が確認されている。ともに西院城との関係が注目される遺構である。

（黒須 亜希子）

IV - 1 特別史跡・特別名勝

鹿苑寺（金閣寺）庭園隣接地（15A004）

1. 調査の経緯

本件調査地は、相国寺の塔頭寺院である鹿苑寺の境内である（図16）。

鹿苑寺は、元仁元年（1224）西園寺公経が造営し伝領されていた西園寺と別業北山第を、応永四年（1397）足利義満が譲り受けて北山殿とし、義満の死後それが禅寺に改められたものである。

調査地点は境内の北東端部で、北方鷹峯の山塊から境内へ尾根が突き出す格好になっており、こ



図16 調査位置図（1:5,000）

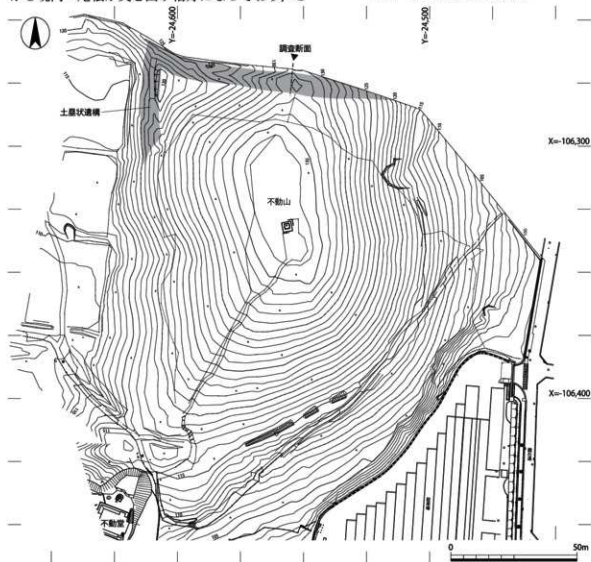


図17 不動山と土塁の位置（1:1,500）

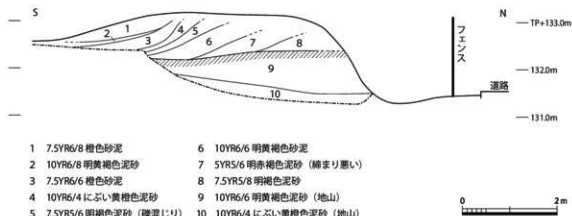


図 18 北辺土塁断面図 (1:80)

れが境内で一つの小丘を成すことから、不動山と呼ばれている (図 17)。

不動山は含利殿 (金閣) 附近との比高約 40 m を有し、山頂に至る小径があるほかは全域が雑木林に覆われている。現在その南西裾部を除き、特別史跡特別名勝の指定範囲にも、周知の埋蔵文化財包蔵地にも含まれていないが、この度管理道の設置が計画されたことに伴い、事前に現地を踏査したところ、山の北裾から西裾にかけて土塁状の盛土 (以下『土塁』という。) を確認した。

計画では、基本的に道路がこれに抵触しないよう配慮されていたが、唯一、外部との出入口となる箇所のみ、土塁を削平することが避けられないため、平成 27 年 9 月 28 日、詳細分布調査の一環として施工に立ち会うこととなった。

2. 遺構 (図 18)

削平地点は不動山の北裾で、北側の大文字山 (五山送り火の、左大文字の火床がある山) との間の鞍部に当たる。

土塁は尾根筋を跨いで東西に走っており、調査地点を最高所として、東 (洛中側) では次第に不明瞭になり、およそ 27 m 先で認められなくなるが、西へは明瞭な土塁が延びている。この東西土塁 (北辺土塁) のすぐ外側は敷地境界であるため、この土塁は一見境内北辺を画するものであるように見えるが、西への土塁は敷地境界ではなく不動山に沿って南へ折れ、そこから 50 m ほどのところで山腹にすりついて消えている。崩壊が進んでいる北辺東半を除けば概ね断面台形の土塁で、頂部には幅 1 ~ 2 m の馬路 (平坦部) を有す。

調査地点である北辺頂部では、基底部幅 7 m、高さ 1.8 m (外側地盤との比高) を測る。管理用通路の出入口はここを切断して設けられるため、施工に合わせて断面の観察を行った。その結果は次のとおりである。

土塁は、まず外に当たる北側の地面を約 1 m 切り下げて段を造り、次にこの段の上に積み土をして構築されていた。積み土は山土で、礫混じりの層を交えながら南下がりに積んでいる。この南下がりであることによって、外側から内側へ順に積んでいったことが判る。いずれの土も粘性は乏しく、特に厳き締められた様子もない。遺物が全く出土しなかったため、構築の年代は不明

である。また、工事掘削が現況地盤以下に及ばないため、土塁に附随する堀切の有無については確認できなかったが、現状の地形から見る限り、存在しないと見てよいだろう。

3. まとめ

本件土塁については、そのすぐ北側に昭和30年代に敷設された道路があるため、その工事残土を盛った可能性も視野に入れつつ調査に臨んだ。しかし、上述したとおり土の積み方に一定の規則性が認められ、それが山科本願寺や御土居など、中世京都における土塁築造手法と共通することから、これもその頃に遡るものと見て良いと思われる。

『大乘院寺社雑事記』によれば、鹿苑寺は応仁元年六月二十二日（1467/7/23）、同年一月に勃発した応仁・文明の乱に伴い、西軍が陣を置いたことで壊滅的な被害を受けている¹⁾。したがって、構えとしてのそれがあっても何ら不思議ではない。しかし、本件北辺土塁は尾根の鞍部に設けられているため、向き合う大文字山から攻撃された場合、堀切もないそれにさしたる防禦能力があるとは思えない。また、土塁は境内そのものではなく、不動山をL字形に囲むように造られているが、その不動山には曲輪のような城郭関連施設が全く存在しない。

現在不動山は単なる雑木林で、寺が作成した近世の境内図でも省かれているほどであるが²⁾、文安五年（1448）、相国寺の瑞溪周鳳に、最一檢校が義満時代の北山殿について語ったところによると、会所の東北の山上に看雪亭なる施設があったとい³⁾、赤松俊彦は大文字山または不動山をその山にあてている⁴⁾。これに限らず、贅を尽くしたという西園寺時代や義満時代の施設は、その位置をはじめとして不明なところが多く、本件「土塁」については、そういった時期の所産である可能性を含めて考えていく必要があるだろう。（堀 大輔）

註

- 1) 「一字も無為ならず」と記されるがこれはやや修辭的であって、金閣・石不動堂・護摩堂などは戦禍を免れている（赤松俊秀「寺史」『鹿苑』鹿苑寺 1955、後に『京都寺史考』法蔵館 1972 に再録）
- 2) 「北山鹿苑寺給図」寛政二年（1790）（鹿苑寺編『鹿苑寺と西園寺』思文閣出版 2004 に所載）
- 3) 『臥雲日件録』文安五年八月十九日（1448/9/19）条
- 4) 註1に同じ



図19 西辺土塁現状（南から）



図20 北辺土塁断面（東から）

IV - 2 植物園北遺跡 (10S134)

1. 調査の経緯と環境 (図 21)

本件は、大学校舎建築にともなう調査である。位置は、左京区下鴨南野々神町で、ノートルダム女学院・テレジア館の西にあたり、植物園北遺跡に該当する。同学院内の校舎建設については2010年6月28日に文化財保護法第93条1項に基づく届出が行われ、同年8月23日に試掘調査を実施した。この結果、遺構が残っていた範囲について2011～2013年に発掘調査が行われた。

これに対し、既存建物下は基礎が深く及び遺構面・包含層がほとんど遺存していなかったため、補足調査として詳細分布調査を行った。調査期間は2015年4月3～13日間のうち4日間である。結果、既存建物下は基礎により攪乱されており、遺跡が残っていないこと追認した。しかし、調査地東端北壁の一部では、地層が残存しており、1地点(A-A')で、竪穴建物の断面を検出した。

植物園北遺跡は、京都盆地の北端部、賀茂川東岸に位置する。北西から南東にむかって緩やかに傾斜する賀茂川扇状地上に拡がる弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡で、南北約1.4km、東西約2.1kmの広範囲におよぶ。古墳時代前期に盛行し、これまで確認された当該期の竪穴建物は100棟以上になる¹⁾。本件調査地のノートルダム女学院は、当遺跡の東端に位置し、上述の発掘調査では6ヶ所の調査区で古墳時代前期の竪穴建物13棟、古墳時代後期の竪穴建物3棟と掘立柱建物1棟、飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物2棟などが確認され、多くの成果が得られている。

2. 層序と遺構 (図 23)

本件は、ノートルダム女学院内の校舎建築に伴う補足調査で、竪穴建物は、A-A'地点の壁面、現地表面下(以下GL)1.1mの深度で検出した。当地点の基本層序は、GL-0.9mで現代耕作土、-1.0mで床土、-1.1mで黒褐色砂泥からなる竪穴建物埋土、-1.2mで黒褐色砂泥層、-1.3m以下に

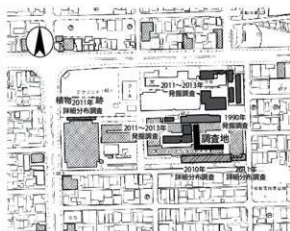


図 21 調査位置図 (1:5,000)

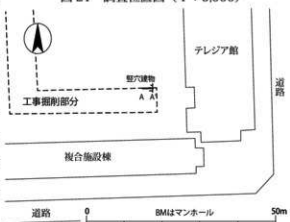


図 22 調査地点位置図 (1:1,000)

ぶい黄褐色泥砂・砂礫からなる地山であった。
 竪穴建物はGL-1.1mで、東西約2.3m分を検出した。深さは約0.2mである。図23の層4の下位には、層厚5～6cmの暗褐色粘土からなる貼床と東壁溝が確認できた。側溝の幅は0.2m、深さは0.1mで、埋土は黒褐色砂泥であった。西肩は攪乱と工事掘削の範囲外であったため確認できなかったが、北肩は今回工事の外側にあたり、遺構は現地に残っている。遺物は、細片のため図化しなかったが、竪穴建物埋土および壁溝から古墳時代前期のものと考えられる土師器片が出土した。

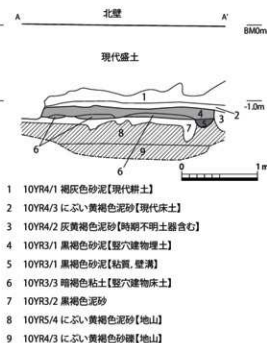


図23 遺構断面図(1:50)

3. まとめ

本件では、1棟だけではあるが竪穴建物を検出した。2011～2013年の発掘調査のまとめ(図24)によれば、学院の西側には谷が入り、集落は東側の安定した範囲にあったとされる²⁾。今回検出の竪穴建物はこの調査の空白地を埋める成果といえよう。(赤松 佳奈)

註

1) 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24(公財)京都市埋蔵文化財研究所2013

2) 註1と同じ

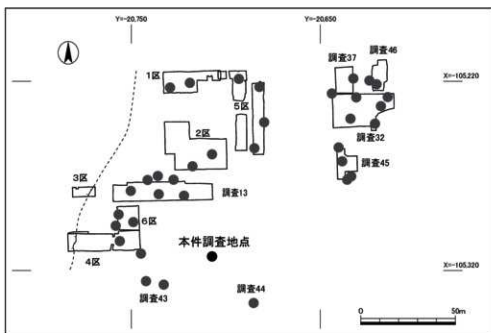


図24 古墳時代前期の竪穴建物検出地点(1:2,000) *註1)文献記載の図57をもとに作成

IV - 3 法観寺旧境内 (14S646)

1. 調査の経緯 (図 25)

本件は店舗建設に伴う調査である。調査地は京都市東山区八坂上町に位置し、法観寺五重塔の南隣接地にあたり、法観寺旧境内に該当する。

東山山麓に位置する法観寺は、八坂という地名が表すように、小丘上に位置し、当該地は周辺より一段高い平坦面上に立地する。敷地境界の南端は崖になっており、南隣接地との比高は約3mである。『八坂法観寺参詣受茶羅』によれば当該地には、法観寺旧境内を区切る築地や溝、

道路などがあったことが推測され、これらの遺構を確認することを目的として調査を行った。

現在の法観寺は臨濟宗建仁派に属する寺院で、別に八坂寺と号することから、五重塔は八坂の塔として広く親しまれている。創建については、聖徳太子が五重塔を建て仏舍利三粒を収めたのをはじまりとする説(『法観禪寺仏舍利塔記』)や、僧行基の建立とする説(『大法師淨藏伝』)などがあるが、確実な創建年代は、境内から出土する瓦から、白鳳時代と考えられている。寺の史料上の初見は『続日本後記』の承和4年(837)の記事で「八坂寺」と記される。『延喜大膳職式』では盂蘭盆供養料を下賜される七箇寺の一つに数えられており、平安時代には相応の寺格を有していた。塔は現在までに数度の火災を受けたが、源頼朝、後宇多天皇、足利義教の援助をうけて再建されており、京都にとって重要な建物であったことがわかる。江戸時代以降は、観光名所として多くの人々に親しまれた。現在の塔は室町時代に再建されたものだが、基壇は創建時のものを修造したことが後述の調査でわかっており、心礎は創建当初の位置を保っている可能性が高い。

法観寺旧境内での調査件数は、発掘調査2件、試掘調査1件、詳細分布調査2件と少ない。しかし、五重塔周辺で行われた発掘調査では貴重な成果を得ている。1977年に行われた最初の調査では、平安時代の土坑・柱穴が検出され、基壇の内部を調査した¹⁾。また同年の立会調査では、創建時の基壇版築を修造し現在の基壇が造られていることがわかった²⁾。出土した瓦の中には白鳳時代のものと平安時代のものがあり、創建が白鳳時代である可能性が高まった。2009年の二度目の調査³⁾では、白鳳時代の埴仏が出土した。また、この調査では平安時代後期の瓦類を含む厚い整地層が法観寺境内に広く分布していることが確認された。整地層は、出土遺物や規模から、建久2年(1191)に源頼朝の援助によって再建された時のものと捉えられている。

このように塔周辺に関しては、重要な知見が得られている。しかし、法観寺(八坂寺)の範囲や他の建物については、明らかになっている事は少ない。

こうした状況の中、今回の調査では、敷地境界に関する地層および遺構の一部を確認した。こ



図 25 調査位置図 (1 : 5,000)

れまでに、塔の南側で行われた調査成果（本件をいれて3件）を総合すると、鎌倉期の造成について若干の知見を得ることができた。以下に報告する。

2. 層序と遺構・遺物（図 26・27）

今回の調査は、原因者協力のもと、敷地に対して平行する幅0.8m、長さ7.2mトレンチを設定し、行なった結果、敷地の南側で、重層する整地層（層3～5）と、固くしまった面（3層上面）を確認した。整地層は現地地表-0.9m～1.5mで確認し、各層は層厚約10～15cmであった。最上層は褐色泥砂からなり固く締まっていた。層上面は幅約2.5mの範囲で明確な面をなしており、東西方向にのびると推定される。

今回確認した整地層の下には、人為的な盛土（6・7層）が続いていたが、掘削可能深度の限界に達しており、図示した地層よりも下層については確認できていない。遺物は、整地層中から平安時代末期の軒平瓦1が1点出土した（図26）。

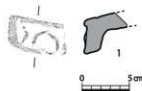


図 26 出土遺物 拓本・実測図 (1:4)

3. まとめ（図 28・29）

当該地では、地山を確認できなかったが、1998年に西隣で行われた立会調査では現地表面下-1.8～2.0mで地山を確認している。また1999年に行われた試掘調査では、南が低くなる谷地形と平安時代後期の瓦を含む土坑状遺構を検出している。

法観寺旧境内に残る現地地形の傾斜変換線を見ると、北東から南西にのびる小丘の稜線を利用していることがわかる。これに対し、当該地や西隣接地では厚い盛土層が確認されており、塔の南に

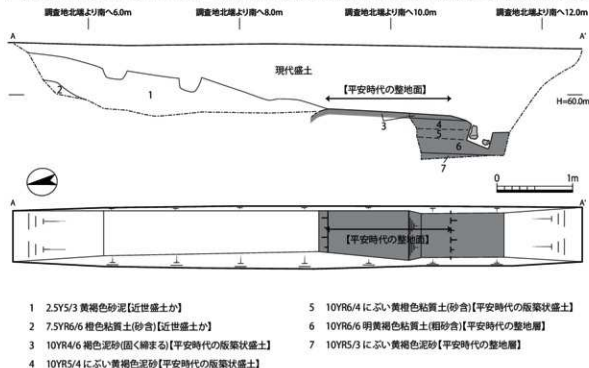


図 27 整地層 平・断面図 (1:50)

拡がる平坦面は造成によるものと推測が可能である。出土遺物がわずかなため検討を要するが、今回確認した造成は平安時代末期に行われたと推測でき、この時期には塔の南に平坦面がつくられ、通路や築地などの境界を限る施設があった可能性がある。(赤松)

註

- 1 『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和52年度(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011
- 2 『史跡法観寺旧境内』京都市埋蔵文化財調査研究所発掘調査報告 2009-11 (財)京都市埋蔵文化財研究所

2010

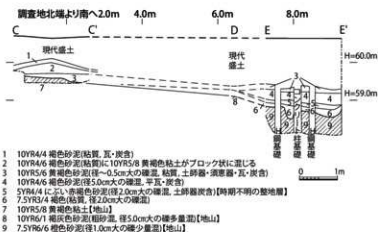


図28 1998年立会調査 断面図(1:1,000)

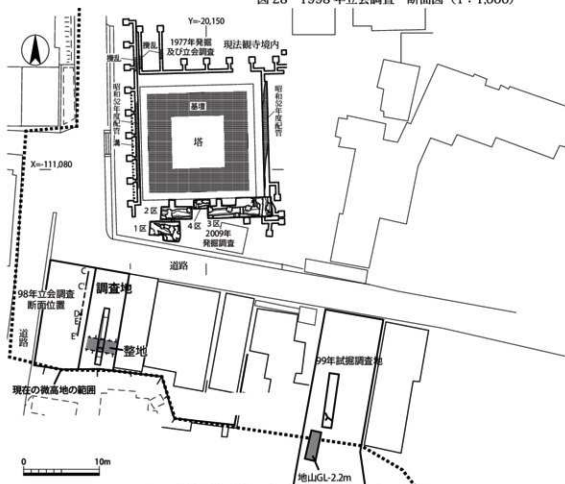


図29 法観寺旧境内の調査地と主な成果(1:500)

IV - 4 山科本願寺跡（寺内町遺跡）・

左義長町遺跡（14S612）

1. 調査の経緯（図30）

本件は、山科区西野離宮町ほかで計画された工場建設に伴う調査である。当該地は、周知の埋蔵文化財山科本願寺跡ほかに該当し、文化財保護法第93条1項に基づく届出を受けた。敷地面積約13,000㎡のうち約4,565㎡を対象に平成27年6月24日に試掘調査を行い、この結果、遺構密度が高い範囲については株式会社イビソクによって発掘調査が行われた（現在整理作業中）。発掘調査では、山科本願寺期の埋裏土坑群、焼土を含む溝ほか、東西方向の堀を検出



図30 調査位置図（1：5,000）

した。堀は幅5.5m、検出面からの深さ2.4m、断面形状は逆台形を呈する。本件は、この堀の延長を確認することを目的とし、平成27年7月および10月に、8ヶ所で断面観察を行った。

2. 層序と遺構・遺物

1) 層序と遺構（図31・32）

上述の調査の結果、敷地北東の2ヶ所堀の肩を検出した。また、敷地の東端では、堀埋土上面から成立する土坑を確認した。土坑からは、16世紀前半の遺物が出土した。この結果は発掘調査成果と矛盾しない。堀の肩を検出したA・B地点の基本層序は、GL-1.0mまで現代盛土、以下は黄褐色シルトからなる地山であった。埋土は、掘削深度の制限があるため、上部しか確認でき

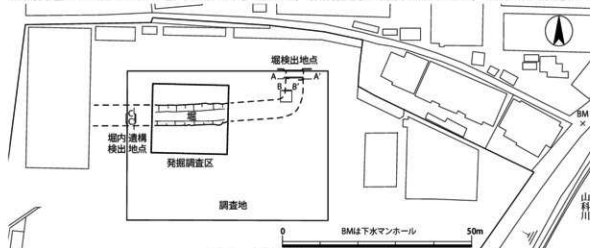
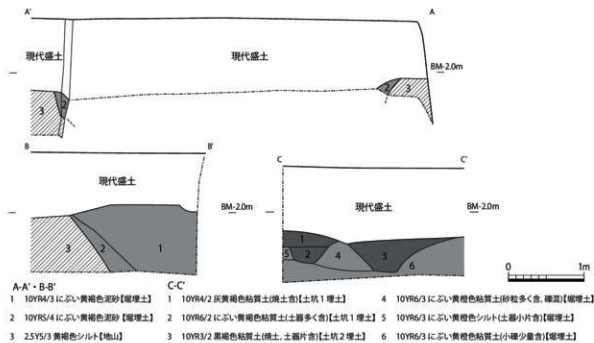


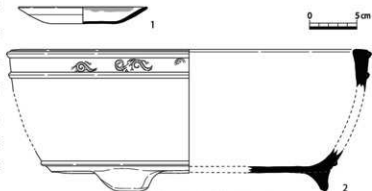
図31 遺構配置図（1：1,000）



なかったが、にぶい黄褐色砂泥であった。肩際と中央部分で二層に細分できた。堀断面が観察されたのは A・B 地点の北壁で、この事から堀は、発掘調査区から B 地点までの間に南北方向に屈曲していると推定される。これを裏付けるため、B 地点の西壁および南壁を精査したが、現代掘乱が深く及んでいたため、遺構・遺物は確認できなかった。埋土土と土坑を確認した C 地点では、GL-0.85m ~ 1.0m でにぶい黄褐色粘質土からなる堀の埋土を確認した。堀埋土は人為的に埋められており、いくつかの単位に細分された。堀埋没後に土坑が 2 基掘り込まれていた。土坑 1 の埋土は 2 層に細分でき、上層は焼土含む灰黄褐色粘質土、下層はにぶい黄褐色粘質土である。土坑 2 の埋土は焼土・土器片を含む黒褐色粘質土であった。

2) 遺物 (図 33)

C 地点の土坑 1 から土師器と瓦器が出土した。1 は土師器皿 S で口径 13.5cm、器高 1.8cm である。口縁部内面に油煙が付着している。2 は瓦器火鉢の円形浅鉢である。三方に脚が付く。口縁部外面に施された二条の凸帯間には唐草文の印判が連続して押される。出土量が少ないため詳細な時期は不明だが、16 世紀前半のものと考えられる。



3. まとめ (図 34)

山科本願寺は、広大な寺地とそれを囲う複雑な構造の土塁と堀を備えていたことがわかっている。最終的には「御本寺」・「内寺内」・「外寺内」で構成され、折れをもった防柵施設で囲われた

様子は、これまでの調査成果や文献資料から、いくつかの変遷を経た後の姿だと考えられるようになった¹⁾。平成 26 年度に「御本寺」内で行われた発掘調査では、現存する土塁の下にのびる堀を検出している²⁾。当該地で確認した堀は、現存する古絵図などから復元された、堀や土塁の推定範囲とは一致しない。本件でも確認した堀を切って成立する遺構は、山科本願寺期に該当することから、平成 26 年度の発掘調査成果のように、堀は、本願寺成立後の一時期に存在し、その後改変のため埋められたものと考えられる。(赤松)

註

- 1) 草野颯之「創建時の山科本願寺堂舎と土塁について」『中世寺院体制と社会』吉川廣文館 2002
 柏田有香「山科本願寺造営と堂舎配置～最新の調査成果より～」『京都府下の重要遺跡の再検討3』京都府埋蔵文化財研究会 2014
- 2) 「山科本願寺(2)」『京都市内遺跡発掘調査報告』平成 26 年度 京都市文化市民局 2015

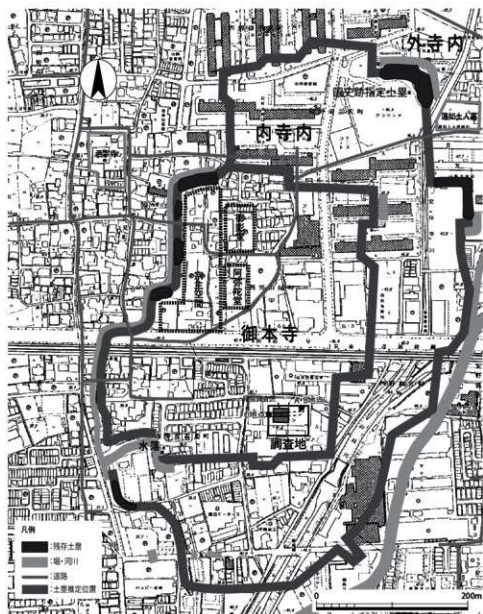


図 34 山科本願寺概念図 (1 : 5,000)

IV - 5 伏見城跡・指月城跡（14F529）

1. はじめに

本件は、マンション建設新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は伏見区桃山町泰長老に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地「伏見城跡」・「指月城跡」に該当する。平成26年度に実施した試掘調査（14F529）結果に基づき、H27年度に発掘調査¹⁾が行われ、伏見城の前身と考えられている指月城もしくは指月屋敷の存在を検討することのできる遺構・遺物が確認された。確認された遺構のうち、良好に遺存していた石垣については、設計変更が行われ、その大部分が現地保存されることとなった。しかし、建物構造上やむを得ず一部削平を受けるため、工事施行時に対象部分の補足調査として、詳細分布調査を行った。

伏見城は、甥の秀次に関白職を譲った豊臣秀吉が文禄元年（1592）に隠居所として現在の観月橋団地一帯に想定されている「指月」²⁾に屋敷を構えたことに始まる。翌年の文禄二年（1593）の秀頼の誕生を機に、この屋敷を城郭へと改築し始め指月城を築き始める。このことは、「秀吉公

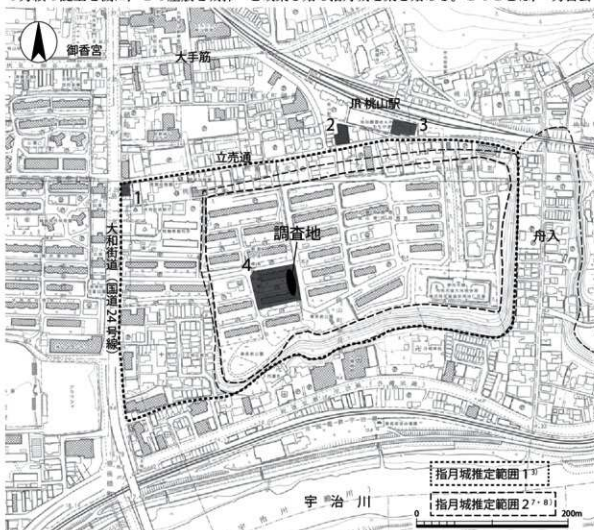


図35 今回の調査地と既存調査（1：5,000）

山城國伏見指月にかりそめに城をかまえ」という『慶長ト斎記』文禄三年の記載から読み取ることができ、また『駒井日記』や『上杉文書』の石田三成・増田長盛連署状の記載から、整備が城本体だけでなく、惣構も設けるほどの大規模なものであったことがわかる³⁾。翌年の文禄四年(1595)に秀吉が聚楽第の破却を命じたことを受け、これまで聚楽第周辺に屋敷を構えていた大名も秀吉の

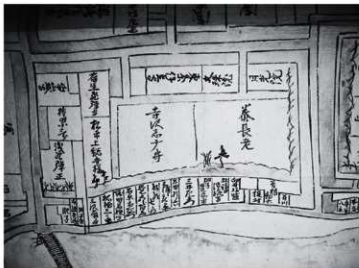


図 36 「伏見御城郭並武家屋敷取図」 調査地周辺

いる指月に屋敷を移している。しかし、慶長元年(1596)の大地震により指月城のほとんどが崩壊し、大名屋敷も倒壊するなどの甚大な被害を受けたため、翌年の慶長二年(1597)には木幡山を中心とした新たな城が築きかたれた。江戸時代の武家屋敷配置を示した「伏見御城郭並武家屋敷取図」(図 36)には、「泰長老」、「寺沢志ナ守」、「松平上総守様」など、大名の名が記載されていることから、地震で倒壊した指月城の跡地には大名屋敷が建ち並んでいたことがわかる。

このように文献史料の記載ではその存在は確認できるが、発掘調査などの資料は少なく、指月城に伴う資料として初めて指摘された事例は、2009年の詳細分布調査である⁴⁾。この調査では、地表下1.6～3.4mで高さ約2mの石垣の北西角が確認された。上面は崩れていたが、大型の石材が用いられた石垣が3段以上確認でき、この石垣の北側で水分を含んだ土層も確認された。この水分を含んだ土層を地表下約4.2mまで掘削したが、地山は確認できなかったことから、北堀の埋土であると考えられた。これを受けて、昭和62年度調査⁵⁾、平成11年度調査⁶⁾などが再検討された⁷⁾。また現状の地勢では、南には宇治川北岸の急な斜面、東には舟入と称される幅約100mの人工的に掘削された窪地があり、南辺と東辺については概ね推測されている。しかし北辺と西辺については大名屋敷地への改変時の造成もあり、その範囲は明らかではない。結果、現在の立売通が指月城の北辺にあたると考えられ、指月城の範囲が想定された(図35:推定範囲1)。この他、本丸部分を想定された範囲も示されている(図35:推定範囲2)^{7)・8)}。しかし指月城の内部構造については目立った遺構は検出されておらず、平成26年度発掘調査¹⁾が、指月城内部における初めての本格的な調査であり、今回の調査はこの調査に対する補足調査となる。

2. 層序と遺構(図37～39)

調査箇所は、本調査で確認されていた対象地東側に位置する石垣及び西側の石垣部分を中心に16か所である(図37)。このうち、8か所(№3・4・6・8・9・10・12・16)について報告する。
 №4 対象地南端断割り北側断面である。東側石垣の上面部の堆積状況も一部確認した。裏込め下

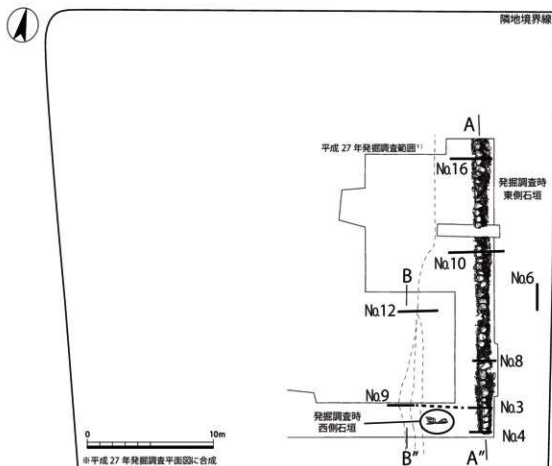


図 37 調査地点位置図 (1:300)

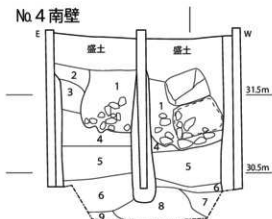
には、約 0.6～0.7 m の黄褐色～褐色粘質土が堆積する (No. 4-2～7)。この土層は礫や瓦片が多く含まれることから造成土であると考えられる。造成土下には粘性の強い砂礫混じり灰色粘質土 (No. 4-8・9) が堆積し、この土層からも瓦片を確認している。

Na. 3 対象地南端断割り北壁断面であり、Na. 4 に対する部分である。東側石垣の裏込めと造成土の一部である黄褐色粘質土を確認した。0.3～0.4 m 大の礫や瓦片を多く含む黄褐色～褐色粘質土の造成土が堆積する (No. 3-2～6)。この造成土下には粘性の強い砂礫混じり灰色粘質土 (No. 3-7・8) を確認した。断面観察では、黄褐色～褐色粘質土の造成土 (No. 3-4～6) が灰色粘質土 (No. 3-7・8) を掘り込むような断面形状をしており、堀の東肩と思われる。先行して行われた発掘調査で確認されている南北溝の東肩想定位置に近いことから、南北溝である可能性が考えられる。

Na. 9 対象地南側で調査した (Na. 3) の西側部分の北壁断面である。西側石垣の想定位置上にあたる。この場所で、東側に向かう裏込めと考えられる礫層 (No. 9-11) を確認した。この礫層の上には灰黄色泥砂、にぶい黄褐色砂質土などが西から東に落ち込む形で堆積している (No. 9-9・10)。No. 9-11 は発掘調査で確認された西側石垣の裏込め、No. 9-9・10 は西側石垣崩落後の造成土と考えられる。

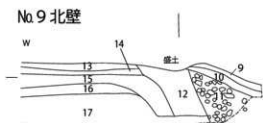
Na. 12 対象部分中央断割り部分の南壁断面である。先行する発掘調査時に堀埋土とされたオリ-

No.4 南壁



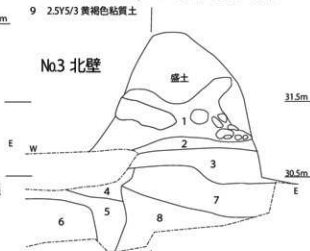
- 1 7.5YR4/4 褐色泥砂 (礫・石多量) 【裏込め】
- 2 7.5YR/8 明褐色シルト (φ1~2cm 大の礫多く含)
- 3 7.5YR4/3 褐色シルト (砂礫多く含)
- 4 10YR5/8 黄褐色泥砂 (φ3~5cm 大の礫・瓦含)
- 5 10YR5/6 黄褐色泥砂 (φ3~4cm 大の礫多量・瓦含)
- 6 10YR4/6 褐色泥砂 (φ3~4cm 大の礫多量)
- 7 7.5YR5/6 明褐色泥砂 (φ2~4cm 大の礫多量・瓦含)
- 8 5Y4/1 灰色泥粘質土 (φ3~5cm 大の礫・炭化物・瓦含)
- 9 2.5Y5/3 黄褐色粘質土

No.9 北壁



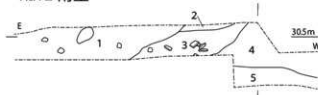
- 1 7.5YR4/4 褐色泥砂 (礫・石多量) 【裏込め】
- 2 10YR5/8 黄褐色泥砂 (φ3~5cm 大の礫・瓦含)
- 3 10YR5/6 黄褐色泥砂 (φ3~4cm 大の礫多量・瓦含)
- 4 10YR6/8 明黄褐色粘質土 (7層がブロック状に混じる)
- 5 10YR5/8 黄褐色粘質土 (φ2~3cm 大の礫含)
- 6 7.5YR5/8 明褐色泥砂 (φ2~4cm 大の礫・瓦含)
- 7 5Y4/1 灰色泥粘質土 (φ3~5cm 大の礫・炭化物・瓦含)
- 8 7.5YR6/1 灰色粘質土 (φ2~3cm 大の礫・瓦含)
- 9 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 (φ3~5cm 大の礫含)

No.3 北壁



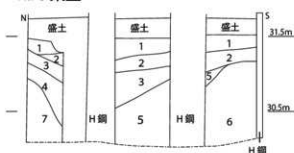
- 10 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 (礫多量・固く締まる)
- 11 10YR4/4 褐色φ3~10cm 大の礫 (小礫混)
- 12 7.5YR5/8 明褐色泥砂 (粗砂混・φ3~5cm 大の礫含)
- 13 7.5YR4/4 褐色泥砂 (粗砂混・φ3~10cm 大の礫含)
- 14 7.5YR4/4 褐色泥砂 (粗砂混・φ5cm 大の礫多量)
- 15 7.5YR4/3 褐色泥砂 (粗砂混・φ3~10cm 大の礫混)
- 16 10YR5/8 黄褐色泥砂 (粗砂混・φ3~5cm 大の礫混)
- 17 7.5YR5/6 明褐色泥砂 (粗砂混・φ3~5cm 大の礫多量)

No.12 南壁



- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土質シルト
2.5Y6/2 灰黄色粘土ブロック 5% 程度含
(炭・φ3cm 未満の礫多く含・締まり良い)
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト
(細かい土器片含・締まり良い)
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色礫混じりシルト (瓦多く含)
(一辺 3cm 程度の角礫少量含・やや締まり悪い)
- 4 2.5Y5/4 黄褐色礫混じりシルト (人拳大の礫多く含)
(2.5Y5/6 黄褐色粘土ブロック 10% 程度含)
- 5 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土質シルト
(φ3cm 未満の礫少量含)

No.6 東壁

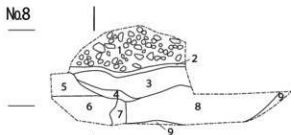


- 1 7.5YR6/8 褐色泥砂 (φ3~5cm 大の礫多く含)
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂 (φ3~5cm 大の礫多く含・粘質)
- 3 10YR4/4 褐色粘質土 (瓦・φ5cm 大の礫含)
- 4 10YR5/6 黄褐色粘質土 (φ3~5cm 大の礫含・φ10cm 大石も含)
- 5 N5/0 灰色粘質土 (金箔瓦・φ5~10cm 大の礫含)
- 6 N4/0 灰色粘質土 (φ3~4 cm 大の礫含・瓦多量)
- 7 5Y5/1 灰色粘質土 (φ3~5cm 大の礫含)



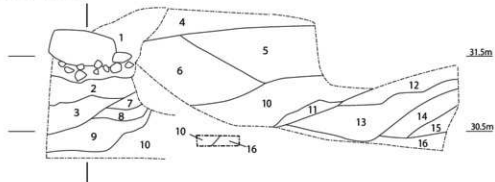
図 38 調査地断面図 I (1 : 50)

No.8



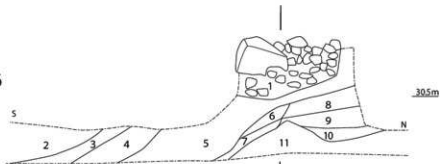
- 1 石垣裏込
- 2 7.5YR5/8 明褐色泥砂 (φ2-3cm 大の礫混)
- 3 10YR5/8 黄褐色泥砂 (φ3-5cm 大の礫混)
- 4 10YR6/8 明黄褐色粘質土
(2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土をブロック状に含)
- 5 7.5YR6/8 橙色泥砂 (φ3cm 大の礫混)
- 6 7.5YR5/8 明褐色泥砂 (φ2-3cm 大の礫, 瓦含)
- 7 10YR5/4 にふい黄褐色粘質土 (φ2-3cm 大の礫混)
- 8 7.5YR5/8 明褐色泥砂 (φ2-3cm 大の礫, 瓦含)
- 9 5Y4/1 灰色粘質土 (φ5cm 大の礫, 瓦含)

No.10・No.10+



- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土ブロックと
10YR3/4 暗褐色砂泥ブロックの混含【裏込】
- 2 10YR4/4 褐色礫混シルト (瓦含)
- 3 10YR3/3 暗褐色礫混泥砂 (瓦多量)
- 4 10YR5/6 黄褐色泥砂 (φ3-5cm 大の礫混)
- 5 10YR6/8 明黄褐色泥砂 (φ3-6cm 大の礫多量・瓦含)
- 6 7.5YR5/6 明褐色砂泥 (φ2-3cm 大の礫・瓦含)
- 7 7.5YR4/6 褐色礫混泥砂
- 8 7.5YR4/4 褐色礫混泥砂 (粘土ブロック・炭含)
- 9 7.5YR4/4 褐色粗砂混シルト (粘土ブロック・炭含)
- 10 7.5YR5/4 にふい褐色粗砂混シルト (礫・粘土ブロック含)
- 11 7.5YR5/8 明褐色泥砂に
10YR5/1 褐灰色粘質土が部分的に混じる
- 12 7.5YR5/1 灰色粘質土 (瓦・木片・φ5cm 大の礫混)
- 13 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土 (φ3-5cm 大の礫・瓦含)
- 14 2.5Y/3 黄褐色粘質土 (12・13 層より粘性強い, φ3cm 大の礫混)
- 15 2.5Y/4 黄褐色粘質土に 5GY5/1 オリーブ灰色粘質土が
ブロック状に混じる
- 16 N4/0 灰色粘質土
(14・15 層より粘性強い, φ5cm 大の礫・瓦含)

No.16



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 (礫混)【裏込】
- 2 5YR4/4 にふい赤褐色粘質土 (礫混)
- 3 5YR4/1 褐灰色粘質土 (礫混)
- 4 5YR4/6 赤褐色粘質土 (炭化物・礫混)
- 5 7.5YR5/6 明褐色粘質土
(細砂・小礫少量混, 締まり有り)
- 6 7.5YR5/4 にふい赤褐色粘質土 (粘性やや有り)
- 7 7.5YR4/6 褐色粘質土 (締まり有り)
- 8 7.5YR5/4 にふい褐色粘質土に灰色粘土がブロック状に混じる
(瓦・礫多く含)
- 9 7.5YR5/4 にふい褐色粘質土に灰色粘土がブロック状に混じる
(礫やや多い)
- 10 7.5YR5/4 にふい褐色粘質土に灰色粘土がブロック状に混じる
(砂礫多く含)
- 11 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土 (粘性強い)



図 39 調査地断面図 2 (1:50)

ブ褐色粘土質シルトを主体とする層 (No 12-1) の下に、オリーブ褐色粘土質シルト層 (No 12-2)、瓦片を多く含むオリーブ褐色礫混じりシルト層 (No 12-3) を確認した。これらはすべて西から東へ向かって傾斜する。一方、その基盤層となる黄褐色礫混じりシルト層 (No 12-4・5) は、西へ向かって徐々に傾斜する。土層観察から No 12-1～3 は、No 9-9・10 に対応するものと考えられる。

No 6 対象地東壁 (矢板部分) 東壁断面である。盛土以下、礫を含む橙色泥砂やにぶい黄褐色泥砂の造成土 (No 6-1～5) を挟み、礫を含む灰色粘質土 (No 6-6・7) を確認した。No 6-6・7からは金箔瓦が出土している。

No 8 東側石垣の裏込めと石垣構築時の掘り込み (No 8-2～4)、石垣構築前の造成土 (No 8-5～8)、その下層に粘性の強い砂礫混じり粘質土 (No 8-9) を確認した。No 8-2～4 では桐木などは確認できなかった。断面観察から石垣下を掘り込み、粘土ブロック混じり粘質土で地盤改良を行い、石垣を構築していると考えられる。

No 10 東側石垣から対象地東側にかけての断割り北壁断面である。東側石垣とこれに伴う裏込め、石垣構築前の造成土 (No 10-2～10) 及びその下層に木片なども少量含む粘性の強い砂礫混じり粘質土 (No 10-11～16) を確認した。石垣構築前の造成土からは金箔瓦を含む多くの瓦が出土している。

No 16 対象地北側中央部の東側石垣の断割り北壁断面である。東側石垣と裏込めの下に、同一方向に堆積する礫が多く含まれる造成土 (No 16-2～10) を確認した。この造成土下に暗オリーブ灰色粘質土 (No 16-11) が堆積する。石垣裏込め直下にあたる造成土から桐文の金箔瓦などが出土している。

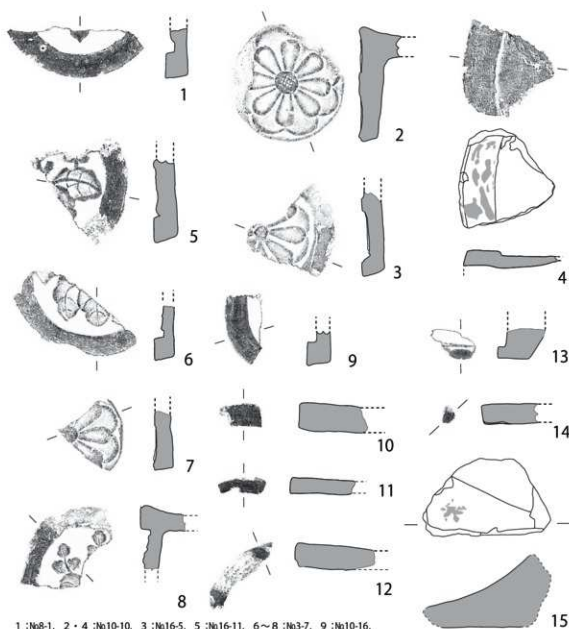
このように、東側石垣、東側石垣裏込め、東側石垣構築前の造成土、西側石垣裏込め、西側石垣崩落後の造成土を確認した。また東側石垣構築前の造成土は、礫や瓦片を含む黄褐色～褐色粘質土 (造成土 1) と瓦片を含む粘性の強い砂礫混じり灰色粘質土 (造成土 2) の大きく 2 つに区分でき、いずれの層も東から西へ落ち込むような土層堆積が確認できる。

3. 遺物 (図 40)

出土した遺物はコンテナ約 2 箱である。いずれも瓦片で土器類は確認できなかった。出土した瓦は軒丸瓦、丸瓦・平瓦・飾り瓦の破片が大半である。このうち 15 点の金箔瓦を報告する。

1 は東側石垣の裏込め (No 8-1) から出土した軒丸瓦である。文様の残存から桐文の葉端部と思われる。周縁のみ金箔を貼る。2～4 は東側石垣下の造成土 1 (No 10-10, No 16-5) から出土した。2・3 は軒丸瓦である。2 は 8 葉 2 重の菊文で周縁はない。花卉の中央は少し凹む。中房はやや大きく、格子目状の范痕が確認できる。8 葉 2 重の菊文部分に金箔を貼る。3 は 8 葉 2 重の菊文で周縁を施す。周縁に金箔を貼る。4 は飾り瓦の一部と考えられる。周縁に金箔を貼る。

5～15 は東側石垣下の造成土 2 (No 16-11, No 3-7, No 10-16, No 6-6, 掘削時 (No 10-7, No 6-5 に相当)) から出土した。5～9・13 は軒丸瓦である。5・6 は桐文である。3 枚の葉は葉脈



1 :No8-1, 2・4 :No10-10, 3 :No16-5, 5 :No16-11, 6~8 :No3-7, 9 :No10-16,
10~12 :No6-6, 13~15 :掘削時 (No10-7, No6-5 に相当する。)

※石椁裏込め (1), 石椁造成立主に黄褐色 (2~4), 石椁造成立主に灰色粘質土 (5~15)

図 40 出土遺物 (1 : 4)

がはっきりと確認でき、葉同士は一部重なりあう。5は周縁と凸部分に、6は周縁に金箔を貼る。7は8葉2重の菊文で周縁はない。花卉の中央は少し凹む。中房部分は摩滅しているが、やや凹凸が残り、格子目状の范痕である可能性がある。瓦当の凹部分に金箔を貼る。13は周縁と凹部分に金箔を貼る。8は桐文である。周縁と瓦当の凹部分に漆が残ることから金箔が貼られていたと考えられる。瓦当裏面から丸瓦凹面の接合付近は円上にナデを施す。9は周縁の一部であり、周縁のみに金箔を貼る。10~12・14は丸瓦である。縁に金箔が一部確認できる。13は飾り瓦である。5面の平坦面ともつ角錐形であり、両端部は破面となるため、全様は不明である。側面には漆と思われる痕跡と一部には金箔を貼る。

4. まとめ

今回の調査では、先行する発掘調査で確認された調査地東側の石垣及び西側の石垣部分の断割り調査を行った。部分的な調査であるため事実整理をすると、①西側石垣の裏込めが確認できたこと、②西側石垣の上面が崩れ、その上面を造成土が覆っていること、③西側石垣が地山を掘りこんで構築されていること、④西側石垣は№12地点で確認できなかったことから、これより北側には存在しない可能性が高く、また西側では地山を確認したことから、西に折れる可能性も低いこと、⑤東側石垣を構築するための造成土中（造成土1・2）に桐文などの金箔瓦が含まれること、を確認した。先行する調査成果と踏まえると、A：西側石垣が構築され、この石垣が崩れた後、上面を造成していること、B：東側石垣は水分を多く含む造成土2（粘性の強い砂礫混じり灰色粘質土）の上に、地山に近い造成土1（瓦片を含む黄褐色～褐色粘質土）を盛り、その後、石垣を構築する。その際、根石の下には桐木の代わりに栗石を用いていることが分かった。

残念ながら、東側石垣と発掘調査時東側石垣の西に並行して存在していた南北溝（堀）との関係、及び東側の石垣と西側の石垣の関係については、重複関係などを明確にすることはできなかった。しかし、②と③は、地震により崩壊した様相、⑤は、金箔瓦を使用した構築物が存在していた時期より後に造成されたことを示している可能性があることから、西側石垣が地震（慶長の大地震）前の指月屋敷もしくは指月城に伴う石垣、東側石垣は地震後の大名屋敷に伴う石垣という変遷を考えることができる。

指月城内部の本格的な調査は、平成27年度に行われた発掘調査と今回の調査のみであり、この一連の調査は、指月城を検討するに非常に意味のある調査であると考えられる。しかし南北約250m、東西約500mの12.5ha（125,000㎡）と推定される範囲⁹⁾の、ごく一部を調査したに過ぎない。急速に答えを求めず、今後も調査を進め、その様相を確実に明らかにしてゆくことが必要であると考える。

（奥井 智子）

註

- 1) 『伏見城跡（指月城）発掘調査』現地説明会資料 有限会社京都平安文化財 2015
- 2) 「城州伏見其外所々火出之図慶応四年正月三日鳥羽伏見の戦火災」や「慶応四年正月三日鳥羽伏見火災」に豊後橋の北東に「指月山」と記載がある。
- 3) 『京都府中世城館跡調査報告書』第3冊—山城編1— 京都府教育委員会 2014
- 4) 「11 伏見城跡（09FD133）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成21年度 京都市文化市民局 2010
- 5) 「46 伏見城下町」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和62年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991
- 6) 「23 伏見城跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』平成11年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002
- 7) 「伏見・指月城の復元」『リーフレット京都』№261（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 2010
- 8) 『豊臣秀吉と京都—聚楽第・御土居と伏見城—』日本史研究会 2001
- 9) 推定範囲1で算出。

IV - 6 伏見城跡・指月城跡 (14F018)

1 調査経過 (図 41・42)

本件は、伏見区桃山町秦長老所在の桃山国有林における災害復旧工事に伴う調査である。調査地は、伏見城跡および指月城跡に該当する。指月城の南端にあたり、宇治川によって形成された段丘崖である。

指月城は、現在の桃山町秦長老に所在する指月山に、豊臣秀吉が築いたとされる城である。慶長元年(1596)の大地震により木幡山へ城が移って以降は、屋敷地となっていた。今回の調査地は、戦前から金箔瓦を中心とした瓦の散布地として知られており、採集瓦が紹介されている¹⁾。

調査は、掘削工事にともない2014年9月22日から2015年8月14日まで、計9日実施した。調査の結果、調査地西側の2地点(No.1・2地点)で、伏見城期の土坑2基を確認した。

2 層序と遺構 (図 44)

No.1地点の層序は、盛土直下のGL-0.7mにて明黄褐色砂礫の地山となる。地山上面で成立する土坑の東肩を確認した。規模は、深さ1.4m以上、幅0.7m以上で西肩は調査区外に広がる。平瓦が出土した。

No.2地点の層序は、盛土以下、部分的に10～20cmほど明黄褐色砂礫層が確認でき、GL-0.5mで橙色粗砂の地山となる。地山上面で成立する土坑の東肩を確認した。規模は、深さ1.9m以上、幅2.2m以上で、西肩は調査区外に広がる。軒丸瓦(金箔瓦)が出土した。



図 41 調査位置図 (1 : 5,000)



図 42 遺構検出地点位置図 (1 : 1,000)



図 43 No.2地点出土軒丸瓦 (1 : 4)

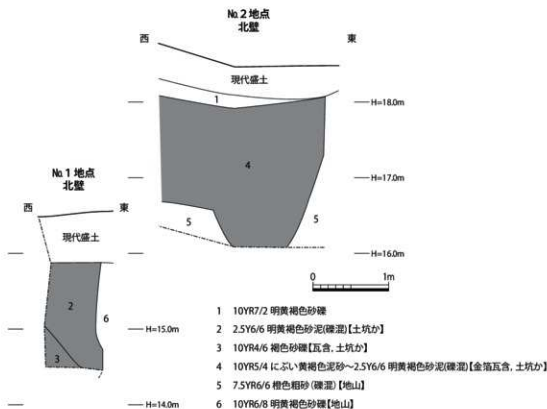


図 44 No. 1・2 地点断面図 (1:50)

3 遺物 (図 43)

No.1 地点の土坑から平瓦が、No.2 地点の土坑から軒丸瓦が出土した。いずれも織豊期の瓦と考えられる。1 は、No.2 地点出土の巴文軒丸瓦である。外縁と内区の珠文に金箔が残る。瓦当と丸瓦の接合部で剥離しており、接合部には布目の凸型痕跡が残る。丸瓦部凸面は、縦方向に磨きがかかれ、燻しがかかる。

4 まとめ

今回の調査では、伏見城期の土坑 2 基を確認した。調査地は傾斜地に位置するため、石垣などに関連する遺構の可能性も考えられるが、断面観察にとどまり詳細は不明である。調査地近辺では、現在も瓦が採集できることから、今回確認した遺構以外にも遺構が残存している可能性は高い。今後の周辺での調査と合わせて検討を行う必要がある。

(熊谷 舞子)

註

- 1) 星野猷二ほか『器瓦録想 其の二 伏見城跡』
伏見城研究会 2006



図 45 No.2 地点断面 (南から)

Ⅳ - 7 長岡京左京九条三坊三・四・六町跡・ 淀水垂大下津町遺跡（14A004）

1. はじめに

調査地は、京都市伏見区淀水垂町にある桂川西岸の中州状の低地である。当該地は、延暦3年（784）に桓武天皇が遷都した長岡京跡の南端部近くに位置しており、また古代から近世にかけて淀津及び興杼神社周辺の集落として発展した淀水垂大下津町遺跡にも該当している。

当該地を含むこの低地は、国土交通省の河川改修計画に伴い平成24年6月4日～8日、11月12日～21日に試掘調査（図46：11NG438）が行われており、興杼神社旧境内に伴うと考えられる石組遺構（3区）、石列（7区）、並びに護岸跡（9区）等を検出している。

今回、これらの遺構を検出した東隣接地において、平成26年11月19日及び平成27年2月9日に詳細分布調査を実施した結果、江戸時代に遡ると考えられる護岸跡等の遺構を確認したことから報告する。

2. 発見の経緯と出土遺構

平成25年9月16日前後に京都を含む各地に甚大な被害をもたらした台風18号の影響により、当該地を含む桂川西岸低地にあった近現代の護岸施設が流出した。この流出地点において、堤状の遺構が存在することを大阪府高齢者大学の歴史考古学科講師である植田正幸氏が発見し、京都市考古資料館へ平成26年10月に連絡された。考古資料館の山本副館長から文化財保護課へ報告があり、同年11月17日に植田氏と協議した結果、19日に植田氏同行の上、現地の詳細分布調査を行った。平成27年2月9日にも現地調査を行った結果、護岸に伴う遺構群を検出した。

今回確認した護岸関連の遺構は、宮前橋の南北両側に残存するが、宮前橋南側の残存状況は悪く、台風以降、毎年繰り返される洪水により崩壊が進行している。

地点①（図47）大きく水流によって削られた断面に木杭が並ぶ。木杭上部には川側に崩落しつつある石積が認められる。岸の上端近くに長径30cm前後、厚さ5～15cmの板石を積み上げた石積が残存しており、手前の崩落しつつある石積に時期的に先行する可能性がある。

地点②（図51）石積が最も良好に残存する部分で、長径20～50cmの方形の石材を積み上げ、一列に配している。この石積の前方に多量の石材が一定の幅で認められる。これは、水流が直接石積にあたらないように護岸捨石として石積の前方に置かれた可能性が高い。

地点③（図48）地点②よりも石材は小ぶりであるが、方形石材を積み上げ、一列に配した石積がある。この石積の前方には護岸捨石として用いられたと考えられる多量の石材がある。

地点④（図49）護岸捨石と考えられる多量の石材の前方に木杭列が認められる。木杭列は護

岸用の石材や土砂を留める機能を有するが、水流に杭がさらされている現状から、本来の機能は既に失われている。

地点⑤（図50）水際から数m内陸側に入った位置で認められた石積である。径20～40cmの石を2～3段積み上げた上に、径60cm以上の大型の石材を1段載せた石積である。通常、下層は大ぶりで上層は小ぶりの石材を用いることが多いが、この石積は逆の積み方をしており、単なる

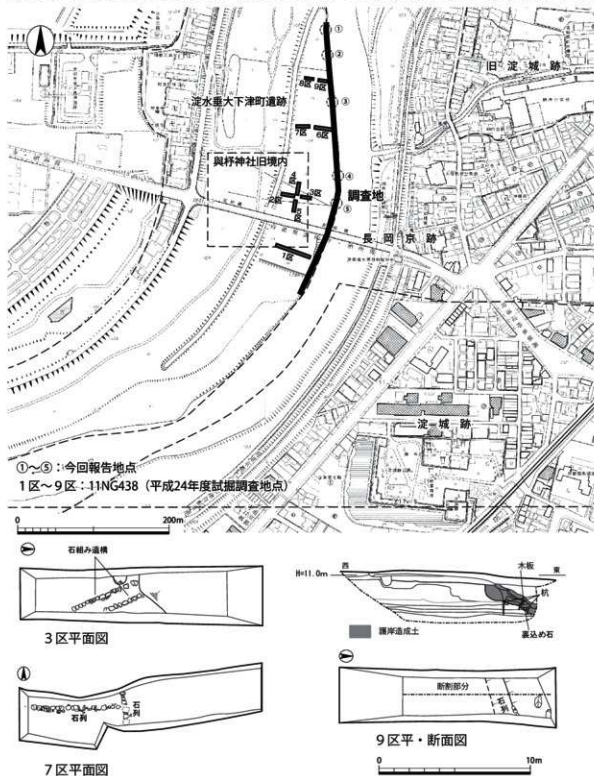


図46 上段：調査位置図（1：5,000）、下段：11NG438各区平・断面図（1：250）



図 47 ①地点 杭列及び石積（南東から）



図 48 ③地点 石積と護岸捨石（南東から）



図 49 ④地点 杭列及び護岸捨石（南から）



図 50 ⑤地点 石積（南東から）

護岸ではない可能性がある。

4. まとめ

今回検出した石積や護岸捨石は、明治33年（1900）に移転するまで、この地にあった與杼神社及び神社北側に展開した集落に関連する遺構と考える。昭和50年（1975）8月5日に焼失した與杼神社本殿と移転先に現存する拝殿は、ともに豊臣秀頼が慶長12年（1607）に再建したものとされており、少なくとも江戸時代初期にはこの地に鎮座していた。立地上、数度の災害を経たと考えられるが、最初期の石積はその頃まで遡る可能性がある。（馬瀬智光）

註

- 1) 「Ⅵ 試掘調査一覧」No.125・126『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度 京都市文化市民局 2013



図 51 ②地点 石積と護岸捨石（北から）

調査一覧表

I 2015年 1～3月期(平成26年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
兵衛野・大蔵宇・ 圖書寮・宣松原・ 武徳殿跡、 鳳凰遺跡	上・下ノ森通、一条通～下立先通 地内	14/10/8～ 31, 11/13～ 26, 15/1/20～ 27, 2/4～ 20	No.2: GL-0.26mまで盛上。GL-0.32mまで灰褐色泥砂の時期不明包含層。-0.41mまで黄色砂礫の地山。No.3: GL-0.33mまで盛上。-1.07mまで石組遺構(階段の可能性)。-1.36mまで黄褐色シルト。No.4: GL-0.8mまで盛上及び乱瓦。-0.95mまでにふい黄褐色砂礫の地山。	14K198	HQ 261	1
大蔵者跡隣接地	上・伊勢殿横町270-3	1/15	GL-0.5mまで盛上。-1.06mまで灰黄褐色泥砂の平安包含層(平瓦)。	14K495	HQ 379	1
磯殿京跡、 聖堂第跡	上・淨福寺通上長者町下る長谷町 196-3	1/19・20・ 26	GL-0.12mまで盛上。	14K450	HQ 383	1
内裏跡隣接地	上・下立先通千本東入中務町490-86	3/5	GL-0.13mまで盛上。	14K577	HQ 437	1
内裏跡隣接地	上・下立先通千本東入中務町490-87	3/5	GL-0.17mまで盛上。	14K578	HQ 438	1
右兵衛野跡、右京 一条二坊五町跡	上・御前通下立先上る天満屋町 地先	3/30・31	GL-1.25mまで現代攪乱。-1.6mまで褐色砂礫(地山の可能性)。	14K627	HQ 464	1・9
内匠寮跡、 鳳凰遺跡	中・西ノ京左馬寮町25-9	3/13・16	GL-0.85mまで盛上。	14K545	HQ 447	1
聖楽院跡	中・西ノ京内堀町1-7	1/19	GL-0.57mまで盛上。-0.71mまで黄灰色砂質土の近世包含層。	14K439	HQ 382	1
聖楽院跡	中・聖楽庭南町8-21	2/10	GL-0.47mまで盛上。	14K211	HQ 409	1
新堂院跡、 聖楽遺跡	上・土桜町1165 地先 (千本丸太町バス停 南行)	2/13	GL-1.3mまで埋設管による攪乱。	14K513	HQ 412	1
太政官跡、 聖楽遺跡	上・竹屋町通千本東入土桜町1103	1/9	GL-0.37mまで盛上。	14K466	HQ 373	1
御井跡	中・西ノ京車町12-4	2/6	GL-0.35mまで盛上。-0.5mまで暗褐色泥砂(旧耕作上の可能性)。	14K502	HQ 404	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町8-60, 8-61	1/23	GL-0.3mまで盛上。	14K240	HQ 392	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町、 三坊一町跡、 内膳町遺跡、 一条室町殿跡	上・元真如堂町 地先	1/21・27・ 28, 3/25, 4/2・6・ 28, 5/20	GL-0.73mまで盛上。-0.85mまで黒褐色泥砂。-1.02mまで暗褐色砂礫の時期不明路面及び整地層。-1.42mまで暗褐色泥砂。路面は一条大路の可能性。	14H354	HL 388	2・3
北辺三坊一町跡、 内膳町遺跡	上・西御院通一条下る讃州寺町248	3/13・16・ 17	GL-1.55mまで盛上。	14H218	HL 448	3
一条三坊十三・十四町跡、旧二条城跡、公家町遺跡、烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑	3/12	GL-0.45mまで盛上。	14H501	HL 445	3
二条二坊二・三町跡、二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入堀屋町536-99 他14軒	14/5/30～ 15/12/10	GL-0.7mまで盛上。	14H032	HL 070	2
二条四坊一町跡、 烏丸丸太町遺跡、 公家町遺跡	上・京都御苑3	1/23	GL-0.15mまで盛上。-0.3mまで暗灰色砂質土の時期不明包含層。	14H459	HL 393	3
三条一坊十町跡	中・西ノ京職町67-28の一部	1/21～2/2	GL-0.93mまで盛上。-0.98mまでにふい黄褐色泥砂。この層から上面に平坦面を持つ石。	14H400	HL 389	2
三条二坊十一町跡、 堀川御池遺跡	中・堀川通神小路上る三坊堀川町 57-3	1/13	GL-0.47mまで盛上。-0.66mまでにふい黄褐色砂礫。-0.76mまで暗褐色粗砂。-0.87mまでにふい黄褐色砂礫。	14H471	HL 374	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊十二町跡	中・姉小路通堀川東入殿治町148他	2/25・26、 3/2・5・6	№1：GL-0.86mまで盛土、-1.17mまで灰色粘質土、-1.33mまで灰オリープ色泥砂、-1.48mまで灰色泥砂、-2.2mまで灰色泥砂の地山。この層を切って灰色シルト～粘質土の安土橋山溝(土師器皿、焼締陶器大甕、白磁椀、木製品漆器椀)。 №2：GL-1.03mまで盛土、-1.95mまで深い黄褐色砂泥～細砂の地山。この層を切って灰色泥砂と黄灰色泥砂の時期不明層2。	14H468	HL 428	2
三条三坊一町跡	中・釜座通二条下上松屋町699-2、699-3、699-4、699-5、699-6、701-1、新町通二条下る頭町12-1、14-3、14-4	3/6・16・ 20	№1：GL-0.46mまで盛土、-0.74mまで近世包含層(土師質土器地焼)。№2：GL-0.9mまで盛土及び幕末火災処理瓦層。	14H499	HL 440	3
三条三坊二町跡、 烏丸御池遺跡	中・御池通西御院東入横之町747	3/12・13・ 16～18	№1：GL-1.26mまで盛土及び近世攪乱、-1.58mまで暗灰色泥砂の時期不明包含層、-1.73mまで暗灰色泥砂の平安中期～近世包含層(土師器皿)、-2.30mまで黄褐色色土の地山。№2：GL-1.62mまで盛土、-1.77mまで黄灰色色土の室町前期包含層(土師器皿)、-2.97mまで黄褐色色砂に深い黄色砂泥～砂の地山。№3：GL-1.3mまで盛土及び近世火災処理堆積、-1.54mまで暗褐色泥砂の江戸前期包含層(土師質土器地焼)、-1.71mまで暗灰色泥砂の室町後期包含層(土師器皿)、-2.01mまで灰黄褐色泥砂、-2.65mまで深い黄褐色粘土の地山。	14H289	HL 444	3
三条三坊七町跡、 烏丸御池遺跡、 妙覚寺城跡	中・衣通通押小路下る下妙覚寺町195-1	3/20～30	室町の石組井戸を検出。本報告5ページ。	14H418	HL 456	3
四条三坊六町跡	中・新町通御小路上る百足屋町388-1・2・3・4・6・7・8・9・10	2/5、 3/10・16	GL-0.97mまで盛土、-1.57mまで黄灰色粘質土、-1.95mまで黒褐色泥砂の室町前期包含層(土師器皿、瓦器椀)。	14H278	HL 403	5
四条四坊八町跡、 烏丸御池遺跡	中・高倉通三条下る丸屋町170、172	1/8・13・ 14・16・ 19～21・ 23・27	№2：GL-2.46mまで矢板により確認できず、-2.80mまで暗灰色泥砂、-3.39mまで灰オリープ色シルト。この層を切り込み、黄灰色砂泥を埋土とする室町土坑(土師器皿、焼締陶器)2、-3.63mまで緑灰色粘土、-4.02mまで青灰色粘土。以下に深い黄色粗砂。№4：GL-2.87mまで矢板により確認できず、-3.08mまで灰色粘質土の中世包含層(土師器皿)、-3.2mまで暗緑灰色粘土、-3.37mまで灰色粘質土、-3.62mまで暗灰色泥砂の平安包含層(緑釉陶器皿、木製品)、-3.71mまで灰色砂泥の平安包含層(須恵器甕、緑釉陶器皿)、-3.81mまで明黄褐色砂泥の地山。№6：GL-1.66mまで削平、-2.0mまで明黄褐色粘質土の近世包含層、-2.36mまで灰色粘質土、-2.62mまで暗灰色粘土の近世包含層(焼締陶器甕)、-2.78mまで灰色粘質土、-2.91mまで灰色粗砂、-3.57mまで褐色粘土の弥生包含層(弥生土器甕)、-3.81mまで明褐色砂泥の地山。	14H209	HL 372	5
四条四坊十六町跡、 寺町旧城	中・新京極通三条下る坂之町406-4(一部)	3/2、4/7	GL-0.8mまで盛土、-0.94mまで黄褐色砂泥、-4.38mまでオリープ褐色砂泥の地山。黄褐色砂泥層は京極大路の路面の可能性。	14H507	HL 431	5
五条一坊一町跡	中・壬生郷ノ宮町11-38他	3/20・ 23～25	GL-0.69mまで盛土、-0.79mまで灰褐色粘質土。この層を切って暗灰色粘質土の時期不明土坑(土師器皿)、-0.97mまで灰褐色シルト、-1.15mまで褐色粘土の時期不明包含層、-1.17mまで黄灰色砂泥、-1.51mまで黄灰色粗砂。以下黄灰色粗砂。	14H588	HL 454	4
五条三坊二・三町跡、 烏丸橋小路遺跡	下・仏光寺通西御院東入菅大田町地先	14/11/17、 15/3/3	GL-0.35mまで盛土。	14H373	HL 308	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版図
五条四坊十四町跡	下・魁屋町通高辻上る薬屋町248-1	1/14・16・19・20	GL-1.03mまで盛上。-1.22mまで暗赤灰色砂質土。-1.27mまで黒色粘質土の近世包含層(金属製品埋蔵)。-1.55mまで褐色砂質土。-1.75mまで黒色泥砂の近世包含層(土師器)。	14H446	HL 378	5
六条二坊一・二・四・八町跡、烏丸綾小路遺跡、本國寺城跡	下・柿本町 地内	1/13、2/12・13	GL-0.4mまで盛上。0.7mまで褐色砂泥の近世包含層。-0.8mまで褐色砂泥の時期不明包含層。	14H143	HL 376	4
七条一坊四町跡	下・夷馬場町35-11 地先(梅小路公園前バス停 東行)	3/5	GL-0.49mまで盛上。-1.13mまで黒褐色砂泥。	14H404	HL 439	6
八条一坊一町跡	下・観音寺町13 地先(梅小路公園前バス停 西行)	3/4	GL-0.5mまで盛上。-1.2mまで黒褐色砂泥の近世包含層。	14H562	HL 434	6
八条四坊一町跡、御土居跡	下・小幡町85-6	2/12・13・16	No1: GL-1.2mまで盛上。-1.4mまで暗灰黄色泥砂の室町包含層(土師器皿、須恵器不明、焼締陶器壺。平皿)、この層を切って灰黄褐色砂泥の室町上器層(土師器皿)、-1.85mまで黄灰色粘土。2.09mまで黄褐色砂礫の地山。No2: GL-0.81mまで盛上。-1.03mまで黄褐色砂質土。-1.68mまで灰黄褐色砂泥の平安包含層(土師器皿・甕、須恵器皿)、この層を切ってにぶい黄褐色砂泥の時期不明土坑。-2.68mまで黄灰色砂礫の地山。No3: GL-1.39mまで盛上。-1.8mまで浅黄色泥砂の平安包含層(須恵器壺、緑釉陶器不明、灰輪陶器碗。平皿)、-2.13mまで黄灰色砂泥~粗砂。-2.78mまで明褐色砂礫の氈蓋堆積。	14H267	HL 411	7
八条四坊三町跡、御土居跡	下・東御院通七条下る二丁目東堀小路町680-6	3/9	GL-0.55mまで盛上。	14H548	HL 441	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版図
北辺二坊七町跡	北・大将軍西町140-2	1/13	GL-0.25mまで盛上。-0.48mまで黒褐色砂泥。0.7mまで暗褐色泥砂(礫泥)の地山。	14H331	HR 377	9
北辺三坊六町跡	北・大将軍坂田町22	14/12/2~15/1/29	奈良の欄立柱建物、中世の柱列を検出。本報告7ページ。	13H145	HR 327	8
北辺四坊三・四・五・六・七町、一条四坊八・九・十六町跡、史跡・名跡妙心寺庭園、史跡妙心寺境内	右・花園砂心寺町1他	14/7/17~15/5/19	No23: GL-0.5mまで盛上。-0.95mまで黄褐色砂泥の地山、この層を切って黒褐色砂泥の近世上坑。No31: GL-0.2mまで盛上。-0.78mまで明褐色シルトの地山、この層を切って褐色シルトの時期不明落込。No39: GL-0.6mまで盛上。-0.8mまで黒褐色砂泥。-1.47mまで黄褐色シルトの地山、この層を切って褐色粘質土の中世上坑(瓦葺)。No44: GL-0.14mまで盛上。-1.2mまで地葉(7層に分層)、上部は版築されている。この地点は北龍門の直下にあたる。	26N005	HR 141	8
一条三坊十二町跡	中・西ノ京代町19、17-11、14	1/21	GL-0.33mまで盛上。-0.42mまで黒褐色砂泥の巨根作上。	14H485	HR 391	8
二条二坊三町跡	中・西ノ京09泉町98-5、98-6、109	1/19・23・26	No1: GL-0.68mまで盛上。-0.89mまで褐色砂泥の近世包含層。-0.91mまで褐色砂泥。-1.19mまで黄灰色砂礫。No2: GL-0.38mまで削平。0.5mまで戻砂。-1.13mまで近世耕作上。-1.75mまで黒褐色砂礫。	14H454	HR 385	9
二条二坊十三町跡、西ノ京遺跡	中・西ノ京南上合町45	2/2	GL-0.5mまで盛上。	14H483	HR 402	9
二条四坊十四町跡、龍躍寺跡	右・太秦安井奥畑町12-3、12-6	1/19	GL-0.35mまで盛上。-0.45mまでにぶい黄褐色粘質土の地山。	14H451	HR 384	8
三条一坊四・十五町、壬生遺跡	中・西ノ京船塚町他 地内	14/6/6~15/6/23	GL-0.35mまで盛上。-1.15mまで黒褐色砂泥。2.1mまでにぶい黄褐色砂礫の地山。	14H080	HR 081	9

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	回数
三条四坊六町跡	右・山ノ内宮脇町14-2	2/19・20	GL-0.18mまで盛上。	14H447	HR 421	8
四條四坊十町跡、 山ノ内道跡	右・山ノ内西裏町9-1	1/9・13～ 15・20	GL-0.9mまで盛上。-2.0mまで灰白色シルトの 地山。	14H428	HR 375	10
四條四坊十二町跡	右・山ノ内池尻1-1 地先 (四条葛野大路バス停 東行)	3/25	GL-0.76mまで盛上。	14H557	HR 461	10
五條二坊六町跡	中・壬生土居ノ内町1	2/27	GL-0.39mまで盛上。以下明黄褐色砂泥(2～5cm 大の礫混)	14H443	HR 429	11
六條三坊三町跡	右・西院南寿町8-3	3/13	GL-0.7mまで盛上。-0.9mまで旧耕作上。-1.1mま で黒褐色泥砂。-1.6mまで明黄褐色泥砂の地山。	14H544	HR 449	10
六條三坊十四町跡	右・西院六反田町49、50-1、50-2、 51-1	1/26・29・ 30、2/2	GL-0.83mまで盛上及び旧耕作上。-1.39mまでオ リーブ黒色シルトとオリーブ褐色シルトの地山。	14H363	HR 397	10
七條三坊八町跡	右・西京極北庄境町75、79	3/24・26・ 27・30	GL-1.13mまで盛上。-1.24mまでは旧耕作上。 -1.37mまで灰色シルトの時期不明包層。-1.7m まで灰色砂礫と灰色細砂の地山。	14H581	HR 459	12
八條二坊九町跡、 衣田町道跡	下・西七條南衣田町76、77	3/17	GL-0.6mまで盛上。	14H490	HR 451	13
九條一坊十五町跡、 西寺跡、 唐橋道跡	南・唐橋門脇町5-30、5-48	1/26・29・ 30	№1：GL-0.24mまで盛上。-0.35mまで灰黄褐 色泥砂の時期不明包層(土器器、平瓦)。№2： GL-0.22mまで盛上。-0.30mまで暗灰黄色泥土 の旧耕作上。-0.34mまでにふい黄褐色砂泥の時 期不明包層。	14H461	HR 398	13

太秦地区(UZ)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	回数
仁和寺院家跡	右・一条通、首戸山山ノ茶屋町～ 宇多野福王子町 地内	3/25・30・ 31	GL-1.15mまで配管による攪乱。	14S269	UZ 460	16
常盤東ノ町古墳群	右・常盤一ノ井町～太秦一ノ井町 地先	2/18・19	GL-0.4mまで盛上。-0.8mまで明赤褐色砂泥。 -1.4mまで明褐色砂礫の地山。	14S304	UZ 418	16
常盤東ノ町古墳群	右・太秦一ノ井町41-59の一部。 41-61の一部	3/9	GL-0.44mまで盛上。0.6mまで旧耕作上。-0.67m まで黒褐色泥砂。-0.75mまで黄灰色砂礫の地山。	14S597	UZ 442	16
上ノ段町道跡	右・太秦堀ノ内町25-11	14/12/24～ 15/2/17	№2：GL-0.43mまで盛上。-0.98mまで褐色シ ルトの地山。	14S119	UZ 367	16
経 織 道 跡	右・経織二寺院門前北中院町2他	14/11/20、 15/2/6	№1：GL-0.36mまで盛上。-0.49mまで暗灰黄色 シルトの時期不明包層。-1.4mまで明黄褐色シ ルトの地山。この層を切って灰黄褐色砂泥の時期 不明土坑(土器器跡)。№2：GL-0.3mまで盛上。 -1.0mまで明黄褐色シルトの地山。この層を切っ て灰黄褐色砂泥～黒褐色泥砂の時期不明層。	13S669	UZ 312	23-1
経 織 道 跡	右・経織大覚寺門前八軒町3-13	2/23	GL-0.99mまで盛上。	14S525	UZ 422	23-1
史跡・名勝嵐山	右・経織天龍寺芒ノ馬場町36-2他	3/23	GL-0.19mまで盛上。-0.27mまで褐色砂質土の中 世包層(平瓦)。	26N082	UZ 457	23-1
史跡・名勝嵐山、 龍川寺境内	右・経織天龍寺造路町33-7	2/6・13	2014年発掘調査済地。当該調査は、工事掘削が 遺構面まで達しなことを確認。	26N069	UZ 405	23-1
長福寺境内	右・梅津中村町38他	1/23～2/2	GL-0.6mまで盛上。	14S384	UZ 396	25-5

洛北地区(RH)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	回数
雲 林 院 跡	北・紫野雲林院町30 地先 (大徳寺前バス停 東行)	2/16	巡回時掘削終了。	14S512	RH 415	22-1
上 京 道 跡	上・北舟橋町830-1 地先 (嵐川上立売バス停 南行)	3/2	GL-1.26mまで盛上。	14S554	RH 433	22-1
上 京 道 跡	上・智恵光院通世屋町下る橋町 623-4、625-2	2/23	GL-1.0mまで盛上。	14S469	RH 423	24-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北野天満宮	上・馬喰町931	14/5/21～15/8/7	№4；GL-0.2mまで盛上。-0.92mまで灰色泥砂(一部明黄色泥砂含む)。-1.38mまで浅黄色砂礫の地山。この層を切って灰色泥砂の時期不明土坑。№10；GL-0.29mまで盛上。-0.7mまで黒褐色泥土の近世包含層。0.81mまで褐色泥土の地山。№12；GL-1.01mまで盛上。-1.21mまで黒褐色泥砂の時期不明包含層(土師器)。-1.75mまで黒色泥土。以下にふい黄色泥砂の時期不明包含層。	13S542	RH 055	24-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野紅梅町88	1/19	GL-0.2mまで盛上。	14S492	RH 386	24-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野上白梅町～北野下白梅町地内	2/10	巡回時撤廃終了。	14S458	RH 410	24-1
大徳寺旧境内	北・北野大徳寺町35-23	3/4	GL-0.08mまで盛上。	14S517	RH 435	22-2
大徳寺旧境内	北・紫野門前町地先	3/2	GL-0.3mまで盛上。-1.04mまで黒褐色泥砂(礫混)。-1.33mまで褐色泥砂の地山。	14S531	RH 432	22-2
大徳寺旧境内	北・北野大徳寺町94	2/23～3/4	GL-0.38mまで盛上。	14S566	RH 424	22-2
植物園北遺跡	北・上賀茂向手町20	14/11/7～15/8/12	GL-0.5mまで盛上。-1.0mまで旧耕作土。-1.82mまで灰黄色砂礫。	14S358	RH 297	23-2
寂光院境内	左・大原草生町676	14/12/8～15/1/21	GL-0.53mまで盛上。	14S444	RH 343	26-1

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
池田町古墳群	左・北白川上池田町49	2/16	GL-0.63mまで褐色泥砂。-1.04mまで褐色泥砂の中世包含層(土師器混・炭)。	14S472	KS 416	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	14/9/1～5・8～12・16、15/1/28、2/2・17	№1；GL-0.85mまで盛上。-1.38mまで浅黄色粗砂の地山。この層を切ってにふい黄色泥砂の平安土坑と黄色粗砂の弥生土坑(弥生土器類・高坏、土師器類)。№2；GL-0.21mまで盛上。-0.48mまで黒褐色泥砂の弥生土坑(弥生土器類、土師器類)。-0.99mまでにふい黄色粗砂の地山。この層を切って黒褐色泥砂の弥生土坑(弥生土器類)。-1.17mまで灰白色の火山灰層。№5；GL-1.46mまで盛上。-1.48mまで灰褐色泥砂の平安包含層(平瓦)。-1.56mまで黒褐色泥砂の弥生土坑(弥生土器類)。この層を切って黒褐色泥砂の弥生土坑(弥生土器類)。-1.8mまで灰白色粗砂の地山。№6；GL-1.35mまで盛上。-1.8mまで灰白色粗砂の地山。この層を切って浅黄色粗砂に黒褐色細砂の互層と黄色粗砂と灰黄色粗砂の弥生土坑(弥生土器類)。№9；GL-1.2mまで盛上。-1.81mまで淡黄色粗砂の地山。この層を切って黒褐色泥砂とにふい黄色粗砂と黒色泥砂の弥生土坑(弥生土器類)。	12R305	KS 207	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎南朝所町地内	14/4/21・23、5/9・12・13、7/2・3、10/1～3・6・7・9・16、15/1/19・20・23	№5；GL-1.1mまで盛上。-1.41mまでオリブ黒色泥砂の平安後期包含層(土師器類、瓦器類、平瓦)。-1.5mまで黒褐色泥砂の平安後期包含層(土師器類、平瓦)。西層とも東へ落ち込む。法勝寺の池西岸を踏襲する落ちの可能性。№6；GL-1.97mまで現代攪乱。-2.26mまで黒褐色泥砂の平安後期埋地状堆積(土師器類、瓦器類、平瓦、不明土製品)。-2.26m～-2.62mまで灰白色粗砂と明褐色シルトと灰色シルトの地山。-2.74mまで浅黄色のAT火山灰層。以下暗灰色細砂の地山。埋地状堆積層は法勝寺の池埋土上。	13R457	KS 030	17

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
尊勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎道跡	左・岡崎西天王町99-1	1/22・23	GL-1.12mまで盛土。	14R496	KS 394	17
尊勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎道跡	左・岡崎西天王町99-1	2/13	GL-0.4mまで盛土。	14R482	KS 413	17
法勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎道跡	左・岡崎東天王町1	1/27・28	GL-0.48mまで盛土。	14R385	KS 399	17
法勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎道跡	左・岡崎南御所町 地先	14/10/30, 15/12/10	GL-0.8mまで盛土。以下にふい黄褐色砂質上の地山。	14R383	KS 286	17

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
栗田口窯跡	東・三条通白川橋東入三丁目夾町166-13	3/27	GL-0.19mまで盛土。	14S473	RT 463	17
御土居跡	下・河原町通松原上る幸竹町～河原町通高辻下る清水町 地先	2/9～25, 3/3～16	GL-0.75mまで盛土。	14S527	RT 406	18
鳥部(古)野隣接地	東・清閑寺堂山町	3/5～8/26	GL-0.1mまで盛土。-0.63mまで明黄褐色泥土の地山。この層を切って褐色泥砂の近世土坑。石仏や墓石等も確認。	14A006	RT 450	18
鳥部(辺)野六波羅政庁跡	東・清閑寺池田町33-2, 33-4 東・大黒町通松原下る2丁目山崎町281, 283-1・2・3	2/24 2/13・16, 3/26・27, 4/2・6～9・ 13・15	GL-0.37mまで盛土。 №1: GL-0.43mまで盛土。-0.96mまで暗灰黄色泥砂の近世包含層(土師器類)。-1.19mまで黄灰色泥砂。-1.69mまで黄灰色泥砂の空町後期包含層(土師器類, 瓦質陶器類)。-1.86mまで黄灰色砂泥。 №3: GL-1.39mまで盛土。-1.54mまで黄褐色泥砂の平安包含層(軒平)。-1.95mまで灰色砂礫。	14S522 14S467	RT 426 RT 414	18 18
法住寺殿跡	東・今熊野日吉町～今熊野御ノ森町 地内	14/6/26～ 30, 7/1～ 30, 8/1～ 29, 9/2～ 30, 10/～ 30, 11/10～27, 12/5～26, 15/1/5～27	№1: GL-0.5mまで盛土。-0.66mまでオリーブ灰色砂質土。-0.72mまで灰色砂泥。-0.8mまで灰色シルト。0.96mまで灰色微砂の時期不明の包含層(土師器)。№4: GL-0.94mまで盛土。-1.05mまで黄灰色泥砂の近世の包含層(輪軸陶器香炉)。-1.4mまで灰色粘土。№8: GL-0.3mまで盛土。-0.45mまで暗褐色泥砂の時期不明包含層。0.75mまで褐色シルト。0.9mまで黒褐色砂泥。-1.55mまでにふい黄褐色砂礫の地山。	13S715	RT 116	18
法住寺殿跡, 法性寺跡	東・本町～泉涌寺門前町 地内	14/7/15～ 15/12/10	GL-1.1mまで盛土。-2.85mまで黄褐色泥砂の地山。	14S035	RT 138	18
法性寺跡	東・本町十五丁目787 地先 (東福寺バス停 東行)	3/18	GL-0.95mまで盛土。	14S564	RT 452	18
法性寺跡	東・本町十五丁目749 地先 (東福寺バス停 西行)	3/23	巡回時間終了。	14S565	RT 453	18
法性寺跡	東・本町十五丁目778	2/23～25	GL-0.3mまで盛土。-0.48mまで明黄褐色砂礫の地山。方丈の柱の下で旧方丈の礎石を4石確認。	14S572	RT 425	18
中臣遺跡	山・野野山中臣町26-76	3/12	GL-0.33mまで盛土。	14N546	RT 446	25-1
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町40	1/26	GL-0.55mまで盛土。	14N395	RT 400	25-1

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田西内畑町63	3/31,	GL-0.39mまで盛上。-0.4mまで暗オリーブ褐色	14T580	TB 465	24・2
鳥羽道跡		4/17・30	泥砂の時期不明包層。			
鳥羽離宮跡	伏・千木通、中島御所ノ内町～中島	14/11/4～	GL-1.8mまで盛上。	14T217	TB 289	24・2
	樋ノ上町 地内	15/3/16				
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町1-12	3/4	GL-0.38mまで盛上。	14T552	TB 436	24・2
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町131, 137, 138	1/15・16	GL-0.3mまで盛上。	14T448	TB 380	24・2
唐橋道跡	南・吉祥院九条町15-1 地先	3/23	GL-0.95mまで盛上。-1.05mまで黄褐色粗砂、	14S561	TB 458	27・4
	(西大路九条バス停 北行)		-1.2mまで深い黄褐色粗砂。西高瀬川の氾濫			
			堆積の可能性。			
本津川河床道跡	伏・淀美豆町555-1他	2/9	GL-2.62mまで盛上。	14S456	TB 407	21

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・東福町～御堂龍町 地内	14/5/27～	GL-0.7mまで盛上。-1.15mまで黒褐色粘質土の	13F698	FD 066	14
板橋鹿寺		15/4/16	時期不明包層(土師器)。			
伏見城跡	伏・桃山町 桃山国府	1/21	GL-0.17mまで盛上。-0.3mまで固く締まる明赤	14F423	FD 390	15
			褐色粘質土。			
伏見城跡	伏・桃山町 桃山国府	14/9/22～	伏見城期の不明遺構と金箔瓦を検出。本報告	14F018	FD 238	15
指月城跡		15/8/14	33ページ。			
真願寺跡	伏・深草僧坊町他 地内	14/12/25・	GL-0.6mまで盛上。-0.8mまで焼土を含む褐色	14S333	FD 370	27・6
		26,	泥砂の近世包層(瓦葺)。-1.02mまで炭灰じり			
		15/2/6,	の褐色泥砂。-1.3mまで焼土を含む暗褐色泥砂			
		3/3	の近世包層(平瓦)。			
太閤堤	伏・向島清水町 地先	14/11/20～	GL-1.07mまで盛上。	14S179	FD 314	27・7
(小倉堤、横島堤)		15/2/2				

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺三坊十三	南・久世大蔵町 地内	14/6/2～	GL-0.2mまで盛上。-0.44mまで旧耕作土。-0.66m	13NG709	NG 075	19・20
町、四坊一・二・		15/2/6	まで明黄褐色シルトの地山。調査地全域ほぼ同一			
三・四町、一条三			堆積。			
坊十四・十五・十						
六町跡、大蔵道						
跡、東土川道跡						
左京一条三坊八・	南・久世東土川町	3/20・25～	GL-0.08mまで盛上。-0.55mまで灰オリーブ色砂	14NG601	NG 455	19
九町跡、宮ノ脇		27・30	質上。			
道跡、戌亥道跡						
左京二条三坊八・	南・久世東土川町180-5, 180-6,	1/19	GL-0.96mまで盛上。	14NG438	NG 387	19・20
九町跡、宮ノ脇	180-7, 182, 182-4, 183, 183-1,					
道跡、鶏冠井道跡	183-2, 185-1, 186-1, 187-1, 507					
左京三条四坊二・	伏・久我西出町9-4	3/25	GL-0.38mまで耕作土。以下灰黄色シルト。	14NG603	NG 462	19・20
三町跡						
左京三条四坊十	伏・久我森の宮町 地内	14/12/16～	GL-1.23mまで盛上。-1.61mまで暗灰色粘質土と	14NC301	NG 357	20
三町跡		15/4/30	暗緑灰色粘質土の地山。			

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	版 数
左京 四条三坊十三・十四町、四坊三・四町跡、羽東師斐川城跡	伏・羽東師斐川町43, 531-1, 531-3, 532, 533, 540, 541, 542, 543, 537, 537-1, 538, 539, 549	3/10～30, 4/2～30, 5/11	№4: GL-0.19mまで盛土, -0.28mまで明黄褐色シルト, -0.57mまで灰白色シルトの時期不明包含層(土師器面), -1.71mまで浅黄色泥砂と灰色粘土とオリーブ色粘土の地山。№5: GL-0.32mまで盛土, -0.44mまで灰色泥砂, -1.73mまで灰色粘質土と緑灰色細砂と緑灰色粘土の地山, この層を切って南北溝。	12NC289	NG 443	20
左京七条三坊十二町跡、水垂道跡	伏・波籠町453-1, 455-2, 691-1	1/7・9	巡回時掘削終了。	14NC367	NG 371	21
左京 七条四坊十四町跡	伏・横大路富ノ森町 地先	2/9・20・27, 3/2・11・13	GL-0.3mまで盛土。-0.5mまで灰褐色泥砂, -0.9mまで時期不明護岸の石材, -1.4mまで褐色細砂の洪水層, 以下緑灰色粘土。	14NG077	NG 408	21
左京八条三坊十四町、四坊三町跡	伏・納所北条堀 地先	14/11/10, 15/4/6	GL-7.57mまで旧欄門による覆乱。	13NC250	NC 302	21
左京九条三坊三・四・六町跡、淡水垂大下津町道跡	伏・淡水垂町(桂川河川敷)	14/11/19, 15/2/9	與籽神社に伴う近世の護岸列を検出。本報告35ページ。	14A004	NG 430	21
左京 九条四坊一・二・七・十・十五町跡	伏・納所皇極地 地内	2/16～8/10	GL-1.86mまで盛土, -2.17mまで灰色微砂(粘土)の湿地堆積, -2.78mまで灰色微砂(粘土)の湿地堆積, -2.78m以下灰色微砂(粘土)・マンガン(含)の湿地堆積。	14NG424	NG 417	21

南桂川地区(MK)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	版 数
中久世道跡	南・久世中久世町四丁目85-14	1/22	巡回時掘削終了。	14S452	MK395	19
中久世道跡	南・久世中久世町四丁目85-15	2/18・19	GL-0.1mまで盛土。	14S543	MK419	19
中久世道跡、大藪道跡、大藪城跡	南・久世中原町～久世大藪町 地内	14/5/27～30, 6/3～16, 8/18～25, 9/1～30, 10/2～31, 11/10～27, 12/5～24, 15/1/7～27, 2/2	№16: GL-0.37mまで盛土, -0.55mまで褐灰色極細砂, -1.43mまで灰黄色極細砂と灰色～黒褐色シルトの互層の地山, この層を切って褐灰色極細砂の落込。№17: GL-0.5mまで盛土, -0.8mまで浅黄色粗砂と砂礫の互層, この層を切って浅黄色シルトの落込, -0.95mまで黄褐色粗砂, -1.2mまで灰黄色シルト, -1.7mまで緑灰色極細砂。№27(西国街道内): GL-0.21mまで盛土, -0.3mまで時期不明の路面, -0.38mまで浅黄色シルト, -0.54mまで黄褐色砂礫の洪水堆積, -1.22mで黄褐色シルトと黄褐色極細砂の地山。	14S025	MK065	19
福西古墳群	西・大枝中山町7-196	2/18・19	巡回時掘削終了。	14S550	MK420	25.2
福西古墳群、大枝道跡	西・大枝北福西町	2/24	GL-0.7mまで盛土。	14S509	MK427	25.2
葦船館跡	西・川島玉頭町	1/29, 2/2～4	GL-0.2mまで盛土, -0.6mまで褐色泥砂の時期不明包含層, -0.7mまで明褐色粘質土の地山。	14S487	MK401	28.2
程原道跡	西・程原角田町1-42他	1/15	GL-0.74mまで盛土, -1.14mまで黄灰色泥砂と黄褐色泥砂と灰黄色泥砂の旧耕作土の互層, -2.9mまで褐色粘質シルトの地山。	14S246	MK381	28.3

II 2015年 4～12月期(平成27年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省・寛松原跡	上・七本松通、中立売通～下立売通 地内	7/13	GL-0.35mまで盛上。-0.65mまで深い黄褐色砂礫の地山。	14K516	HQ173	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道七本松東入一番町 99.5・7・9	6/8	№1: GL-0.05mまで盛上。-0.17mまで黒色泥砂、-0.5mまで深い黄褐色粗砂と明黄褐色シルトの地山。	15K072	HQ114	1
大蔵省跡	上・浄福寺通一条下の東西横町167-4	10/15	GL-0.3mまで盛上。	15K349	HQ304	1
大蔵省跡隣接地	上・三条通り386-1	9/7	GL-0.4mまで盛上。	15K296	HQ248	1
茶園跡、聚楽第跡	上・松屋町通一条下の下鏡石町 209-2, 209-4, 210	6/15	GL-0.2mまで盛上。	15K085	HQ131	1
正親司跡	上・下野町	10/20・23	GL-0.56mまで盛上。-0.78mまで黒褐色シルトの近世包含層。-2.18mまで褐色～黄褐色シルトの地山。	15K362	HQ309	1
右兵衛府跡、 風竈遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町 257-19	7/24	GL-0.13mまで盛上。-0.5mまで黒褐色泥砂の近世包含層。	15K202	HQ192	1
寛松原跡	上・下立売通七本松東入長門町 410-2, 410-6	6/4	GL-0.34mまで盛上。	15K056	HQ112	1
寛松原跡	上・下長者町通六軒堀町西入利生町 288-9地	9/14	GL-0.27mまで盛上。-0.44mまで黒褐色シルトの時期不明包含層(土師器、平瓦)。	15K250	HQ259	1
寛松原跡	中・聚楽廻西町64-1	11/17	GL-0.19mまで盛上。-0.43mまで深い黄褐色砂礫の地山。	15K384	HQ347	1
寛松原跡	上・仁和寺街道六軒町西入西町151-71	11/9	GL-0.43mまで掘乱。	15K355	HQ328	1
寛松原跡、 風竈遺跡	中・聚楽廻西町地先	4/16	GL-0.75mまで掘乱。	14K538	HQ035	1
内蔵寮跡	上・草堂前之町101、五番町183	6/15・22・ 26, 7/9	№1: GL-0.43mまで盛上。-0.91mまで褐色泥砂、-1.14mまで褐色泥砂(褐色シルト)部、-2.20mまで褐色シルト、-2.81mまで褐色砂礫の地山。 №2: GL-0.97mまで盛上。-1.21mまで黒色泥砂の時期不明包含層(土師器)、-1.47mまで明黄褐色粗砂、-1.97mまで黄褐色シルト。	14K622	HQ130	1
梨本・職御曹司・ 内裏・内膳司跡、 聚楽第跡	上・出水通千本東入尼ヶ崎横町～ 裏門通上長者町下の高台院町地先	6/9・16・ 18・22・ 26	GL-1.2mまで盛上。1.3mまで褐色シルト。	15K130	HQ120	1
内裏・内舎人跡、 聚楽第跡	上・浄福寺通下立売下の田中町～ 浄福寺通丸太町上の中務町地先	5/19・20・ 22・28	№1(内裏跡): GL-1.0mまで盛上。№3(内舎人跡): GL-0.25mまで盛上。-0.78mまで褐色泥砂の近世包含層。-0.87mまで深い黄褐色シルトの平安包含層(平瓦)、-1.15mまで黄褐色シルトの地山。	15K095	HQ092	1
内裏跡	上・出水通上屋町東入東神明町 290-1, 2	11/24・25、 12/11・ 14～18・ 21・24	GL-1.04mまで盛上。調査は事前に試掘調査及び発掘調査を行い遺構を検出しており、当該調査は掘削工事が遺構面に達しないことを確認するためのものである。	15K114	HQ356	1
内裏跡、聚楽第跡	上・出水通智恵院西入田村備前町228-1	4/14	GL-0.4mまで盛上。	14K553	HQ027	1
内裏跡隣接地	上・二本松町6-14	5/1	GL-0.14mまで盛上。	14K654	HQ062	1
内膳司跡	上・出水通千本西入尼ヶ崎横町358-6	4/2	GL-0.48mまで盛上。-0.6mまで黒褐色泥上。	14K377	HQ001	1
右兵衛府跡、 風竈遺跡	上・下立売通七本松西入西東町 367-1の一部	4/13	GL-0.64mまで盛上。-0.83mまで暗褐色泥の近世包含層(土師器、灰輪陶器、平瓦)。	14K641	HQ023	1
右兵衛府跡、 風竈遺跡	上・下立売通七本松西入西東町 367-1の一部	4/13	GL-0.32mまで盛上。	14K642	HQ024	1
東醫院跡	上・松屋町通橋木町上二丁目1652-1	11/6	GL-0.35mまで盛上。	15K387	HQ326	1
内匠寮跡	上・御前通下立売下の下之町407-10	9/25	GL-0.3mまで盛上。	15K251	HQ270	1
典業寮跡、 風竈遺跡	中・聚楽廻松下町3-34	12/16	GL-0.6mまで盛上。	15K471	HQ382	1
豊楽院跡	中・聚楽廻中町40-7, 40-17	9/14・15	№1: GL-0.36mまで盛上。-0.56mまで灰黄褐色泥砂の平安製地層(土師器)。№2: GL-0.15mまで盛上。-0.55mまで黄解消砂泥の近世包含層。-0.7mまで黄色シルトの地山。	15K218	HQ256	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
朝堂院跡、 泉菜遺跡	中・泉菜廻東町8-8	4/9	GL-0.7mまで盛上。	14K626	HQ 019	1
朝堂院跡、 泉菜遺跡	中・泉菜廻東町 地先	4/28	巡回時掘削終了。	14K663	HQ 057	1
朝堂院跡、 泉菜遺跡	中・泉菜廻東町17-17	7/28	GL-0.2mまで盛上、-0.45mまでにぶい黄褐色泥砂の近世包含層、-0.68mまで暗褐色泥砂の近世包含層。	15K025	HQ 197	1
朝堂院跡、 泉菜遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町1179	9/18	GL-0.4mまで盛上。	15K233	HQ 265	1
御井跡、 嵯峨遺跡、 北野島居前町遺跡	上・御前通今出川上る島居前町地 地内	5/18・19・ 25・26・ 28・29、 7/7・9・ 16・22・ 24、8/7・ 12・20	№1(御井跡)：GL-0.54mまで盛上、-0.95mまで灰色泥砂の近代包含層、-1.29mまで明黄褐色微砂の地山。この層を切って暗灰色土上の鎌倉の南北溝(土師器皿)。№7(嵯峨遺跡)：GL-0.49mまで盛上、-0.82mまで暗褐色泥砂の時期不明包含層(土師器)、-1.0mまで褐色泥砂の地山。この層を切りにぶい黄褐色微砂の時期不明ビット。 №9(御井跡)：GL-0.89mまで盛上、-1.01mまで黄褐色シルトの平安包含層(丸瓦)、-1.30mまで明黄褐色シルトの地山、-1.61mまで明黄褐色砂礫の地山。№10(北野島居前町遺跡)：GL-0.37mまで盛上、-0.8mまで黒褐色泥砂、-1.70mまで明黄褐色砂泥砂。	15K010	HQ 089	1・ 23-1・ 24-1
行馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町8-21、8-30	4/7	GL-0.3mまで盛上。	14K635	HQ 012	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町11-5	7/29～8/10	GL-0.23mまで盛上。	15K146	HQ 203	1
治部省跡	中・西ノ京内畑町	7/30、8/3	GL-0.66mまで盛上。	15K236	HQ 209	1
朱雀門跡隣接地	中・西ノ京小堀町1-7	4/30	GL-0.22mまで盛上。	13K661	HQ 060	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町25-19	12/21	GL-0.2mまで盛上。	15K498	HQ 391	1
判事跡	中・西ノ京内畑町20-4	4/6	GL-0.3mまで盛上。	14K648	HQ 010	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊一町跡	上・黒門通上長者町下る北小大門町546-2	5/26	GL-0.25mまで盛上。	15H040	HL 100	2
一条二坊一町跡	上・黒門通上長者町下る北小大門町546-4	5/26	GL-0.3mまで盛上、-0.4mまで近世の火災処理土上。	15H038	HL 099	2
一条二坊九町跡	上・油小路通上長者町下る亀屋町148	6/15・16・ 18・22・ 24	№1：GL-0.62mまで盛上、-1.12mまでオリーブ黄色微砂、-1.47mまで明黄褐色泥砂がブロック状に混じるにぶい黄褐色泥砂。№2：GL-0.75mまで盛上、-1.00mまで黄褐色粗砂。	15H116	HL 132	2
一条二坊十五町跡	上・油小路通出水上る大黒屋町31-5	7/2・3・ 8・16	GL-0.22mまで盛上、-1.33mまで褐色泥砂の近世包含層、-1.83mまでにぶい黄褐色泥砂の中世包含層。	15H150	HL 156	2
一条三坊十五町跡、 新在家構え跡、 公家町遺跡	中・京都御苑3	10/1・15	GL-0.86mまで盛上、-1.01mまで黒褐色土上の時期不明包含層。	15H330	HL 285	3
二条二坊五町跡、 史跡旧二条 鎌宮(二条城)	中・二条通堀川西入二条城町541	11/19・30、 12/15・16	GL-0.37mまで盛上、-0.55mまで灰黄褐色泥砂の近世包含層。	27N025	HL 352	2
二条二坊九町跡、 高陽院跡、 二条城北遺跡	上・西山崎町240	7/1・3・8	GL-0.69mまで盛上、-0.76mまで褐色粘質土、0.95mにぶい黄褐色粘質土、-1.13mまで灰黄色褐色粘質土(砂礫)の室町後期包含層(土師器皿)。	14H594	HL 152	2
二条三坊二町跡	中・島丸通二条上る蔭輪屋町258、 259-3	6/2・5・ 11・16	GL-1.55mまで盛上、-1.8mまで浅黄色泥砂、-2.01mまで褐色泥砂(良く締まる)、-2.16mまで灰黄褐色泥砂、以下黄色シルトの地山。この層を切って黄褐色泥砂の平安～室町東西溝(土師器皿、緑釉陶器未地)、灰色泥砂の平安東西溝(緑釉陶器皿)、黄褐色泥砂の平安前期ビット(土師器皿)。	14H542	HL 111	3
二条三坊十三町跡	中・二条通東洞院西入仁王門町23-1他	5/26	GL-4.5mまでH建物による規模のみ。	14H583	HL 098	3

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
二条四坊二町跡、 烏丸九太町遺跡	中・間之町竹垣町上る大津町655-1	5/27・28、 6/1	№1：GL-0.94mまで盛上。-1.39mまで黒褐色泥砂の近世包含層(炭多量含)。-1.96mまで褐色砂礫の地山。この層を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑(近世包含層と同様に炭多量含)。	14H617	HL 102	3
二条四坊四町跡	中・松屋町49	9/14	GL-1.38mまで盛上。	15H123	HL 260	3
二条四坊五町跡、 烏丸九太町遺跡	中・堺町通二条上る亀屋町162、 163-1、美川通柳馬場西入百足屋町 161	6/24・29	№1：GL-1.01mまで盛上。-1.39mまでオリブ色泥砂の近世包含層。-1.89mまで灰色泥砂の平安後期包含層(土師器皿、平瓦)。№2：GL-1.21mまで盛上。-1.83mまで灰オリブ色泥砂。-2.03mまでオリブ黄色泥砂。この層を切って灰色泥砂の平安～鎌倉と時期不明ビット2(土師器皿・甕)。	14H658	HL 142	3
三条二坊十二町跡	中・姉小路通堀川東入殿治町151	6/12・15	GL-0.75mまで盛上。	15H046	HL 127	2
三条二坊十三町跡	中・三条通油小路東入堀屋町52-1 の一部	7/7・23	GL-1.21mまで盛上。-1.58mまで灰色細砂の氾濫堆積。-1.73mまで灰オリブ色粗砂～細砂の氾濫堆積。-1.76mまでオリブ褐色泥砂の地山。	15H042	HL 163	2
三条二坊十四町跡	中・西洞院通姉小路上る三坊西洞院 町550、550-3	5/7・11	GL-0.97mまで盛上。-1.02mまでにぶい、黄褐色粗砂(焼土)。-1.26mまで黒色泥上。-1.51mまで暗褐色粗砂(焼土)。	14H644	HL 069	2
三条二坊十五町跡、 妙顕寺城跡	中・小川通押小路下る下古城町 379-1	5/7・8・ 19・21・ 28、6/1	GL-0.88mまで盛上。-1.0mまでにぶい、黄褐色粗砂。-1.2mまで褐色泥砂の近世包含層(土師器灯明皿)。-1.44mまで灰黄褐色シルト。-1.65mまで褐色粗砂の地山。	14H041	HL 075	2
三条二坊十六町跡、 妙顕寺城跡	中・西洞院通二条下る二条西洞院町 631-3、631-4の一部	5/20	GL-0.34mまで盛上。-0.37mまで黒褐色砂質土の近世包含層。	14H665	HL 093	2
三条三坊五町跡、 烏丸御池遺跡	中・三条通室町上る役行者町375	11/2	GL-1.96mまで削平。-2.74mまで暗灰黄色粗砂の地山。この層を切って黒褐色粘質土の室町土坑(土師器皿、施釉陶器古瀬戸、焼結陶器)。	15H316	HL 319	3
三条三坊十二町跡	中・青背町通姉小路下る椿本町389	10/20	GL-1.0mまで盛上。	15H298	HL 310	3
三条四坊五町跡、 烏丸御池遺跡	中・柳馬場通三条上る油屋町96-1、 96-2	11/17	GL-1.55mまで盛上。	15H258	HL 348	3
三条四坊七町跡、 烏丸御池遺跡、 等持寺跡	中・高倉通御池上る終町583-5	6/8・11・ 16	GL-0.76mまで盛上。-1.31mまでにぶい、黄色砂礫。-1.4mまで黄褐色泥砂の近世層。-1.59mまでオリブ黄色泥砂の平安～室町包含層(土師器皿・高杯)。	14H493	HL 115	3
三条四坊八町跡、 等持寺跡	中・堺町通二条下る杉屋町631、632	5/7・11・ 14	GL-0.84mまで盛上。-1.06mまで暗オリブ褐色泥砂の鎌倉包含層(土師器皿)。-1.79mまで明褐色シルト(炭少量含)。この層を切って灰黄褐色泥砂と黒褐色泥砂の時期不明土坑2(土師器、須臾器甕)。-1.97mまでオリブ褐色シルト。この層を切って暗緑灰色粘質土のビット。	14H593	HL 068	3
三条四坊十五町跡	中・御池通御幸町西入御池大東町 596	6/12・15	GL-1.82mまで盛上及び攪乱。以下オリブ黄色シルトの平安整地層。この層を切って平安～室町土坑4(土師器皿・柄)。時期不明の東西方向柱穴列。	15H075	HL 128	3
三条四坊十五町跡	中・押小路通柳馬場東入樋町604	6/24・29、 7/8	№1：GL-1.49mまで盛上。-1.66mまで暗灰黄色泥砂。-1.83mまで黄灰色泥砂。-1.96mまで褐色泥砂(良く締まる)の室町包含層(土師器皿)。2.31mまで暗灰黄色泥砂の室町包含層(土師器皿)。-2.6mまで黄灰色泥砂の室町包含層(土師器皿)。-2.72mまで褐色泥砂。№2：GL-1.34mまで盛上。-1.7mまで灰色泥砂。-1.93mまでオリブ黒色泥砂。-2.06mまで灰色オリブ色泥砂の室町包含層(焼結陶器)。-2.21mまでオリブ黒色泥砂の時期不明包含層(土師器皿)。-2.86mまでオリブ黄色砂礫と灰色泥砂の地山。	14H630	HL 141	3
四条二坊四町跡	中・新市町通錦小路下る藤岡町507-3	9/8・9	GL-0.5mまで盛上。	15H266	HL 252	4
四条二坊七町跡	中・岩上通六角下る岩上町742	5/29、6/2	GL-0.41mまで盛上。-1.06mまで明黄褐色シルトと緑灰色粘質土の地山。	14H629	HL 106	4
四条二坊十六町跡、 本能寺城跡	中・三条通油小路下る三条油小路町 173-2、173-3	4/13・15・ 20・23	GL-1.65mまで盛上。-1.78mまで褐色シルトの地山。	14H491	HL 026	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版数
四条四坊一町跡、 烏丸御池遺跡	中・三条通東洞院東入菱屋町47-1	7/21・24・ 29・30、 8/3	№1：GL-1.88mまで盛土、-2.11mまで黄灰色泥砂の室町後期～近世包含層(土師器面)。№2：GL-1.69mまで盛土、-2.11mまで褐色シルト(地山の可能性)。	15H037	HL 187	5
四条四坊七町跡	中・高倉通六角下る和久屋町342	6/15・17	GL-1.5mまで盛土、-1.94mまで褐色色粘質土(濃泥)、-2.21mまで黒褐色粘質土の近世包含層。	14H628	HL 126	5
四条四坊九町跡	中・柳馬場通三条下る砲屋町90、 90-1各一部	5/27	GL-0.71mまで盛土、-0.9mまで暗褐色泥砂(濃多量泥)の近世焼土層、-1.01mまでオリブ褐色粗砂(濃多量泥)。	15H063	HL 103	5
四条四坊十五町跡	中・魁屋町通六角下る坂井町462	7/14	GL-0.33mまで盛土、0.61mまで黒褐色泥砂(焼土)の近世包含層、-0.99mまで黄褐色砂礫と黒褐色砂泥の近世包含層、-1.11mまで灰黄褐色砂泥の近世包含層。	14H591	HL 178	5
四条四坊十六町跡	中・三条通御幸町西入弁慶石町51	12/11・ 14・15	GL-0.58mまで盛土、-0.87mまで明赤褐色焼土と炭の互層、-0.98mまで暗褐色泥砂(炭泥)の江戸包含層(土師器面、施釉陶器唐津皿)、-1.11mまで褐色粘質土の時期不明包含層(土師器面、須恵器面)、-1.92mまでやや粘質の暗褐色砂泥(炭泥)の中世包含層(土師器面、輸入青磁)。	15H369	HL 373	5
五条一坊二町跡	中・壬生郷ノ宮町6-1	9/28	GL-1.06mまで盛土、-1.2mまで灰オリブシルト(炭化物少量含)、-1.21mまで黄褐色粘質土の地山。	15H314	HL 274	4
五条一坊十・ 十五町跡	下・綾大宮町	8/3・12・ 17・19・ 25・26、 9/2	№1：GL-0.64mまで盛土、-0.85mまで褐色泥砂の近世遺物包含層、-1.01mまで黒色泥砂の時期不明包含層。№2：GL-0.69mまで盛土、-0.8mまで黄褐色粘質土の時期不明包含層、この層を切って黒色泥砂の室町土坑土師器面、施釉陶器肥前鉢、焼締陶器鉢、輸入白磁碗、以下に深い黄色シルト(深くゆる灰黄色シルトがブロック状)。	15H192	HL 212	4
五条二坊一・ 八町跡、 妙満寺の構え跡	下・猪熊通四条下る松本町263	12/10・ 11・17	GL-1.1mまで盛土、-1.24mまで黒褐色泥砂の室町包含層、-1.36mまでオリブ黄色粗砂の平安後期整地層、この層を切って灰褐色砂泥と灰褐色泥砂の時期不明土坑2、-1.6mまで明黄褐色シルトの地山。	15H478	HL 371	4
五条二坊七町跡	下・岩上通綾小路下る重金町400	5/8・14	GL-2.05mまで旧建物の基礎による埋没。	14H569	HL 076	4
五条三坊十・ 十一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・仏光寺通室町東入訂隠町244、 244-1	10/22・26、 11/10・13	GL-0.68mまで盛土、-0.89mまで黒褐色濃泥シルトの近世包含層(土師器面、平瓦、滑石製石動)、-1.14mまで黒褐色粘質土の中世後半包含層(土師器面)、-1.27mまで黒褐色砂礫シルトの室町包含層(土師器面、焼締陶器信楽掛鉢)。	15H198	HL 313	5
五条四坊四町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・松原通東洞院東入本燈籠町25	7/9・10・ 17・22・ 28	№1：GL-1.43mまで盛土、-1.69mまで黒褐色泥砂の近世包含層、-1.9mまで黒褐色泥砂の平安後期包含層(土師器面)、-2.05mまで暗オリブ褐色砂泥の平安後期包含層(土師器面、須恵器、平瓦)、-2.17mまで黒褐色泥砂(オリブ褐色シルトのブロック含)。№2：GL-1.34mまで盛土、-1.44mまで灰色泥砂の時期不明包含層、-1.59mまで灰色泥砂の近世包含層(焼締陶器掛鉢)。	15H111	HL 167	5
五条四坊十三町跡	下・寺町通高辻下る京極町486-2	8/17～31	GL-0.52mまで盛土、-0.92mまで灰黄褐色粗砂の時期不明泥層堆積。	15H157	HL 229	5
六条一坊二町跡	下・中堂寺坊城町35-2	11/19・25、 12/24	GL-0.72mまで盛土、-0.92mまで黒褐色粘質土シルト、-1.18mまで褐色粗砂泥シルトの地山、この層を切って暗褐色砂泥シルトの時期不明土坑、-1.69mまで灰黄褐色砂礫の地山。	15H278	HL 350	4
六条一坊十四町跡、 中堂寺城跡	下・中堂寺藏ノ内町11-4	11/2	GL-0.07mまで盛土、-0.14mまで灰黄褐色粘質土、-0.25mまで灰黄褐色粘質土(炭化物含)の中世後期包含層。	15H399	HL 316	4
六条一坊十五町跡	下・中堂寺欄坊町26	11/09・10	GL-0.18mまで盛土、-0.31mまで灰黄褐色泥砂の近世包含層、以下に深い黄褐色泥砂。	15H302	HL 330	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条一坊十六町跡	下・上長福寺町235	11/19・20	GL-0.33mまで盛土。-0.51mまで暗褐色シルトの時期不明包含層(土師器皿)。-0.72mまでふい・黄色シルトの平安後期包含層(土師器皿)。-0.78mまでふい・黄褐色粗砂。-0.89mまで黄褐色砂質シルト。-1.74mまで黒褐色粘質シルトと黒褐色粘質シルトと暗灰色粗砂と黄褐色粗砂(小礫混)の地山。	15H342	HL 351	4
六条二坊十六町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・東中筋通松原下る天使突抜一丁目353-1	5/11・18・ 19・22・ 25・28	№1: GL-1.53mまで盛土。-1.82mまで褐灰色砂質土の室町後期包含層(土師器皿)。-2.68mまでふい・褐色シルトの地山。この層を切って褐灰色砂質土の室町土坑(土師器皿、輸入白磁、焼締陶器類)。№2: GL-1.15mまで盛土。-2.11mまで黄灰色シルトと黒褐色シルト(マンガン含、固く締まる)の地山。この層を切って褐灰色泥砂の鎌倉土坑(土師器皿、輸入白磁碗、焼締陶器類)。№3: GL-0.66mまで盛土。-1.74mまで黄灰色シルトの地山。この層を切って褐灰色砂質土の近世層達。№4: GL-1.29mまで盛土。-1.36mまで黒褐色砂質土の室町包含層(土師器皿)。-1.45mまで黒褐色泥砂の室町包含層(土師器皿)。-1.8mまで黄灰色シルトの地山。この層を切って黒褐色泥砂の鎌倉～室町層達(土師器皿)と黄灰色シルトの時期不明土坑(土師器皿)と灰色砂質土の室町土坑(土師器皿)。№5: GL-1.01mまで盛土。-1.52mまで黒褐色泥砂の近世包含層。-2.18mまで黄褐色シルト(礫多量混)の地山。№6: GL-1.34mまで盛土。-1.93mまで黄褐色シルトに灰色シルトが混じる鎌倉包含層(土師器皿)。この層を切って灰色泥砂の時期不明層達(土師器皿、須恵器鉢)と灰オリーブ色シルトの層達。-2.04mまで灰色シルトの地山。	14H498	HL 079	4
六条三坊十町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・室町通五条上る坂東屋町272	10/1・2	GL-0.72mまで盛土。-1.04mまでふい・黄褐色粘質土(炭化物含)の近世包含層。この層を切って近世以降土坑。	15H244	HL 286	5
六条三坊十三町跡	下・福島町521	7/10・17	GL-1.45mまで盛土。-1.6mまで黒色泥砂(礫混、炭多量含)の時期不明包含層(土師器皿)。-1.75mまで黒褐色泥砂(礫混、炭少量含)の時期不明包含層(土師器皿、須恵器杯、焼締陶器鉢)。-1.87mまで黒褐色泥砂(炭少量含)の時期不明包含層(土師器皿)。-1.95mまで黒色泥砂(炭少量含)の時期不明包含層(土師器皿)。以下黒色泥砂(礫混)の鎌倉包含層(須恵器、焼締陶器常滑器)。	15H115	HL 170	5
六条四坊五・ 六町跡、寺町目城	下・富小路通五条下る本塩町544、544-1	6/9・10・ 12・16・ 22・25・ 26・29、 7/3・8	№1: GL-0.7mまで盛土。-0.94mまで黒褐色泥砂の時期不明包含層。-1.05mまでふい・黄褐色泥砂の室町包含層(土師器皿、須恵器鉢、丸瓦)。-1.26mまで浅黄色粗砂の室町包含層(土師器皿)。この層を切って褐灰色泥砂の時期不明土坑。-1.44mまで灰黄色泥砂の時期不明包含層。-1.74mまでふい・黄色泥砂。	15H032	HL 121	5
七条一坊二町跡	下・西新屋敷大町96、96-1、90-1	11/4	GL-0.49mまで盛土。-0.68mまで灰色粘質土の近世包含層。-0.76mまで灰オリーブ色砂礫混粘質土の地山。	15H282	HL 320	6
七条一坊十町跡	下・花屋町通御西入菜園町170-4	4/20・21・ 27、5/11・ 13・14・19	GL-0.75mまで盛土。-1.1mまで褐灰色砂質土の時期不明包含層(土師器皿)。この層を切って時期不明の土坑1。-1.4mまで褐灰色微砂の地山。	14H579	HL 041	6
七条二坊九町跡	下・西若松町265-2	9/28・29	GL-0.6mまで盛土。	15H262	HL 267	6
七条三坊四町跡、 東本願寺前古墓群	下・新町通七条上る辰巳町731	7/15	GL-1.34mまで盛土。-1.44mまで黒褐色粘質土の時期不明包含層。	14H655	HL 181	7
七条三坊九町跡、 東本願寺前古墓群	下・兼訪町通六条下る上柳町206-2の一部、226-2、烏丸通六条下る北町201-4	7/15・17	GL-0.65mまで盛土及び幕末焼土。-0.89mまで黄褐色粘質土。-0.92mまで黒褐色粘質土(炭化物少量含)。	15H082	HL 182	7

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
七条四坊一町跡	下・間之町通花屋町下る天神町408	6/29	GL-0.4mまで盛上。	15H107	HL 147	7
七条四坊二町跡	下・間之町通上珠敷屋町下る打越町312, 717.2, 722	5/8	GL-0.36mまで盛上。	14H643	HL 078	7
七条四坊四町跡	下・下珠敷屋町通間之町西入西玉水町284, 293.2	8/4・5・12	GL-1.85mまで盛上。	15H203	HL 215	7
八条一坊十二町跡	南・八条通大宮西入八条町457.1	4/17~22	GL-1.81mまで削平, 以下黄褐色砂礫の地山。	14H639	HL 039	6
八条一坊十六町跡	下・七条通大宮西入花畑町88	11/10・ 11・17・ 25・26, 12/1・9・ 10・14	№1: GL-0.15mまで盛上。-0.3mまで黒褐色泥混砂の時期不明包含層, -0.58mまで黒褐色粗砂混シルトの時期不明包含層, -0.7mまで黒褐色シルトの時期不明包含層, この層を切って黒褐色粗砂混シルト(礫混)と暗灰黄色シルト(暗褐色泥混)粘土質シルトブロック含の時期不明柱穴, -0.85mまで暗褐色泥混粘土質シルト, -0.9mまで褐色砂礫, №4: GL-0.28mまで盛上, -0.52mまで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世包含層, -0.68mまで黒褐色泥砂, -0.85mまで黒褐色砂礫の時期不明包含層, -1.25mまで固く締まるにぶい・黄褐色粘土質シルト, この層を切って灰黄褐色シルトと暗灰黄色粘質シルトの時期不明土坑, -1.45mまで暗灰黄色砂礫, -1.55mまで暗灰黄色細砂, №5: GL-0.32mまで盛上, -0.53mまで褐色砂礫, -0.82mまで褐色粘質シルトの近世包含層, -1.32mまで黄褐色粘質土の地山, この層を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑とオリブ褐色泥砂の時期不明ピット。	15H338	HL 336	6
八条二坊八町跡, 東 市 跡	下・下魚欄町1日355-1	4/27	GL-0.23mまで盛上, -0.34mまで黒褐色泥砂, -0.39mまで黒褐色泥砂の時期不明包含層。	14H611	HL 051	6
八条二坊十五町跡	下・木津屋横通池小路東入南町576	6/23~7/3	GL-1.39mまで盛上。	15H086	HL 138	6
八条二坊十六町跡	下・七条通池小路東入大黒町250-1	4/17・20・ 21・28	GL-0.89mまで盛上, 1.22mまで灰褐色泥砂の近世包含層(土師器皿, 灰輪陶器椀, 輸入白磁), -1.41mまで灰褐色泥砂, -1.62mまで灰砂混(礫混)の地山。	14H618	HL 038	6
八条三坊九町跡, 東本願寺前古墓群	下・七条通烏丸西入東境町185-1	7/27~29	GL-1.16mまで盛上。	13H639	HL 193	7
八条四坊三町跡, 御 上 屋 跡	下・東堀小路向畑町13-5, 東堀小路高倉町27	8/11, 10/19~23	GL-0.57mまで盛上, -0.85mまで灰黄褐色粗砂の近世包含層, 0.93mまで褐色泥砂の旧耕作上, -1.07mまでにぶい・黄褐色シルトの平安後期包含層(土師器皿), -1.19mまで灰黄色泥砂の地山。	15H185	HL 226	7
九条一坊三町跡	南・八条内田町38.2, 28-31	10/8・13	GL-0.82mまで盛上, -0.92mまで旧耕作上, -1.03mまで黒褐色粘質土, -1.14mまで黄灰色粘質土。	15H273	HL 296	6
九条二坊四町跡	南・東寺東門前町11-1, 11-2	11/25	GL-0.18mまで盛上, -0.51mまで黒褐色シルトの近世包含層(土師器, 陶磁器)。	15H408	HL 359	6
九条二坊八町跡	南・西九条藤ノ木町62-1, 64	5/7・12・ 15	GL-0.35mまで盛上, -0.75mまで灰黄褐色砂泥の時期不明包含層, -2.0mまでにぶい・黄色砂泥の地山。	14H505	HL 067	6
九条二坊十三・十四町跡, 烏丸町遺跡, 御上屋跡	南・西九条春日町地内	8/3・5, 10/29	№1: GL-0.73mまで盛上, -1.26mまで褐色粘質土の時期不明湿地状堆積(御上屋跡の埋上の可能性), №3: GL-0.8mまで盛上, -0.9mまで褐色泥まじりシルト, -1.4mまで暗灰色砂礫(地山)の可能性。	15H191	HL 211	6
九条四坊八町跡	南・東九条西宮本町16の一部	4/22	GL-0.75mまで盛上, -0.88mまで黒色粘質土の旧耕作上。	14H632	HL 046	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡	北・大將軍西町180-2	6/10・11	№1：GL-0.75mまで盛土、-0.98mまで黒褐色シルト、-1.06mまで褐色色砂砂、-1.11mまで褐色色砂砂、-1.37mまで明褐色砂礫の地山。№2：GL-0.4mまで盛土、-0.88mまでにぶい黄褐色色砂砂、-1.15mまで黒褐色シルトの平安前期包含層(緑軸陶器類)、-1.25mまで灰褐色色砂砂。	14H575	HR 125	9
北辺二坊八町跡	北・大將軍西町42, 43	7/2	GL-0.28mまで盛土、-0.32mまで黒褐色粘質土(小礫混、締まる)。	15H119	HR 155	9
北辺四坊五・六町、一条四坊十町跡、史跡妙心寺境内、史跡・名勝妙心寺庭園	右・妙心寺町1	5/25・26、 6/3～29、 7/3～27、 8/10～26、 9/2・4	№5：GL-0.35mまで盛土、-1.5mまで黄褐色シルト～砂礫の地山。この層を切ってにぶい褐色色砂砂の時期不明土坑。№6：GL-0.2mまで盛土、-0.5mまで明黄褐色色砂砂の地山。	26C086	HR 096	8
一条二坊十一町跡	中・西ノ京北門町38	9/1・3・ 10・15	№1：GL-0.6mまで盛土、-0.9mまで黒褐色粘質土、-1.04mまで褐色粘質土の地山。この層を切って黒色粘質土の平安後期土坑(土師器皿・甕、須恵器壺、灰軸陶器類、平瓦)2。№3：GL-0.63mまで盛土、-0.91mまで黒褐色土上の平安期包含層(土師器皿・甕)、-1.51mまで褐色シルトの地山。	15H238	HR 240	9
一条二坊十五町跡、御上屋跡	中・西ノ京中保町1-4 京都市立北野中学校敷地内	11/5	GL-0.7mまで盛土。	15H391	HR 324	9
一条四坊四町跡	右・花園中御門町11, 11-7	4/27、 5/11・14、 6/1～4・9・ 10・12・ 17, 9/14・ 24	№1：GL-0.3mまで盛土、-0.34mまで暗オリーブ褐色砂泥(灰含)の平安前～中期包含層(土師器皿、須恵器壺、黒色土器杯A、平瓦)。№3：GL-0.45mまで盛土、-0.65mまで褐色色砂質土の時期不明包含層(土師器)、-0.85mまで黒褐色砂質土の室町包含層(土師器皿、瓦器不明、不明土製品)、-1.10mまで灰黄褐色砂質土の室町包含層(土師器皿)、-1.20mまで明黄褐色砂礫の地山。№6：GL-0.06mまで盛土、-0.33mまでにぶい黄褐色砂泥の平安期包含層(土師器皿、須恵器鉢)。№7：GL-0.1mまで黒褐色色砂砂、-0.16mまで褐色色砂砂、-1.16mまで黄色シルトと淡黄色色砂泥の地山。この層を切って暗オリーブ褐色色砂砂の平安ピット(土師器類)。№8：GL-0.3mまで盛土、-0.5mまで褐色色シルト、この層を切って黒色色砂砂の時期不明土坑(土師器皿)、灰黄褐色色砂砂の時期不明ピット2。-0.7mまで淡黄色色砂砂の地山。№10：GL-0.24mまで盛土、-0.33mまで黒色シルトの時期不明包含層(土師器)、-0.43mまでにぶい黄褐色シルト(にぶい黄褐色シルトをブロック状含)、以下黄褐色シルトの地山。	14H306	HR 052	8
一条四坊四町跡	右・花園木辻南町2-3 地先 (木辻南町バス停 西行)	11/4	GL-1.15mまで盛土。	15H378	HR 322	8
一条四坊五町跡	右・大秦安井小町12, 12-8, 花園寺ノ内町80	4/27	GL-0.58mまで盛土。	14H662	HR 053	8
一条四坊十二町跡	右・花園寺ノ前町15-20 地先 (妙心寺前バス停 西行)	11/5	GL-0.34mまで盛土、-0.44mまで黒褐色粘質土の時期不明包含層、-1.04mまでにぶい黄褐色砂質土とにぶい黄褐色砂礫土と淡黄褐色粘質土の地山。	15H379	HR 323	8
二条二坊一町跡	中・西ノ京上平町65, 74-3	5/11・14・ 19	GL-0.86mまで盛土、-1.05mまで黒褐色砂質土、-2.05mまで黄褐色砂礫の地山。	15H044	HR 081	9
二条二坊三・四町跡	中・西ノ京冷泉町124, 125	7/3	GL-0.4mまで盛土。	15H151	HR 157	9
二条二坊四町跡	中・西ノ京冷泉町135-2, 136-2, 138-1, 138-2, 138-3, 140の一部	4/22・28、 5/11	GL-0.91mまで盛土、-1.19mまで灰色シルトの地山。	14H453	HR 044	9

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊十二町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京南上合町82-4	9/10・11・15・16	№1：GL-0.41mまで盛土、-0.52mまで深い黄褐色砂泥、-0.62mまで黒褐色シルトの平安包含層(土師器皿、緑輪陶器皿)、-0.77mまで黒褐色泥土、-1.44mまで明黄褐色シルトと灰黄色細～粗砂の地山。№2：GL-0.23mまで盛土、-0.43mまで暗褐色シルト(締り悪い)、-0.58mまで暗褐色粘土質シルトの時期不明包含層(土師器、青白磁皿)、-0.82mまで黒褐色粘土質シルトの平安～近世包含層(土師器、平瓦)、-0.93mまで黒色粘土質シルト(締り良い)、-1.05mまで深い黄褐色粘土質シルト、-1.39mまで深い黄褐色シルトと黄褐色～暗灰黄色砂泥の地山。	15H196	HR 254	9
二条二坊十四町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京南上合町30、31、32の一部	5/29、6/1	GL-1.55mまで盛土。	14H352	HR 107	9
二条二坊十六町跡、御土屋跡	中・西ノ京南門町1-5	10/23	GL-0.63mまで盛土。	15H348	HR 315	9
二条三坊二町跡、西ノ京道跡	中・中御門西町100、101	4/28・30	GL-0.13mまで盛土、-0.35mまで暗褐色粘質土、-0.44mまで黒褐色泥砂(直径5cm大礫多量)。	14H647	HR 058	8
二条三坊五町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京塚本町16-18	5/8	GL-0.38mまで盛土。	14H614	HR 077	8
二条三坊七・八町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京南春日町8	8/24・28	GL-0.78mまで盛土、-1.37mまで浅灰色粘質土の地山。	10H507	HR 235	8
二条三坊十五町跡	右・花園春日町7	9/7・10・14・16・18	№3：GL-0.55mまで盛土、-0.85mまで深い黄褐色粗砂混シルトの地山。この層を切って黒褐色粘質土の溝状遺構(大炊御門大路北側側溝の可能性)。№4：GL-0.1mまで盛土、-0.35mまで黒褐色粗砂混シルト、-1.13mまで深い黄褐色礫混シルトの地山。この層を切って黒色粘質シルト～暗褐色粘質シルトの中世土坑(土師器皿、須恵器器)。	15H077	HR 245	8
二条四坊一町跡	右・花園中御門町8-7、8、9、10、12	5/1・11・14	№1：GL-0.26mまで盛土、-1.43mまで黄褐色微砂と明褐色粗砂と明黄褐色砂礫の地山。№2：GL-0.43mまで盛土、-0.6mまで黒褐色極細砂の時期不明包含層、-1.44mまで深い黄褐色砂礫の地山。この層を切って黒褐色シルト(淡黄色シルトがブロック状混)の時期不明土坑。	14H176	HR 063	8
二条四坊六町跡、安井馬塚古墳群	右・太秦安井馬塚町8-2	7/15	GL-0.47mまで盛土、-0.5mまで黒褐色粘質土の窠野包含層。	15H186	HR 183	8
三条一坊五町跡、壬生道跡	中・西ノ京小倉町138	4/8・20	GL-1.65mまで盛土。	14H500	HR 014	9
三条二坊六町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京南原町51	6/9・10・12	№1：GL-1.08mまで盛土、-1.17mまで灰白色砂泥、-1.28mまで暗灰色シルトの平安前期包含層(土師器皿、須恵器)。№2：GL-1.06mまで盛土、-1.14mまで灰黄色砂礫、-1.26mまで暗灰色シルトの平安前期包含層(土師器皿、須恵器器)。	14H650	HR 122	9
三条二坊六町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京南原町57-1、58、59、86-1、86-3、87	11/20～30、12/1	平安の柱穴及び土坑を検出。「京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度」に報告。	15H247	HR 354	9
三条二坊十二町跡、西ノ京道跡	中・西ノ京新建町3他	4/20・21・23・28、6/9・16	№1：GL-1.4mまで盛土、-1.5mまで褐灰色泥砂の時期不明包含層、-3.01mまで浅黄色シルトとオリブ灰色粗砂と明黄褐色砂礫と灰白色粗砂の地山。№3：GL-1.04mまで盛土、-1.28mまで深い黄色泥砂、-1.42mまで褐灰色砂礫の洪水堆積、-1.56mまで灰黄褐色粗砂の洪水堆積、-1.61mまで明黄褐色シルト、-1.82mまで暗褐色シルトの弥生包含層(弥生土器皿)、-2.45mまで黄色シルトと灰黄色シルトの地山。	14H172	HR 042	9
三条三坊二町跡、西ノ京道跡	中・西中合町43	8/5	GL-1.9mまで盛土。	15H133	HR 220	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条四坊六町跡	右・山ノ内大町3・3	8/17・19・24	GL-0.61mまで盛上。-0.96mまで旧耕作土。-1.24mまでオリープ黄色粘質土の時期不明包含層。-1.71mまでオリープ色粘質土の地山。	14H112	HR 230	8
三条四坊十二町跡	右・山ノ内北ノ口町17-1の一部、17-2の一部	4/21	GL-0.5mまで盛上。	15H039	HR 043	8
四条一坊二町跡	中・壬生朱楽町35	7/13・14・21・22	№1：GL-0.55mまで盛上。-1.08mまで灰色砂礫の地山。この層を切って灰色砂礫～極細砂と灰色泥土の時期不明土坑。№2：GL-0.45mまで盛上。-0.52mまで灰色シルトの時期不明包含層。-0.68mまで黄灰色シルトの時期不明包含層。-1.64mまで明黄褐色砂礫の地山。	13H602	HR 174	11
四条一坊三・五・六町跡	中・壬生花井町3の一部	5/11・14	GL-0.6mまで盛上。	14H600	HR 080	11
四条一坊三町跡	中・壬生花井町3の一部、3-4、3-3	4/23	GL-0.98mまで盛上。調査地は事前に試掘調査を行い遺構を検出しており、当該調査は掘削工事が遺構面に達しないことを確認するためのものである。	14H599	HR 047	11
四条一坊八町跡、壬生道跡	中・壬生神明町1-13の一部	11/4	GL-0.49mまで盛上。-0.61mまでに、黄褐色粘質土の近世包含層の可能性。-1.13mまでに、黄褐色泥礫粘質土の地山。	15H300	HR 317	11
四条二坊三町跡、壬生道跡	中・壬生東瀬田町7、壬生瀬田町22	11/12・13・16・17	№1：GL-0.1mまでコンクリート。-0.4mまで黒褐色粘質土の時期不明包含層。-0.6mまで灰色灰白色シルトの地山。この層を切って灰黄褐色粘質シルト(灰白色シルト副)の時期不明柱穴2(柱間1.2m)。柱穴埋土は灰黄褐色粘質シルト(地山)ブロック。№2：GL-0.2mまで盛上。-0.3mまで灰黄色褐色粘質土の時期不明包含層。-0.55mまで褐色砂礫の地山。この層を切って黒色粘質土の平安中期土坑状遺構(土師器皿・杯、須恵器甕、黒色土間。№3：GL-0.66mまで盛上。-0.96mまで灰白色シルトの地山。この層を切って黒色粘質土の時期不明南北溝(土師器)。黒色粘質土の時期不明隅丸方形柱穴2。黒褐色粘質土の時期不明円形の柱穴3(土師器)。黒色粘質土の時期不明溝状遺構。南北溝は西萩負小堀内溝の可能性。	15H400	HR 339	11
四条三坊十二町跡、西院城跡(小泉城)	右・西院乾町70	8/19・21	近世の溝状遺構を検出。本報告11ページ。	15H211	HR 233	10
四条三坊十三町跡、山ノ内遺跡、西院城跡(小泉城)	右・西院小米町29、30	10/5・9	GL-1.14mまで盛上。-1.25mまで褐色シルトの旧耕作土。-1.46mまで褐色泥砂の中世包含層(土師器皿。-1.51mまで明黄褐色シルトの地山。	15H243	HR 292	10
四条三坊十六町跡	右・山ノ内長老町11-1	7/30	GL-0.88mまで盛上。-1.19mまでに、黄褐色泥砂(混濁)。-1.23mまで褐色粘質土。-1.29mまで明黄褐色粘質土。-1.49mまで黒褐色粘質土。	15H207	HR 207	10
四条四坊二町跡、山ノ内遺跡	右・山ノ内瀬戸畑町11-1の一部	12/18	GL-0.29mまで盛上。	15H473	HR 384	10
四条四坊十五町跡	右・山ノ内苗町27-3	8/27・28・31	GL-0.17mまで盛上。-0.42mまで旧耕作土。-0.59mまで灰黄褐色粘質土の時期不明包含層。	15H242	HR 238	10
五条一坊二町跡	中・壬生高樋町49-6	7/6	GL-0.36mまで盛上。以下黒褐色砂礫(灰褐色粘土)がブロック状混。炭化物多量)の近代被上層。	15H163	HR 158	11
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町～下京区中堂寺庄ノ内町 地先	6/19～10/27	GL-0.6mまで盛上。-0.85mまで褐色シルト(固く締まる)。-0.95mまでは褐色粗砂～シルトの河川堆積。	15H156	HR 070	11
五条一坊十六町跡	中・壬生仙念町3-2の一部、4・2、5、6	7/1	GL-0.61mまで盛上。-0.88mまで黒褐色粘質土。-1.07mまで黒褐色粘質土(黄土副)。-1.25mまでオリープ色粘質土の江戸包含層(海輪陶器)。	15H097	HR 149	11
五条三坊五町跡	右・西院太田町76-2	9/7	GL-0.4mまで盛上。	15H261	HR 249	10
五条三坊十六町跡、山ノ内遺跡、西院城跡(小泉城)	右・西院日原町1 地先 四条中学バス停 西行	4/14	GL-1.12mまで盛上。	14H556	HR 025	10
五条四坊九町跡	右・西院安塚町1 地先 四条葛野大路バス停 西行	4/1	GL-1.25mまで盛上。	14H558	HR 002	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版取
五条四坊十二町跡、西京極遺跡	右・西院月双町14 地先 (葛野大路高辻バス停 南行)	4/2	GL-0.5mまで盛土。-0.65mまで旧耕作土。-1.23mまでオリーブ褐色砂記。	14H559	HR 006	10
五条四坊十二町跡、西京極遺跡	右・西院月双町1	6/1	GL-0.2mまで盛土。	15H066	HR 108	10
五条四坊十五町跡	右・西院東貝川町46-1の一部	7/30~8/5	GL-0.66mまで盛土。-0.83mまで旧耕作土。	15H144	HR 206	10
五条四坊十五町跡	右・西院東貝川町52-1, 54	4/10・13・17・21・28	GL-0.21mまで盛土。-0.37まで旧耕作土。-0.40mまで黄褐色砂記。-0.75mまでいふい黄色細砂。-1.10mまでいふい黄褐色粘質土。-1.59mまで暗灰色細砂の地山。	13H518	HR 020	10
六条二坊八町跡、六条三坊一町跡、西院遺跡	中・壬生東高田町14, 13の一部 右・西院寿町17	12/14・15 6/1・3	GL-0.8mまで盛土。 GL-0.52mまで盛土。-0.89mまで灰色シルトと灰オリーブシルトの旧耕作土。-0.99mまで黄灰色シルト。この層を切って暗灰色シルトの時期不明。-0.99m以下は明黄褐色シルトの地山。	15H447 15H069	HR 377 HR 109	11 10
六条三坊二町跡、西院遺跡	右・西院南寿町15-1, 15-2, 17-1, 17-2, 17-5, 西院西寿町6-1, 15-2, 31, 31-1	9/25・28・29, 10/5	平安の四行八門を区画する溝2条を検出。『藤原市内遺跡試験調査報告 平成27年度』に報告。	14H481	HR 271	10
六条三坊七・八町跡、西院遺跡	右・西院追分町25-1, 25-2, 25-5	10/20~12/24	GL-0.38mまで盛土。以下暗褐色粘質シルト。	15H329	HR 311	10
六条四坊二町跡、西京極遺跡	右・西院清水町161-1	10/23・26, 11/16	GL-0.34mまで盛土。調査地は事前に試験調査を行い遺構を検出しており、当調査は掘削工事の遺構面に達しないことを確認するためのものである。	15H149	HR 314	10
六条四坊十三町跡	右・西京極西大丸町66	9/11	GL-0.25mまで盛土。	15H280	HR 257	10
六条四坊十五町跡	右・西京極葛野町38 地先 (光華女子学園前バス停 北行)	4/3	臨時時間終了。	14H560	HR 007	10
七条三坊四町跡	下・西七条北月双町65-2	7/14	GL-0.74mまで盛土。-1.05mまで旧耕作土。-1.25mまでいふい黄褐色シルトの平安後期～鎌倉包含層(土師器類、輸入白磁碗。-1.25m以下灰黄褐色シルト質極細砂の地山。	15H153	HR 179	12
七条四坊十町跡	右・西京極東田町1-1	4/3	GL-0.9mまで盛土。	14H606	HR 008	12
八条一坊二・六町跡	下・梅小路通、木津屋横通～ 梅小路東町 地内	7/13・17	GL-0.8mまで盛土。-1.1mまで暗灰色砂記。	15H053	HR 175	13
八条一坊三町跡	下・観音寺町3-14他	6/10・15・25, 8/6・18・20, 9/1・3・9, 12/3	№1: GL-0.69mまで盛土。-0.88mまで暗灰色砂記。-0.96mまで暗灰色シルト。-1.05mまで灰色シルトの近世包含層。-1.25mまで褐色砂質土の平安前期包含層(須恵器類、丸瓦)。この層を切って褐色砂記の平安中期ビット(土師器類)。-1.56mまで黄灰色砂礫。この層を切って褐色砂礫と褐色砂記～礫砂の時期不明。№2: GL-0.93mまで盛土。-1.23mまで灰色砂記の旧耕作土。-1.36mまで明黄褐色シルト(堅く締まる)の平安包含層(平瓦)。-1.39mまで灰白色砂礫の地山。№3: GL-2.68mまで盛土。-2.91mまで灰色粘土。-3.28mまで明黄褐色粗砂の地山。この層を切って灰色砂記の平安前期層(土師器類、丸・平瓦)。№5: GL-0.61mまで盛土。-0.67mまで近現代耕作土。-0.98mまで灰色極細砂の地山。この層を切って黄褐色極細砂～泥砂の平安前期層(土師器類、高杯、須恵器杯・杯蓋)。	11H346	HR 124	13
八条二坊十六町跡・衣田町遺跡	下・西七条南衣田町17-1, 17-2	6/15・17・22	GL-0.48mまで盛土。1.01mまで旧耕作土。-1.42mまで褐色砂礫の地山。	15H122	HR 133	13
八条四坊七町跡	右・西京極畑田町52-1, 52-4, 52-5の各一部	8/6	GL-0.5mまで盛土。	15H067	HR 221	12
九条一坊四町跡	南・唐橋高田町39-2, 39-3, 39-5, 39-6	10/1・6	GL-0.32mまで盛土。-0.7mまでいふい黄色粘質土。-1.21mまで明黄褐色粘質土とにいふ黄褐色砂質土と灰白色シルトの地山。	15H137	HR 287	13
九条一坊十町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町36-17	11/25	GL-0.12mまで盛土。-0.25mまで暗オリーブ褐色粗砂部粘土質シルトの古墳後期～飛鳥包含層(須恵器)。この層を切って黒褐色粗砂質シルトの時期不明。-	15H325	HR 360	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条一坊十二町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町67	6/1・4	GL-0.21mまで盛土。	27N001	HR 110	13
九条三坊一町跡、吉祥院城跡	南・吉祥院西ノ庄東屋敷町42-1	10/1・5・13	GL-0.37mまで盛土。-0.56mまで灰黄褐色粘質土(炭化物含)。-0.8mまで明黄褐色粘質土。-0.9mまでにふい、黄褐色砂質土。-0.91mまでにふい、黄褐色粗砂。	15H263	HR 288	12
九条三坊十四町跡	南・吉祥院中河原里北町39-1, 39-2	12/15	GL-0.45mまで盛土。-0.78mまで暗オリーブ褐色粘質シルトとオリーブ褐色シルトの旧耕作土。	14H474	HR 378	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
円宗寺跡	右・御室小松野町20-6, 20-13	6/15	GL-0.42mまで盛土。-0.54mまで黒色泥砂田耕作土の可能性。-0.8mまで灰オリーブ砂質土。盛土から円宗寺に伴う可能性のある瓦が出土。	15S083	UZ 134	16
仁和寺院家跡	右・宇多野御屋敷町17-1	7/15・22~24・29, 8/17	№1(調査地西端)：GL-0.4mまで盛土。-0.28mまで明褐色粘質土の時期不明包含層。-3.43mまで明黄褐色砂礫の地山。№3：GL-0.32mまで盛土。-0.62mまで灰褐色シルトの時期不明包含層。-1.36mまで橙色砂礫の地山。	14S653	UZ 184	16
仁和寺院家跡	右・花園土堂町14-4, 14-5	11/16	GL-0.25mまで盛土。	15S319	UZ 345	16
草木町遺跡	右・太秦京ノ遺町12-2	9/24・29・30	GL-0.28mまで盛土。-1.42mまで黄褐色シルト(微泥)の地山。	15S328	UZ 266	16
太秦馬塚町遺跡	右・太秦宮ノ前町40-9の一部	12/25	GL-0.3mまで削平。-0.64mまで黒褐色泥土。-1.06mまで明褐色シルトの地山。	15S474	UZ 397	16
常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町2-2の一部	4/14	GL-0.35mまで盛土。	14S666	UZ 029	16
常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町2-2の一部	7/2	GL-0.26mまで盛土。-0.54mまで褐灰色粘質土。この層を切って灰黄褐色粘質土の上坑。-0.76mまで黒褐色砂礫。	15S016	UZ 154	16
常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町2-2の一部	4/14	GL-0.32mまで盛土。-0.49mまで黒褐色泥土。-0.56mまで灰黄褐色砂礫の地山。	14S633	UZ 028	16
上ノ段町遺跡	右・太秦権子ノ辻町11-42	10/13・15	GL-0.32mまで盛土。-0.50mまで暗褐色泥土。-0.59mまで暗褐色泥土。-0.72mまで暗褐色泥土。-0.84mまで灰褐色泥土。-1.17mまで暗褐色泥土。-1.30mまで褐色泥土(砂含)。	15S205	UZ 302	16
西野町遺跡	右・嵯峨野秋街道町31-6	9/7	GL-0.2mまで盛土。	15S270	UZ 250	16
門田町遺跡	右・太秦門田町	10/5・6	GL-0.24mまで盛土。	14S656	UZ 293	16
梅津坂本町遺跡	右・太秦持田町12-3, 12-5, 23, 24-2	4/27	GL-0.38mまで耕作土。-0.53mまで暗褐色シルト(炭泥、細砂、粗砂含)の時期不明包含層(土加器器)。	14S518	UZ 054	16
史跡・名勝嵐山、嵯峨遺跡	右・嵯峨鳥居本化野町12-23	4/27, 9/24	GL-0.49mまで盛土。-0.62mまでにふい、黄褐色シルト。-0.85mまでにふい、黄色シルトと黄褐色泥混シルトの地山。	26N078	UZ 055	23-1
嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町11-5	5/18~29, 6/2	古墳と室町の上坑を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告平成27年度』に報告。	12S132	UZ 091	23-1
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町60	5/14	GL-0.18mまで盛土。	26N071	UZ 085	23-1
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16, 64, 51	7/27・29	GL-1.0mまで盛土。調査地は事前に試掘及び発掘調査を行い遺構を検出しており、当調査は掘削工事が遺構面に達しないことを確認するためのものである。	27N015	UZ 194	23-1
観空寺跡	右・嵯峨観空寺久保町13, 14, 15, 15-1, 16-3, 36	4/24, 8/14	這戻り掘削終了。	14S585	UZ 048	25-4

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版図
寺 町 旧 域	北・上善寺門前町338	12/9	GL-0.27mまで盛土、-0.35mまで暗褐色シルトの近世包含層(陶軸陶器焼、埴輪陶器焼)。-0.4mまで黒褐色シルトの時期不明包含層(土師器)。	155442	RH 369	22.1
上京遺跡、 相国寺旧境内、 上御堂遺跡、 公家町遺跡	北・上御堂上江町～玄武町他 地内	4/15・17・ 24・28、 5/12・15・ 19・20～ 22・28、 6/2・3・5・ 9・16・19・ 22、7/8・ 24、8/7・ 12・18・ 24～27、 9/4・10・ 16・30	№3；GL-0.22mまで盛土、-0.48mまで褐色粘り砂質土の室町包含層(瓦器類)。№5；GL-0.3mまで盛土、暗褐色粘り砂質土に黄褐色粘り砂質土がブロック状に混じる時期不明包含層。№6；GL-0.42mまで盛土、-0.45mまで明褐色粘り砂の焼土層、-0.65mまで黒褐色粘り砂、-0.79mまで暗褐色シルト、-0.98mまで褐色シルト、-1.22mまで暗褐色粘り砂(薄多量層)。№7；GL-0.9mまで盛土、-1.1mまでにふい黄褐色粘り砂の時期不明包含層、-1.20mまでにふい黄褐色粘り砂の時期不明包含層。№8；GL-0.45mまで盛土、-0.65mまでにふい褐色シルトの時期不明包含層、-0.85mまで黒褐色極細砂(礫混、地山の可能性)、以下暗褐色粘り砂質土の地山。№9；GL-0.8mまで盛土、-1.0mまで灰褐色砂礫の地山。№13；GL-0.45mまで盛土、-0.48mまで灰黄褐色粗砂質シルトの時期不明包含層、-0.60mまで黒褐色粗砂質シルト、-0.72mまで黒褐色粘り砂質シルト、-0.85mまで黒褐色粘り砂質シルト、-0.93mまで灰黄褐色粘り砂質シルト、-1.1mまでにふい黄褐色粘り砂質シルトの地山。	145366	RH 034	22.1
上京遺跡、 寺ノ内旧域	上・神昌院町他 地内	4/24・28、 5/12・15・ 19・20・ 21・22・ 28、6/2・ 3・5・9・ 16・18・ 22、7/8	№3；GL-0.15mまで盛土、-0.7mまで灰褐色粘り砂の時期不明包含層。№4；GL-0.1mまで盛土、-0.55mまで黒褐色粘り砂質土の時期不明包含層、-1.0mまで褐色砂礫(地山の可能性)。№5；GL-0.4mまで盛土、-0.5mまで褐色粘り砂質土の室町包含層(土師器類、埴輪陶器古瀬戸類)。№6；GL-0.25mまで盛土、-0.66mまで赤黒色粘り砂質土の時期不明包含層。№7・8；地表面直下から0.49mまで南北方向の近世石垣。	145222	RH 049	22.1
上京遺跡、 寺ノ内旧域	上・小川通寺之内上る2丁目神昌院町630、648-1の一部	8/11・12・ 17・24	№1；GL-0.26mまで盛土、-0.42mまで黒褐色粘り砂の中・近世包含層(平瓦)、-0.92mまで黄褐色粘り砂の地山。№3；GL-0.12mまで盛土、-0.32mまで黒褐色粘り砂の近世包含層、-0.52mまで灰褐色粘り砂の時期不明包含層、この層を切って黒褐色粘り砂の平安～鎌倉土坑(土師器類、埴輪陶器類)、-0.84mまで明黄褐色シルト～砂礫の地山。№4；GL-0.2mまで盛土、-0.72mまで褐色粘り砂質土、この層を切って黒色粘り砂質土の近世の土坑、-0.85mまで明黄褐色粘り砂の地山。	155237	RH 227	22.1
上京遺跡、 本満寺の構え跡	上・近衛殿表町175	6/8・16	GL-0.35mまで盛土、-0.87mまで褐色粘り砂(礫混)、-1.0mまで黒褐色粘り砂の近世包含層、-1.18mまで灰白色砂礫の地山。	155017	RH 116	22.1
上京遺跡、室町殿跡(花の御所)	上・新町通今出川上る元新在家町163-1	11/4	GL-1.06mまで盛土、-1.68mまで黒褐色粘り砂質土の近世包含層(土師器類、埴輪陶器類)、-2.14mまでにふい黄褐色粘り砂質土の地山、この層を切って黒色粘り砂質土と褐色粘り砂質土の室町土坑2(土師器類)、にふい黄褐色粘り砂質土と暗褐色粘り砂質土の時期不明柱穴3。	155274	RH 321	22.1
室町殿跡 (花の御所)	上・烏丸通今出川上る岡松町253、 築山南半町235の一部	11/9	巡回時掘削終了。	155334	RH 331	22.1
上京遺跡	上・塔之段寺町通今出川上る四丁目 西入毘沙門町450-1、457-2	4/14・15・ 17	GL-0.26mまで盛土、-0.87mまで黒褐色粘り砂、-1.88mまで灰褐色砂礫の地山。	145420	RH 030	22.1
上京遺跡隣接地	上・寺之内通大宮西入二丁目中猪熊町298、300	9/14・16・ 24・29	GL-0.64mまで盛土、-2.07mまで黄褐色シルトの地山、この層を切って黄褐色粘り砂質シルト～オレンジ色粘り砂質シルトの赤生土坑(赤生土器類)。	155206	RH 261	24.1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版図
公家町遺跡	上・京都御苑3	6/26・29、 8/4・5・ 11・31、 9/1・4・ 7・15・28	№2：GL-0.28mまで盛土、-0.45mまで灰黄褐色 泥砂の近世整地層、-0.6mまで暗褐色泥砂の室町 包含層(土師器皿、-0.8mまで黄褐色砂泥、№5： GL-0.36mまで盛土、-0.45mまで明黄褐色泥砂、 -0.69mまで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.85m までにふい黄褐色泥砂(確認)、-0.92mまでにふい 黄褐色泥砂(固く締まり上端平面)の近世整地層、 -0.97mまで黄褐色泥砂(礫多量)、-1.04mまで暗 褐色泥砂の時期不明包含層、№6：GL-0.49mま で盛土、-0.7mまで灰黄褐色粘質土の江戸土器部 (土師器皿、染付椀、不明木製品)、№7：GL-0.65m まで木の根攪乱、-0.72mまで明黄褐色シルトの 時期不明化粧土、-0.95mまで黒褐色粘質土(明黄 褐色シルトのブロック、小石多く含む)の時期不明 整地層、№9：GL-0.31mまで盛土、-0.46mまで 黒褐色礫混シルトの中世包含層(土師器皿)、-0.53m まで暗褐色シルト(固く締まる)の時期不明包含層 (土師器皿、壁土)。	11H193	RH 143	22-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町27 地先 (佛教大学前バス停 南行)	8/4	GL-1.05mまで盛土。	15S210	RH 217	22-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町26-5	5/7・14	巡回時観測終了。	14S568	RH 071	22-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町 地先	4/8、8/13	巡回時観測終了。	14S638	RH 015	22-2
御土居跡	北・船岡東通、御園横通～紫竹北栗 納町 地内	5/1・8、 6/10・15～ 17、7/15	GL-0.36mまでコンクリートパス、-0.55mまで オリーブ褐色泥砂、-0.78mまで黄褐色泥砂(礫中 量含む)、-0.9mまで暗褐色泥砂の時期不明包含層、 -1.1mまで褐色シルト(炭筋)、-1.21mまでにふい 黄褐色泥砂の時期不明包含層(土師器皿、-1.52mま までにふい黄褐色泥砂(礫多量)。	14S660	RH 064	22-3
植物園北遺跡	北・上賀茂野勝町32	4/1	GL-0.34mまで盛土、-0.55mまでにふい黄褐色泥砂 と褐灰色砂泥の旧耕作土。	14S567	RH 003	23-2
植物園北遺跡	左・下鴨南野女神町1	4/3～13	古墳前期の彫穴建物を検出。本報告17ページ。	10S134	RH 009	23-2
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町3-7	12/17	GL-0.32mまで盛土、-0.39mまで黄褐色砂泥の時 期不明包含層。	15S470	RH 385	23-2
北野遺跡	北・平野八丁柳町96-5	9/28	GL-0.45mまで盛土。	15S255	RH 275	24-1
北野鹿寺、 北野遺跡	北・北野[红梅町]73	11/16	GL-0.33mまで盛土、-0.44mまで黒褐色粘質土の 時期不明包含層。	15S397	RH 346	24-1
北野鹿寺、 北野遺跡	北・北野下白梅町28-4、28-5	4/27・28・ 30	№1：GL-0.25mまで盛土、-0.7mまで黒褐色泥砂、 -1.27mまで暗褐色泥砂の近代以降包含層、-1.45m まで褐色泥砂の地山、この層を切って黒褐色泥砂 の近代土坑。№2：GL-0.75mまで盛土、-0.94m まで黒褐色泥砂の時期不明包含層、-1.10mまで 黒褐色泥砂の室町包含層(土師器皿、-1.2mまで 褐色泥砂(確認)、-1.51mまで暗褐色粘砂(礫多量)。	14S503	RH 056	24-1
中の谷窯跡	左・岩倉木野町137-1他43筆	8/17	GL-0.23mまで盛土、-0.6mまで灰黄褐色砂礫(地 山の可能性)、以下黄褐色シルト確認の地山。	15S142	RH 231	26-2
八幡古墳群	左・岩倉桶枝町565-15	12/18	GL-0.47mまで盛土。	15S460	RH 389	26-3
本山古墳群	左・岩倉桶枝町347	9/10	GL-0.6mまで盛土。	15S180	RH 255	26-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町2787-6	7/9	GL-0.15mまで盛土。搦土から平女の須恵器瓦、 平瓦。	15S108	RH 169	26-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町2787-5	8/7	GL-0.18mまで盛土。	15S228	RH 223	26-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町2787-7	4/10	GL-0.4mまで盛土。	14S649	RH 021	26-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町2787-1、2787-4	9/24	巡回時観測終了。	15S294	RH 269	26-3
特別史跡・特別名 勝鹿苑寺(金園寺)	北・大北山不動山町	9/28	鹿苑寺境内北辺に設けられた土塁状遺構の断面を 確認。本報告14ページ。	15A004	RH 283	26-4
庭園隣接地						

北白川地区(KS)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北 白 川 慶 寺	左・北白川小倉町7-2, 7-3	7/28・29	GL-0.36mまで盛土。0.64mまで黒色泥砂、-0.82mまで暗灰色泥砂、-0.89mまで明黄色色泥砂。	15S161	KS 202	17
池田町古墳群	左・北白川池田町93-21	9/28・29	GL-0.29mまで盛土。0.6mまで灰黄褐色砂質土の中世包含層(土師器類)。	15S204	KS 276	17
北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町1-5	7/27・28	GL-1.78mまで盛土。	15S176	KS 195	17
吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡	左・吉田中大路町6	10/5・8	GL-0.88mまで盛土。-1.14mまで灰黄褐色砂泥の近世以降包含層。	14S549	KS 294	17
吉田神社境内、吉田上大路町遺跡、吉田山道遺跡	左・吉田神楽岡町30-1, 10	4/8・9・13・15・21	GL-0.87mまで盛土。-2.8mまで明黄色色砂質土と黒色砂質土とオリブ黒色砂質土の地山。この層を切って灰褐色と灰黄色と黄灰色細砂の江戸土坑(土師器皿・高台付皿)。土師器高台付皿は吉田神社の祭祀遺物。	14S429	KS 016	17
吉田泉殿町遺跡	左・吉田牛ノ宮町12-1	10/13	GL-0.33mまで盛土。	15S337	KS 303	17
白河街区跡	左・聖護院西町21-17	12/14・15	GL-0.16mまで盛土。-0.52mまで褐色泥砂、-0.81mまで暗褐色砂泥の近世以降包含層。-1.05mまでふい黄色粗砂(黒褐色細砂ブロック状泥)。-1.15mまでふい黄色色砂質シルトの地山。この層を切って黄褐色粘質シルトの時期不明ピット。	15S482	KS 375	17
白河街区跡	左・岡崎入江町40-1, 40-3	9/7・14・15	GL-0.65mまで盛土。-0.9mまで灰黄褐色粗砂(褐色シルトブロック状泥)～暗褐色砂質シルト～灰黄褐色細砂(黒色粘土ブロック状泥)の継合～中世包含層(土師器、瓦器類)。	15S260	KS 251	17
白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町5	11/20・27, 12/10	GL-2.15mまで盛土。-2.35mまで暗灰色泥砂。-2.62mまで灰白色粗砂と黄褐色粗砂の地山。	14S281	KS 353	17
白河北殿跡、白河街区跡	左・丸太町東大路西入東丸太町～聖護院川原町地先	4/22・23・28, 8/24・25	GL-0.93mまで盛土。-1.06mまで灰黄褐色シルト。-1.19mまで暗灰色粗砂。-1.29mまで暗褐色粗砂(礫泥)。	15R036	KS 045	17
白河北殿跡、白河街区跡	左・東竹屋町通川端東入東竹屋町60-21	8/27	GL-0.41mまで盛土。	15R175	KS 239	17
白河北殿跡、岡崎遺跡	左・聖護院蓮華蔵町2-3の一部、2-4	11/9・10	GL-0.83mまで盛土。-1.17mまで黒色泥砂の旧耕作土。-1.42mまで灰色細砂～シルト(ラミナ伴う)。-1.63mまで灰色粗砂(ラミナ伴う)。-1.73mまで灰色砂礫(ラミナ伴う)。	15R381	KS 332	17
白河南殿跡、白河街区跡	左・石原町279-3	11/24	GL-0.55mまで盛土。	15R419	KS 357	17
得長寿院跡、岡崎遺跡	左・岡崎地成町16-1の一部、16-3, 16-4の一部、18-8の一部	11/6	GL-0.15mまで盛土。	15R360	KS 327	17
成勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎最勝寺町13 地先 (岡崎公園～ルームシアター京都・みやこめっせ前バス停 東行)	12/7	GL-0.9mまで盛土。-1.13mまで黒褐色砂泥の近世包含層(瓦器、陶輪陶器、平瓦)。	15R455	KS 366	17
成勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎成勝寺町9-1 地先 (岡崎公園～ルームシアター京都・みやこめっせ前バス停 西行)	12/8	GL-0.98mまで盛土。-1.15mまでオリブ黒色泥砂の近世包含層。-1.17mまでオリブ褐色泥砂。-1.25mまで浅黄色シルト(礫砂泥)。	15R456	KS 368	17
成勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎成勝寺71, 9-1, 9-7	10/9	GL-0.57mまで盛土。-0.84mまで黒褐色泥砂の近世包含層。-0.84mまで暗褐色泥砂(固く締まる)の時期不明整地層。	15R259	KS 301	17
最勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎最勝寺町13, 94, 95, 市有地(未登記)	4/8～28, 5/12, 8/12	GL-0.72mまで盛土。-0.98mまで黒褐色泥砂。-1.07mまで灰黄褐色色泥砂。	14R602	KS 017	17
法勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	7/23・24	GL-1.48mまで盛土。-1.99mまで灰黄色細砂～微砂の地山。	09R580	KS 190	17
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町 地先	5/7・8	GL-0.67mまで盛土。-0.85mまでオリブ褐色泥砂の近世包含層。-0.98mまで黒褐色泥砂。-1.09mまで暗灰色粗砂。-1.15mまで黄褐色粗砂。-1.36mまでふい黄色粗砂(礫泥)。	14R598	KS 072	17

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺向畑町遺跡	左・修学院大林町5-5、5-6、5-7、6-16	7/6・13・14	№1：GL-0.28mまで盛上、-0.41mまで灰褐色色砂泥(ふい黄褐色砂泥がブロック状に凝じる)の近世以降整地層、-0.53mまで黒褐色色砂泥の室町包合層(土師器皿、土製品羽口)。№3：GL-0.44mまで盛上、-0.55mまで暗灰色粗砂の時期不明包合層。	15S117	KS 159	26-5
一乗寺西浦畑町遺跡、波辺館跡	左・一乗寺西浦畑町52の一部	9/25	GL-0.3mまで盛上、-0.43mまで黒褐色色砂(炭泥)、-0.55mまでにふい黄褐色色細砂、この層を切って暗褐色色砂の時期不明ビット。	15S308	KS 272	26-5

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
高台寺境内(雪厨寺跡)	東・下河原町通高台寺門前下河原町526-2	11/10・11	GL-0.4mまで盛上、-3.0mまでにふい黄褐色色砂の地山。	15S269	RT 337	18
法観寺旧境内	東・八坂上町385-6	4/16・21	平安後期の法観寺の回廊跡と考えられる固く締まった整地層を検出。本報告19ページ。	14S646	RT 032	18
六波羅政庁跡	東・大黒町通五条上る大黒町302-2	12/9	№1：GL-0.48mまで盛上、-0.67mまで灰オリーブ色砂礫、-0.99mまでオリーブ黒色砂礫の近世～近代包合層(土師器皿、施輪陶器)、-1.19mまで黒褐色粘土質シルトの室町包合層(瓦器羽釜)、-1.44mまでオリーブ褐色粘土質シルトの時期不明整地層(土師器、不明金属製品)、-1.58mまで黒褐色粘土質シルト。№2：GL-1.05mまで盛上、-1.31mまで暗灰色粘土質シルト、この層を切って黒褐色色砂礫の近世落込(土師器皿、平瓦)、-1.48mまで暗灰色粘土質シルト、-1.75mまで黒褐色色砂、この層を切って黒褐色色泥砂(炭含)の中世落込(土師器皿、施輪陶器皿、平瓦)。	15S365	RT 370	18
六波羅政庁跡	東・五条橋東五丁目465 地先	12/7	GL-0.87mまで盛上。	15S446	RT 367	18
六波羅政庁跡	東・五条橋東六丁目498-1、498-2	8/25～27・31	№1：GL-0.65mまで盛上、-0.96mまで黄色シルトの地山。№2：GL-0.15mまで盛上、-0.34mまで黒褐色粘土質土の中世包合層(土師器皿、瓦質土器羽釜)、-0.48mまでにふい褐色粘土質土の中世包合層(土師器皿、瓦器羽釜)。	15S240	RT 236	18
六波羅政庁跡	東・新町通五条下る大坂町359-1、359-2、362-1、362-2	12/15・16	GL-0.57mまで盛上、-0.74mまでにふい黄褐色色砂の近世包合層、-0.91mまで黒褐色色砂の時期不明包合層。	15S420	RT 379	18
六波羅政庁跡	東・耳塚通五条下る二丁目姪子町北組259	7/28・30、8/3	GL-0.78mまで盛上、-0.96mまで礫少量含む黄褐色色砂、-1.09mまで礫を多量に含むにふい黄褐色色砂。	15S064	RT 198	18
法住寺殿跡	東・大仏南門通本町東入上る南棟梁町560	9/25	GL-0.34mまで盛上、-0.55mまでにふい黄褐色シルトの地山、この層を切って黒褐色色砂の時期不明ビット(平瓦)。	15S098	RT 273	18
法住寺殿跡	東・本町九丁目～本町八丁目地先	10/8・9・15	GL-0.2mまで盛上、-0.3mまで黒褐色色砂の時期不明包合層、-0.57mまで暗褐色粘土質土、-0.82mまで褐色粘土質土の地山。	15S347	RT 300	18
法住寺殿跡	東・今無野御ノ森町22-23	8/3	GL-1.0mまで盛上。	15S209	RT 213	18
法性寺跡	東・泉涌寺雀ヶ森町1 地先(泉涌寺道バス停 南行)	11/9	GL-0.35mまで盛上。	15S380	RT 334	18
法性寺跡	東・本町通五条下る本町十九丁目399	10/2	GL-0.06mまで盛上、-0.16mまで明黄色色粘土(地山の可能性)、0.51mまで褐色粘土質土と黄褐色粘土質土の地山。	15S304	RT 290	26-7
法性寺跡	東・本町二十丁目435	10/6	GL-0.73mまで盛上。	15S341	RT 295	26-7

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図原
寺 町 旧 域	中・新烏丸通二条上る橘柳町164、166	5/7・12・14	GL-0.15mまで盛土。-0.41mまで焼瓦を多量に含む黄褐色泥砂の江戸末期火災処理整地層。-0.7mまで灰白色砂礫の鴨川川底堆積。-0.81mまで暗オリーブ褐色泥砂。-0.85mまで黒色砂泥の火災のため硬化した面。-1.03mまで灰色砂泥の整地層。-1.21mまで灰色砂泥の純山整地層(土師器皿、焼締陶器、染付椀、磁器碗)。この層を切って奉大の礎が詰まる土坑(礎石組込みの可能性)。-1.7mまで深い黄褐色砂礫の地山。この層を切って純山土坑(土師器皿、焼締陶器鉢鉢、磁器、平瓦)。	145494	RT 073	26.6
寺 町 旧 域	中・寺町通御池上る上本能寺前町488	5/26、6/1、7/14・21、8・3・7	№2: GL-0.86mまで盛土。-1.32mまで黒褐色泥砂の近世包含層(染付)。-1.54mまで暗褐色粗砂の鎌倉包含層(土師器皿、瓦器、瓦)。-1.65mまで黒褐色粗砂層。№3: GL-2.7mまで盛土。-3.0mまで河川堆積と考えられる黒灰色粗砂(礫混)。-3.28mまで褐色礫(砂)の地山。	145520	RT 101	26.6
寺 町 旧 域	中・新京極通三条下る板之町406、406-13、406-16	10/8・9・13・16	GL-0.85mまで盛土。-1.05mまで灰黄褐色泥砂。-1.12mまで灰黄褐色泥砂。-1.23mまで深い黄褐色細砂。-1.30mまで灰黄褐色粗砂(細く詰まる)。	155143	RT 297	26.6
中 臣 道 跡	山・東野舞台町54-4	7/6	GL-0.35mまで盛土。	15N048	RT 160	25.1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町55-10	9/4	GL-0.35mまで盛土。	15N301	RT 246	25.1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町55-2	8/4	GL-0.15mまで盛土。	15N219	RT 218	25.1
中 臣 道 跡	山・栗栖野塚1-6	7/10	GL-0.37mまで盛土。	15N155	RT 172	25.1
中 臣 道 跡	山・西野山中臣町 地先	8/10・11	GL-1.65mまで盛土。	15N216	RT 224	25.1
中 臣 道 跡	山・西野山中臣町 地先	8/10~12	№1: GL-0.66mまで盛土。-0.77mまで灰色シルトの旧耕作土。以下暗灰黄色砂泥の地山。№2: GL-0.7mまで盛土。-0.98mまで平安末期~鎌倉の灰黄褐色泥砂(土師器皿)。-1.13mまで灰黄色粗砂の地山。	15N229	RT 225	25.1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町97-10	10/15	GL-0.24mまで盛土。-0.35mまで灰オリーブ色シルト~微砂。	15N326	RT 306	25.1
中 臣 道 跡	山・助修寺西栗栖町176	9/29	濡り時層の腐敗。	15N320	RT 281	25.1
中 臣 道 跡	山・西野山中臣町185、186、187	7/13・27・28、9/25	№2: GL-0.2mまで耕作土。-0.24mまで黒褐色泥砂の時期不明包含層。-0.29mまで暗褐色泥砂の時期不明包含層。-0.32mまで深い黄褐色砂泥の地山。№4: GL-0.38mまで耕作土。-0.96mまで深い黄褐色シルトと深い黄褐色粘質土の地山。この層を切って暗褐色シルトの時期不明土坑。№5: GL-0.57mまで耕作土。-0.72mまで褐色シルトの地山。この層を切って黒褐色シルトの時期不明土坑。	14N640	RT 176	25.1
中 臣 道 跡、 中 臣 十 三 塚	山・西野山中臣町26-181	5/25、6/8・10	№1: GL-1.11mまで盛土。-1.45mまで黄褐色砂泥の地山。この層を切って褐色シルトと黄褐色シルトと暗褐色シルトの時期不明の落込。№2: GL-0.61mまで盛土。-0.7mまで黒褐色泥砂。-0.78mまで深い黄褐色シルト(池山ブロック含)。-1.28mまで明黄褐色シルトと浅黄褐色シルトの地山。	15N026	RT 097	25.1
安 朱 道 跡	山・上野御所ノ内町16-12	11/9	GL-0.25mまで盛土。-0.39mまで深い黄褐色砂泥。-0.52mまで灰色砂泥。-0.74mまで灰黄色砂泥の時期不明包含層。以下黒褐色粘質土の土壌化層。	155388	RT 333	26.8
山科本願寺跡 (寺内町道跡)	山・西野広見町5-12、5-17	6/8	GL-0.2mまで盛土。	145021	RT 117	27.1
山科本願寺跡 (寺内町道跡)	山・西野広見町6-1の一部	7/28	GL-0.27mまで盛土。	155147	RT 199	27.1
山科本願寺跡 (寺内町道跡)	山・西野離宮町40・他13塚、西野山隈町2・他15塚	7/29、10/6~16	平成27年発掘調査(145612)の宮町の堀(SD229)の延長部を検出。本報告22ページ。	145612	RT 205	27.1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺跡 (寺内町道跡)	山・東野舞台町20-16	7/9	GL-0.26mまで盛上。-0.4mまで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層。-0.43mまでオリーブ褐色泥砂の地山。この層を切って時期不明土質(土師器層)。	15S172	RT 168	27-1
左義長町道跡						
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町32-104	7/10	GL-0.52mまで盛上。以下黒褐色泥砂の室町包含層(焼締陶器・備前焼、土製品盛上)。	15S047	RT 171	27-2
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町32-25	6/23	GL-0.11mまで盛上。-0.18mまで黒褐色シルト。	15S018	RT 139	27-2
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町32-103	4/16	GL-0.65mまで盛上。	14S401	RT 036	27-2
史跡隨心院境内	山・小野御室町49-6	8/18	GL-0.22mまで盛上。	27N023	RT 232	27-3
史跡隨心院境内	山・小野御室町49-8	7/28	GL-0.16mまで盛上。	27N013	RT 200	27-3
史跡隨心院境内	山・小野御室町49-9	8/11	GL-0.4mまで盛上。	27N022	RT 228	27-3

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田西内畑町	6/8	GL-0.62mまで盛上。	15T127	TB 118	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田中殿町83-2	9/28・29	GL-0.22mまで耕作上。	15T234	TB 277	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田中殿町 地先	12/10・17	GL-0.78mまで盛上。-0.88mまで灰色泥砂の旧耕作上。-1.23mまで灰色シルト(パンガシ湖の湿地状堆積)。	15T395	TB 372	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町34, 35	7/16・17	GL-0.27mまで盛上。-0.43mまで旧耕作上。	15T050	TB 186	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・中島北ノ口町23, 24, 25	5/1・13・20, 6/2・16・26・30, 7/3, 10/14・19	№2: GL-0.35mまで盛上。GL-0.65mまで灰色泥砂混雑砂。-0.75mまで灰色礫混雑砂の近世包含層(梁付椽、平瓦)。-2.1mまで灰オリーブ色燻稲藁~粗砂と暗緑灰色泥上の地山。№4: GL-1.06mまで盛上。-1.14mまで灰黄褐色シルトの氾濫堆積。-1.35mまで褐色微砂混雑シルトの氾濫堆積。-1.80mまで黄灰色シルト。-1.97mまで灰色シルト。-2.20mまで灰色粘土。	14T244	TB 065	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田西樋ノ井町 地先	4/24, 6/24	GL-0.98mまで盛上。	15T027	TB 050	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町116-1	9/14・15	GL-0.6mまで盛上。	15T165	TB 262	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町 地先	9/4	GL-0.9mまで盛上。	15T290	TB 247	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町98	6/30, 7/2	GL-0.3mまで盛上。調査地は事前に試掘調査を行い、遺構を検出しており、当調査は掘削工事が遺構面に達しないことを確認するためのものである。	14T576	TB 148	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町 地先	12/15~17	GL-0.94mまで盛上。-1.16mまで灰色粘質土の時期不明包含層。-1.3mまで灰色細砂。-1.38mまで暗褐色粘質土の湿地状堆積。	15T484	TB 380	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町30, 131	11/30	GL-0.4mまで盛上。	15T425	TB 362	24-2
鳥羽道跡						
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町95	10/19	GL-0.23mまで盛上。	15T254	TB 308	24-2
道跡						
唐橋道跡	南・吉祥院九条町56, 57	5/27	GL-0.44mまで盛上。-0.64mまでに、黄褐色泥砂の旧耕作上。-0.8mまで黄褐色細砂。-0.91mまでに、黄褐色微砂。-2.12mまでに、黄褐色砂礫の地山。	14S620	TB 105	27-4
吉祥院天満宮境内	南・吉祥院政所町1-1の一部、2-2, 3, 3-1, 3-2の一部、3-4の一部、3-5の一部、3-6の一部、3-7の一部、3-8, 3-9, 3-10, 3-11, 4, 4-9, 5-1, 5-2	12/22	GL-0.46mまで盛上。-0.82mまでに、黄褐色粗砂。-0.99mまでに、黄褐色砂礫の氾濫堆積。-1.45mまでに、黄色粗砂。	15S321	TB 392	27-4
石原城跡	南・吉祥院石原町45-2, 45-3, 45-4	7/6・7	GL-0.5mまで盛上および掘瓦。-0.63mまで灰黄褐色泥砂の近世包含層(土師器層、梁付椽。-0.69mまで灰黄褐色泥砂。-0.78mまで暗灰黄色泥砂の中世包含層。-0.99mまで黄褐色泥砂の地山。この層を切って黄灰色泥砂の時期不明ヒット)。	15S065	TB 161	27-5
久我殿道跡	伏・久我本町3-5	6/12	GL-0.28mまで盛上。	15S014	TB 129	20

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図面
伏見城跡 板橋廃寺	伏・御駕堀町97	10/8	GL-1.7mまで盛土。	15F344	FD 298	14
伏見城跡 金森出雲遺跡	伏・桃山町金森出雲8-1, 8-8	12/8	GL-0.03mまで盛土, -0.26mまで褐色粘質土。	15F401	FD 355	14
伏見城跡 指月城跡	伏・桃山町奈良老176-6	10/20~ 11/12	近世の石垣構築前の造成土を掘出。本報告25ページ。	14F529	FD 312	14・ 15
伏見城跡	伏・桃山水野左近東町74-1, 74-2	5/13・15・ 18, 6/12	№1: GL-1.3mまで盛土, -1.53mまで暗オリーブ褐色砂泥の時期不明包含層, -1.91mまで暗褐色砂泥の時期不明包含層, 以下にぶい赤褐色砂泥の地山。№2: GL-1.08mまで盛土, -1.33mまで褐色砂質土の近世包含層, -1.53mまで黄褐色砂質土(地山の可能性)。№3: GL-0.54mまで盛土, -0.88mまで褐色砂質土の時期不明包含層, -1.12mまでにぶい褐色砂質土, -1.3mまで褐色砂質土, -1.49mまで暗褐色砂質土, -1.8mまで明褐色砂質土。	14F651	FD 083	
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部東町39	4/7・8	GL-0.25mまで盛土, -0.32mまで旧耕作土, 0.52mまで赤褐色シルト。	14F528	FD 013	14
伏見城跡	伏・新町十二丁目303-1	8/6・10	GL-0.66mまで盛土, -0.74mまで灰黄褐色泥砂, -1.14mまで明黄褐色シルト, -1.41mまで褐色粘質土(薄少量), -1.41mまで褐色粘質土。下層2層は伏見城跡の造成土の可能性。	15F145	FD 222	14
伏見城跡	伏・桃山長岡越中南町82	6/17	GL-0.5mまで盛土。	15F070	FD 136	14
伏見城跡	伏・西筒町十一丁目258-2	4/10	GL-0.4mまで盛土。	15F006	FD 022	14
伏見城跡	伏・下板橋町630地	7/1・2	GL-0.8mまで盛土, -1.03mまで褐色粘質土(細砂含)。	15F029	FD 150	14
伏見城跡	伏・下板橋町630地	7/1・2	GL-1.0mまで盛土。	15F031	FD 151	14
伏見城跡	伏・藤沢町9	7/13・14	掘削作業終了。	15F177	FD 177	14
伏見城跡	伏・京町六丁目73-1	7/30・31, 8/5・10・ 24, 9/30	№2: GL-0.41mまで盛土, -0.76mまでにぶい赤褐色シルトの時期不明整地層, -0.76mまで赤褐色シルトと褐色シルトの地山。№3: GL-0.43mまで盛土, -0.5mまで灰黄色粗砂, -0.54mまで黄色粗砂(固く締まる)。この2層は時期不明路面及び整地層の可能性, -0.68mまで灰褐色シルト。	15F232	FD 208	14
伏見城跡	伏・桃山町松平筑前1-31, 1-32	7/15	GL-0.35mまで盛土。	15F120	FD 185	14
伏見城跡	伏・新町五丁目491の一部	4/16~28	GL-0.73mまで盛土。	14F636	FD 037	14
伏見城跡	伏・道阿野町154-3, 154-4	5/21・29, 6/2・4・8・ 10	№1: GL-0.32mまで黒色シルトの近世包含層(土師器皿, 瓦器類), 0.8mまで暗褐色泥砂の時期不明包含層(土師器皿), -0.82mまで褐色泥砂(薄多量, 固く締まる)の整地層, -1.34mまで黄褐色砂礫。№2: GL-0.41mまで盛土, -0.98mまで灰赤色泥砂, -1.13m褐色泥砂(薄量)の伏見城跡整地層, この層を切ってにぶい褐色泥砂(薄量)の時期不明ピット(土師器皿), -1.32mまで黄褐色砂泥(薄量)の伏見城跡整地層, -1.76mまで明黄色褐色砂礫の地山。№3: GL-0.85mまで盛土, -1.15mまでオリーブ黒色泥砂, -1.19mまで黄褐色シルトの近世包含層(丸・平瓦), -1.54mまで黒褐色シルトの時期不明包含層(瓦器), この層を切って江戸上坂(土師器皿, 瓦), -1.65mまでにぶい黄褐色シルト, -1.87mまで暗灰黄色泥砂の地山。№4: GL-0.4mまで盛土, -0.51mまで褐色粘質土, -1.06mまでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層, -1.19mまで褐色シルトの近世包含層(土師器皿, 土製品伏見人形)。	14F616	FD 094	14
伏見城跡	伏・西筒町四丁目320-1, 320-2	9/2・3	GL-1.75mまで掘削, 以下灰白色砂礫の地山。	15F135	FD 241	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	版図
伏見城跡	伏・両替町四丁目306-1, 308-1	7/29・30	№1: GL-0.44mまで盛上。-0.85mまで黄褐色粘り砂(礫多量混)。この層を切って近世土坑。№2: GL-0.44mまで盛上。-0.54mまで褐色泥砂の近世包合層(土師器類)。-0.65mまで褐色泥砂(直径5cm大礫混)。-0.79mまで褐色泥砂(地山の可能性)。	15F231	FD 204	14
伏見城跡	伏・中油掛町89-1	9/3	GL-0.43mまで盛上。	15F281	FD 244	14
伏見城跡	伏・大阪町601	7/27・28	GL-0.22mまで盛上。	15F100	FD 196	14
伏見城跡	伏・南浜町259	9/8・25・28	GL-0.27mまで盛上。-0.76mまで明黄褐色粗砂。-1.02mまで褐色粗砂。-1.36mまで黄褐色粗砂。-1.48mまでにぶい黄褐色粗砂(灰混)。-1.6mまで褐色泥砂(礫混)。-1.74mまでにぶい黄褐色粗砂。この層を切って暗褐色粗砂の時期不明ピット(土師器)。-1.92mまで明黄褐色粗砂。	15F160	FD 253	14
伏見城跡	伏・京町一丁目272	9/11~30	GL-0.68mまで盛上。	15F279	FD 258	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町812	12/2・25	GL-1.49mまで盛上。	15F407	FD 364	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町153-7	4/1・30	GL-0.3mまで盛上。-1.36mまで明黄褐色粗砂(礫混)。-2.58mまで明黄褐色砂礫。明黄褐色粗砂(礫混)は西へ向かって傾斜を持ち、前部分には上下に炭層を挟んだ幅約0.2mのぶい黄褐色粗砂(礫多量)。その傾斜を理めるように明褐色粗砂が堆積。	14F511	FD 004	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷六林町14-2, 14-5, 14-7, 47-2	9/28・29	GL-0.45mまで盛上。-0.75mまで褐色粘り質土(砂礫少混)。-0.88mまで明褐色粘り質土(礫有り)。	15F110	FD 279	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷六林町~桃山町正宗地先	7/14・15・21~24	№2: GL-0.05mまで盛上。-0.13mまで明黄褐色粘り質土。-0.24mまで明黄褐色微砂。-0.28mまで灰白色粘り土。-0.5mまで褐色泥砂。-0.7mまで黄褐色粘り質土。-1.0mまでにぶい赤褐色粘り質土。この6層は、伏見城期造成上で上3層は化粧土の可能性。№3: GL-0.24mまで盛上。-0.38mまで褐色粘り質土(礫混)。-0.48mまでにぶい黄褐色粘り質土。-0.69mまで明褐色粘り質土。-0.95mまでぶい黄褐色粗砂。-1.31mまで明赤褐色粘り質土。この5層は伏見城期造成上。	15F182	FD 180	15
伏見城跡	伏・桃山町正宗39-41, 42-19, 42-20, 42-21	9/18	GL-0.22mまで盛上。-0.32mまで褐色粘り質シルト(礫り良い)の整地層。-0.58mまで明褐色シルト(礫り悪い)の造成土。-0.73mまで褐色粘り質シルト(礫り良く炭化物含)。	15F201	FD 264	15
伏見城跡	伏・桃山町島津71	6/17~19・22・25, 7/8・17・27・29	№1(調査地北側): GL-0.38mまで盛上。-0.24mまで明黄褐色粘り質土がブロック状に混じる明褐色粘り質土。この層は伏見城期の造成上の可能性。№2(調査地南側): GL-1.01mまで盛上。-1.16mまで黄褐色砂礫。	15F035	FD 135	15
伏見城跡	伏・桃山町前台区36-2	7/8	№1: GL-0.2mまで盛上。0.24mまで灰白色粘り質土(細砂混)。-0.28mまで褐色粘り質土。-0.29mまで灰色粘り質土(細砂混)。盛上以下の層は伏見城期造成上の可能性。№2: GL-0.31mまで盛上。-0.4mまで明褐色粘り質土。この層は伏見城期造成上の可能性。	15EE	FD 165	15
安楽行院跡、深草坊町遺跡	伏・深草坊町	9/28, 10/2~14, 11/11~17	GL-0.25mまで盛上。-0.33mまで明黄褐色泥砂の地山。この層を切ってにぶい黄褐色泥砂の時期不明ピット。	15S333	FD 278	27-6
安楽行院跡、深草坊町遺跡	伏・深草前坊町29, 31-2, 33-4と27-1の一部	4/28・30, 5/7	GL-1.07mまで盛上。-1.24mまで明黄褐色細砂。-1.4mまで黒色シルト。-1.48mまで褐色泥砂(礫混)。	14S537	FD 059	27-6
深草坊町遺跡	伏・深草瓦町57-2, 57-3	4/1	GL-0.5mまで盛上。	14S571	FD 005	27-6
太閤堀(小倉堤、横島堀)	伏・向島鷹場町7-3	9/30	GL-0.8mまで盛上。-0.94mまでにぶい黄褐色シルト。-1.45mまでにぶい黄褐色粗砂。-1.64mまでにぶい黄褐色シルト。-2.04mまでにぶい黄褐色粗砂。-2.13mまでにぶい黄褐色シルト。-2.56mまでにぶい黄褐色粗砂。-0.94m以下は堤造成土の可能性。	15S276	FD 284	27-7

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺二坊十四・十五町跡	南・久世殿城町288-1	10/8・19・20、12/8・9・17	GL-0.78mまで削平、-0.89mまでにふい黄褐色シルト、-0.96mまでにふい黄褐色シルト(マンガシ沈着物)、-1.22mまで黄褐色シルト(マンガシ沈着物有、地山の可能性)。この層を切って暗褐色～褐色色シルトの時期不明な層。	15NG268	NG 299	19
左京二条四坊十二町跡	伏・久我西出町1-28他	5/11	GL-0.75mまで盛上及び旧耕作土、-1.38mまで灰色シルト、-1.57mまで緑灰色細砂、-2.22mまで黒色極細砂(有機物多量)。	14NG200	NG 082	19・20
左京四条三坊十三・十四町、四坊四町跡、羽東師菱川城跡	伏・羽東師菱川町 地内	7/7・8・17	GL-0.71mまで盛上、-2.18mまで黄灰色粘質土(地山の可能性)。	15NG167	NG 164	20
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町537-57	12/17	GL-0.62mまで盛上。	15NG492	NG 388	20
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町537-60	11/26	GL-0.3mまで盛上。	15NG432	NG 361	20
左京五条三坊五町跡	伏・羽東師古川町322他	7/8	GL-0.93mまで盛上、-1.43mまでにふい黄褐色粘質土(盛上の可能性)。	15NG184	NG 166	20
左京五条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町351-1、羽東師古川町273	5/7	GL-1.97mまで盛上、-2.51mまで灰色シルトと灰色砂泥と暗オリーブ粘質土の旧耕作土、-2.7mまで灰色粘質土。	14NG523	NG 074	20
左京五条四坊十六町跡、長黒遺跡	伏・羽東師志水町126-1	4/30、6/11	GL-1.4mまで盛上、-1.93mまで暗灰黄色泥砂、-1.87mまで暗オリーブ灰色粘質土の旧耕作土。	15NG019	NG 061	20
左京八条四坊四町、九条四坊一町跡	伏・納所屋柳～納所和泉屋 地先	6/29・30、7/3	GL-1.1mまで盛上。	15NG152	NG 144	21
左京八条四坊四町、九条四坊一町跡	伏・納所屋柳 地内	7/21	GL-0.3mまで盛上。	15NG213	NG 188	21
左京九条二坊十二・十三町、三坊四町跡、淀城跡	伏・淀木津町他 地先	4/17・20～24・30、5/15	GL-0.25mまで盛上、-1.61mまで暗褐色細砂、-1.71mまで灰オリーブ褐色シルト、-2.13mまで灰色粘質土(一部オリーブ褐色粘質土)、-2.49mまで灰色粘質土。調査地は事前に試掘調査を行い遺構を検出しており、当調査は掘削工事が遺構面に達しないことを確認するためのものである。	14NG534	NG 040	21
左京九条四坊五町跡	伏・霞島渡場島町32	7/23	GL-0.71mまで盛上、-0.95mまで灰色粘土の現代湿地堆積、-1.12mまで灰色微砂(洪水堆積の可能性)。	15NG121	NG 191	21
左京九条四坊五町跡、淀城跡	伏・霞島渡場島町32	7/6・21	GL-1.65mまで盛上、-1.79mまでにふい黄褐色粗砂の洪水堆積、-1.98mまで黄褐色泥砂の洪水堆積、-2.16mまでにふい黄褐色泥砂の洪水堆積、-2.34mまでにふい黄褐色泥砂(炭化物含)の洪水堆積、-2.47mまで灰オリーブ色泥砂の洪水堆積、-2.53mまでオリーブ色泥砂。	14NG613	NG 162	21

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上久世遺跡	南・久世上久世町433	7/28・31	№1: GL-0.61mまで盛上、-0.7mまで旧耕作土、-0.97mまで黄褐色シルト、この層を切ってにふい黄褐色シルトの平安末期ビット(土師器面)、-1.11mまで黄褐色微砂。№2: GL-0.6mまで盛上、-1.15mまでにふい黄褐色シルトの地山、この層を切ってにふい黄褐色～灰色シルトと褐色色シルト質極細砂の時期不明の上土。	15S179	MK201	19
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-4	12/17	GL-0.1mまで盛上。	15S480	MK387	19
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-16	7/2	GL-0.15mまで盛上。	15S096	MK153	19
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-17	11/10	GL-0.1mまで盛上。	15S367	MK338	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世西城跡135-1, 135-5, 135-8, 135-7	6/29, 7/2	GL-0.48mまで盛上。-0.82mまで灰色シルト(マンガン含有)。-1.11mまで暗灰色色砂砂(マンガン含有)。-1.39mまでにふい黄色色砂砂の自然流路堆積上。	155079	MK146	19
福西古墳群	西・大枝中山町7-197	9/29	GL-0.2mまで盛上。	155318	MK282	25-2
福西古墳群	西・大枝中山町3-224	5/18	GL-0.54mまで盛上。	155088	MK090	25-2
福西古墳群	西・大枝北福西町一丁目 地先	5/13・15	GL-1.4mまで盛上。	155068	MK084	25-2
福西古墳群	西・大枝北福西町三丁目 地内	10/1~11/11	GL-1.8mまで盛上。	145539	MK289	25-2
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山上海道町 地先	9/24	GL-0.28mまで盛上。0.55mまでにふい黄褐色砂質土。-0.9mまでにふい黄褐色砂質土。	27N041	MK243	27-8
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山樋ノ上町1-90	6/9	GL-0.38mまで盛上。	27C017	MK123	27-8
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山上海道町41-3	5/27	GL-0.08mまでにふい黄褐色シルト。-0.17mまで灰黄褐色シルト(暗褐色色砂砂がブロック状詰り近世包含層)。	27C005	MK104	27-8
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山東海道町31-14, 31-15	11/13	GL-0.3mまで盛上。	27C059	MK342	27-8
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山山ノ下町8-1	9/11	GL-0.75mまで盛上。-0.8mまで褐色砂砂の近世整地層。	27C025	MK263	27-8
史跡・名勝嵐山 嵐山谷ヶ子子町遺跡	西・嵐山谷ヶ子子町3-19, 3-29, 3-28	8/26	GL-0.15mまで盛上。	27C034	MK237	27-8
史跡・名勝嵐山	西・嵐山東海道町2-2	5/15	GL-0.18mまで盛上。	27C007	MK088	27-8
史跡・名勝嵐山	西・嵐山東海道町2-57, 4-6	5/15	GL-0.31mまで盛上。	27C006	MK087	27-8
史跡・名勝嵐山	西・嵐山森ノ前町1-20, 1-18	5/1	GL-0.31mまで盛上。	26C059	MK066	27-8
史跡・名勝嵐山	西・嵐山森ノ前町27	4/14・23, 5/15	GL-0.24mまで耕作土。-0.5mまで灰黄色色砂砂とにふい黄色粘質土の層耕作土。-0.55mまで黄灰色砂砂の時期不明洪水堆積。	26N085	MK033	27-8
桂徳大寺町遺跡	西・桂徳大寺町 地内	11/13	№1 : GL-1.35mまで盛上。-1.45mまで灰黄褐色粘質土。-1.6mまでにふい黄褐色粘質土(時期不明包含層。-1.8mまでにふい黄褐色粘質土(砂含有)の時期不明包含層。-2.0mまで暗褐色粘質土。-2.1mまで暗褐色砂砂の地山)。	15S331	MK341	28-1
革船館跡	西・川島玉湖町	8/3・5・12	№1 : GL-0.4mまで盛上。0.57mまでにふい黄褐色シルト。-1.1mまでにふい黄褐色シルトの地山。この層を切って褐色シルトの時期不明土坑。 №3 : GL-0.25mまで盛上。-0.4mまで旧耕作土。-0.95mまでにふい黄褐色シルトの地山。この層を切って灰黄褐色シルトの時期不明高台。	15S245	MK214	28-2
下津林遺跡	西・下津林水掛町 地内	11/24・26	GL-0.35mまで盛上。-0.45mまでにふい黄褐色粘質土。-0.55mまで暗褐色シルトの古墳中期空層(円筒形)。 -2.91mまでにふい黄褐色粘質土の地山。この層を切ってにふい黄褐色粘質土の時期不明南北溝(土師器埋)。	14S390	MK358	28-2
菅原遺跡	西・菅原塚ノ本町10, 10-1	7/31	GL-0.47mまで盛上。-0.83mまで灰色粗砂の地山。	14S519	MK210	28-3
上里北ノ町遺跡 大原野石見遺跡	西・大原野上羽町~大原野石見町 地内	4/8~12/2	GL-0.18mまで盛上。-1.5mまでにふい黄褐色粘質土と黄褐色砂砂の地山。	14S311	MK018	28-4
上羽古墳	西・大原野上羽町167	6/8・11・22	GL-0.89mまで盛上。-1.21mまで黒褐色色砂砂。-1.32mまでにふい黄褐色色砂砂の近世包含層(土師器埋)。	15S043	MK119	28-4

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
岡山瓦窯跡	右・京北岡山町上ノ段 地内	4/6, 5/25・28, 6/2・12・15, 8/13	GL-0.76mまで盛上。-0.85mまで灰色色砂砂。-0.95mまで灰色色砂砂。-1.03mまで灰色色砂砂に灰白色粘質土がブロック状に混ざる(時期不明整地土の可能性)。以下黄褐色岩盤の地山。	14S587	UK 011	25-3

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしようざいふんぷちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正児・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡	京都市中京区衣通通舞小路下る下妙覚寺町195-1	26100	1 464 470	35度 00分 42秒	135度 45分 26秒	2015/3/20 ～ 30		共同住宅
平安京右京北辺三坊六町跡	京都市北区大将軍坂田町22	26100	1	35度 01分 32秒	135度 43分 33秒	2014/12/2～ 2015/1/29		寮
平安京右京四条三坊十二町跡・西院城(小泉城)跡	京都市右京区西院鞍町70	26100	1 933	35度 00分 13秒	135度 43分 35秒	2015/8/19, 21		共同住宅
特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金園寺)庭園隣接地	京都市北区大北山不動山町	26100	A105	35度 02分 29秒	135度 43分 43秒	2015/9/28		管理用道路
植物園北遺跡	京都市左京区下鴨南野々神町1	26100	146	35度 03分 01秒	135度 46分 20秒	2015/4/3 ～13		学校
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京三条三坊七町跡・烏丸御池遺跡・妙覚寺城跡	都城跡 集落跡 城跡	室町時代	井戸, 土坑	土師器, 銭貨				
平安京右京北辺三坊六町跡	都城跡	奈良時代 室町時代	掘立柱建物, 柱穴	土師器, 須恵器		2013年度発掘調査の補足調査		
平安京右京四条三坊十二町跡・西院城(小泉城)跡	都城跡 城跡	室町時代～ 江戸時代	溝, 落ち込み	土師器, 黒色土器, 施軸陶器 杭		南北方向に通る溝を確認		
特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金園寺)庭園隣接地	特別史跡 特別名勝	室町時代	土塁状遺構			寺城北辺において土塁状遺構の存在を確認		
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物					

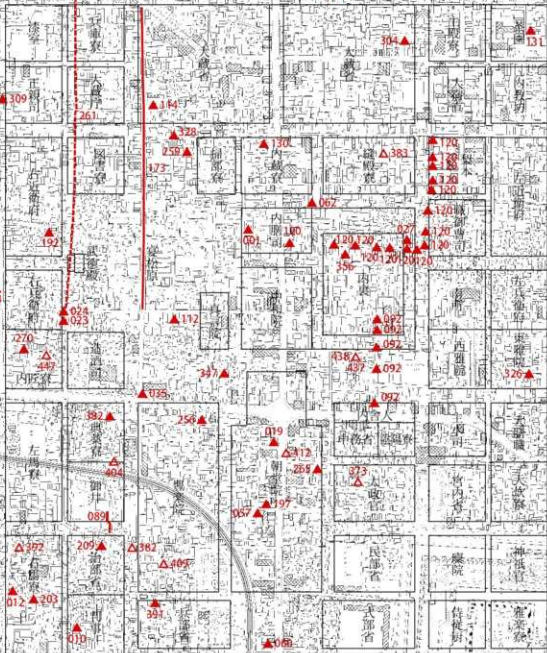
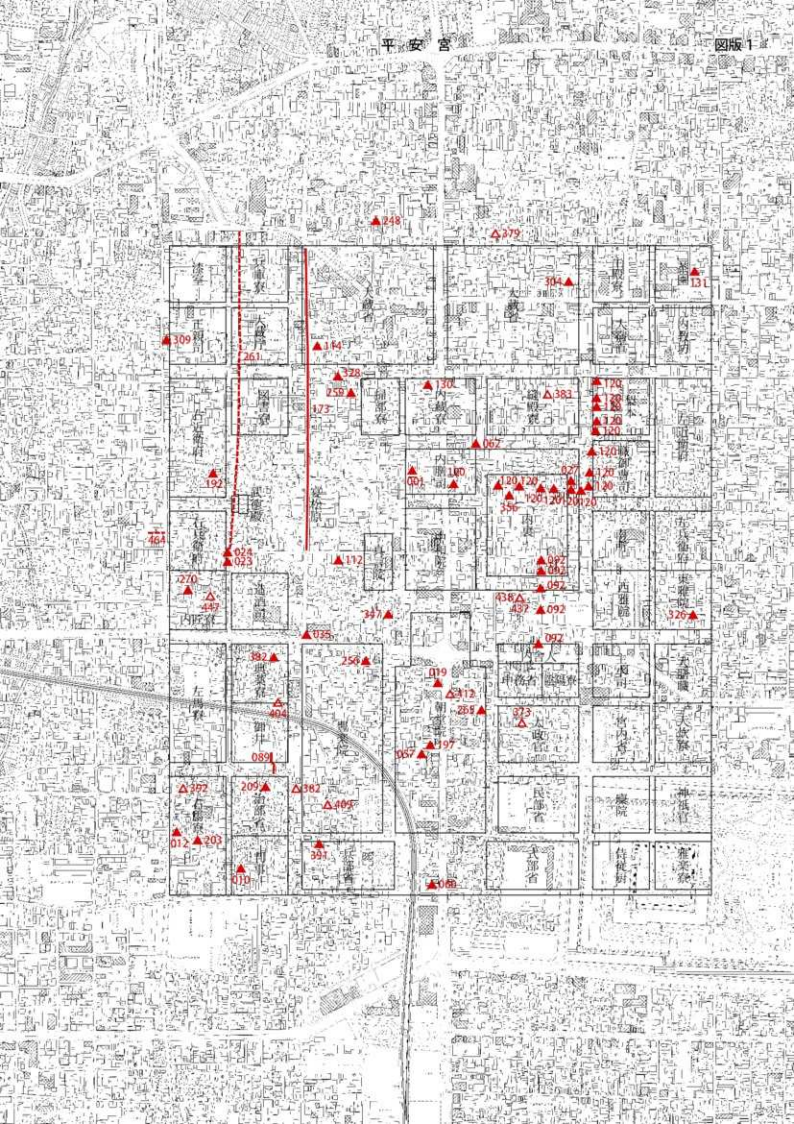
報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうざいふんぶちょうざほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者著名	馬瀬智光・堀大輔・家原主太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
法観寺旧境内	京都市東山区 八坂上町385-6	26100	532	34度 59分 53秒	135度 46分 45秒	2015/4/16,21		店舗
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)・ 左義長町遺跡	京都市山科区 西野難宮町40他13筆・ 西野山崩町2他15筆	26100	626 628	35度 00分 13秒	135度 43分 35秒	2015/7/29・ 10/6～16		工場
伏見城跡・ 指月城跡	京都市伏見区 桃山町泰長老176-6	26100	1172 1182	34度 55分 49秒	135度 46分 11秒	2015/10/20～ 11/12		共同住宅
伏見城跡・ 指月城跡	京都市伏見区 桃山町(桃山園有林)	26100	1172 1182	34度 56分 19秒	135度 47分 40秒	2014/9/22～ 2015/8/14		災害復旧
長岡京左京九条 三坊三・四・六町 跡・流水垂天下 津町遺跡	京都市伏見区 流水垂町	26100	3 1214	34度 54分 41秒	135度 42分 49秒	2014/11/19		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
法観寺旧境内	寺院跡	平安時代	整地層			法観寺旧境内の南限を区切る整地を確認		
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)・ 左義長町遺跡	寺院跡 集落跡	室町時代	堀,土坑	土師器,瓦器		2015年度発掘調査の 補足調査		
伏見城跡・ 指月城跡	城跡	安土桃山～ 江戸時代	石垣,裏込め,造成土	軒瓦,丸・平瓦(金箔瓦)		2015年度発掘調査の 補足調査		
伏見城跡・ 指月城跡	城跡	安土桃山～ 江戸時代	土坑	瓦				
長岡京左京九条 三坊三・四・六町 跡・流水垂天下 津町遺跡	都城跡 集落跡	安土桃山～ 江戸時代	石垣,杭列	陶磁器類,瓦		台風の影響により與軒 神社の石垣が露出		

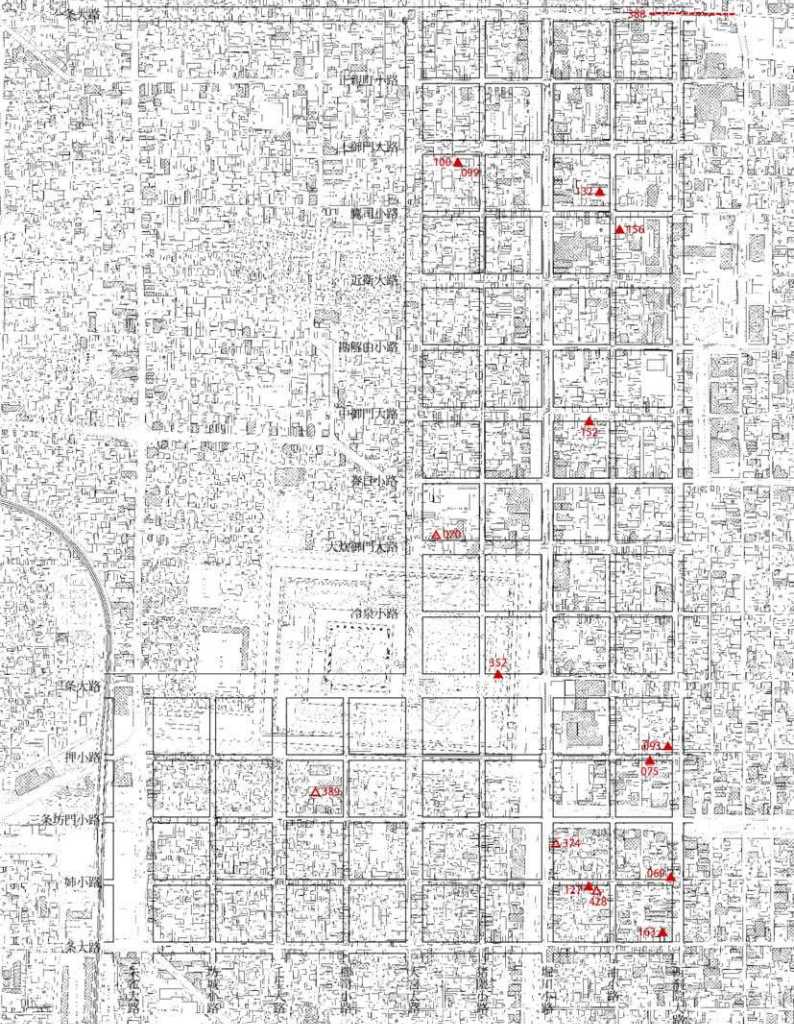
圖 版

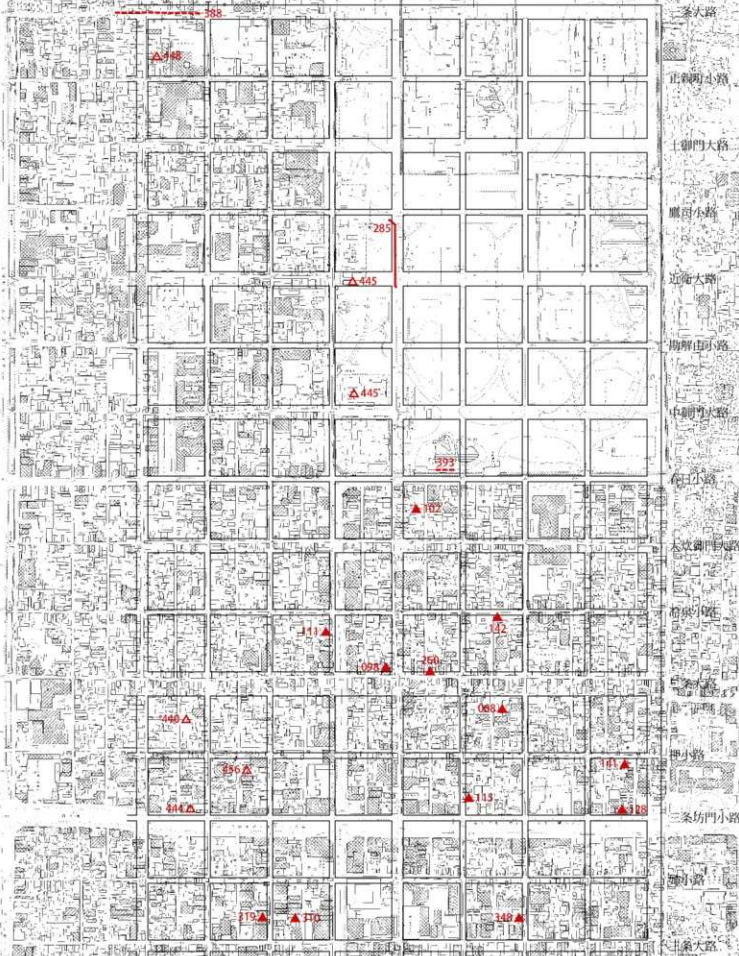
凡 例

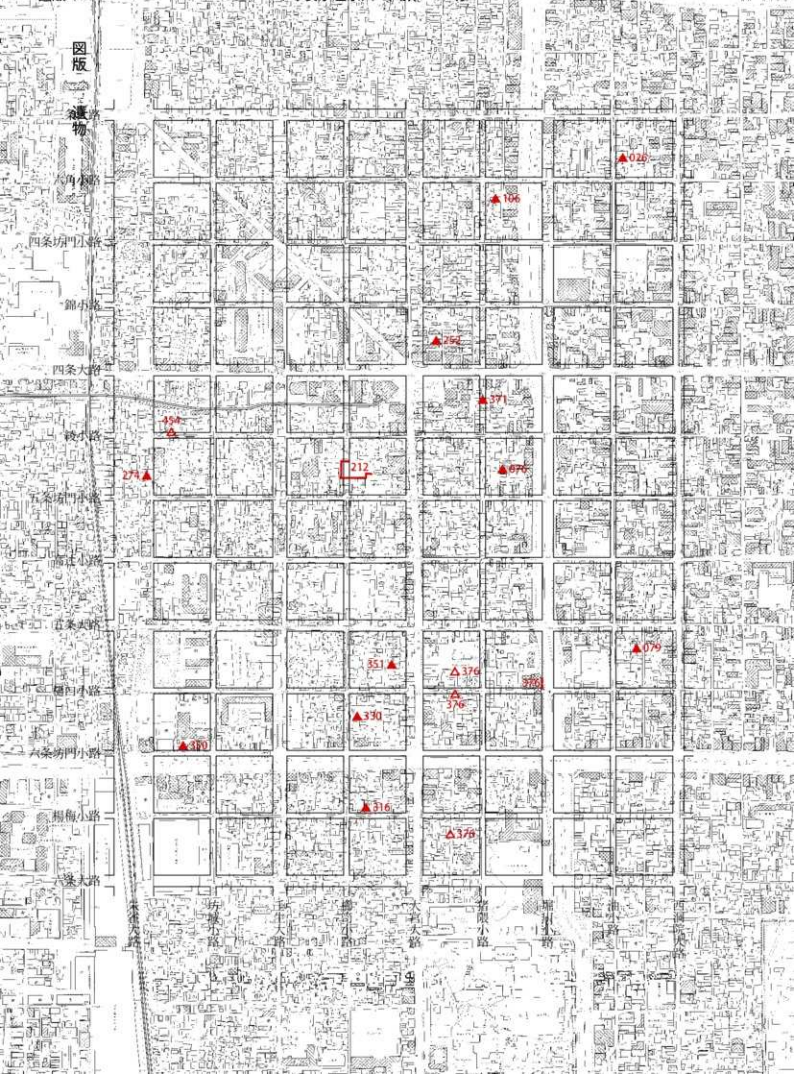
- △ ----- 2015年1～3月期(平成26年度)詳細分布調査地点
▲ —— 2015年4～12月期(平成27年度)詳細分布調査地点

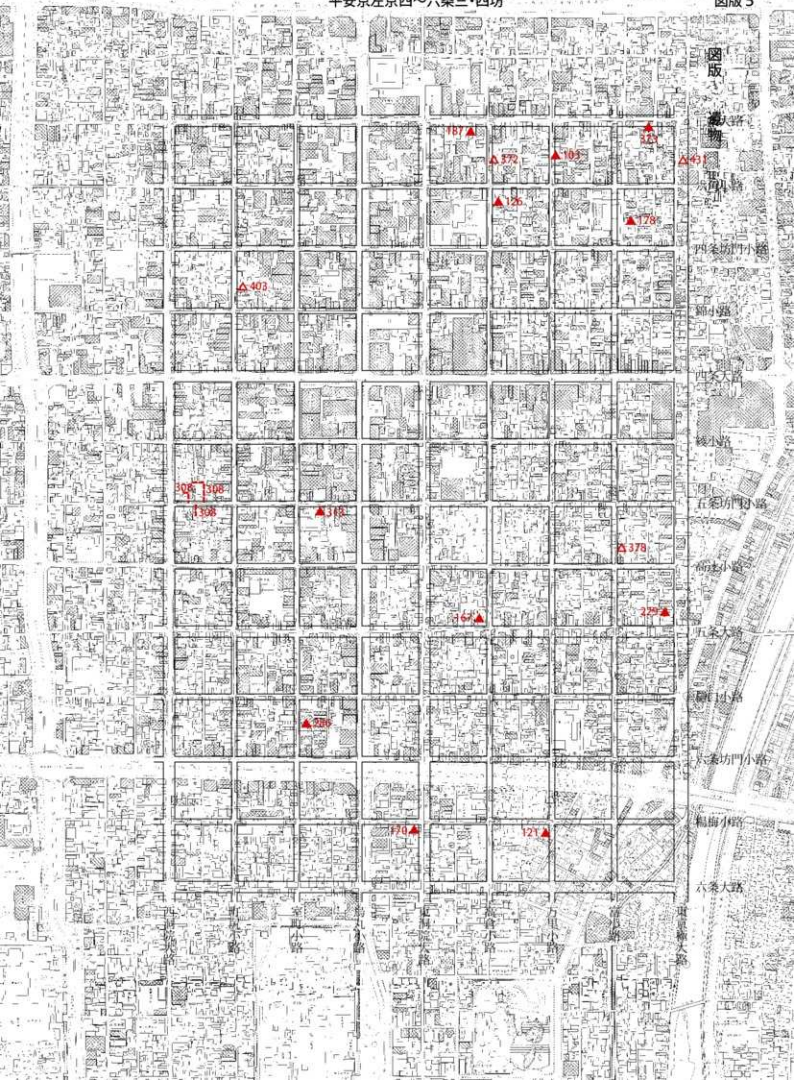


图版 2

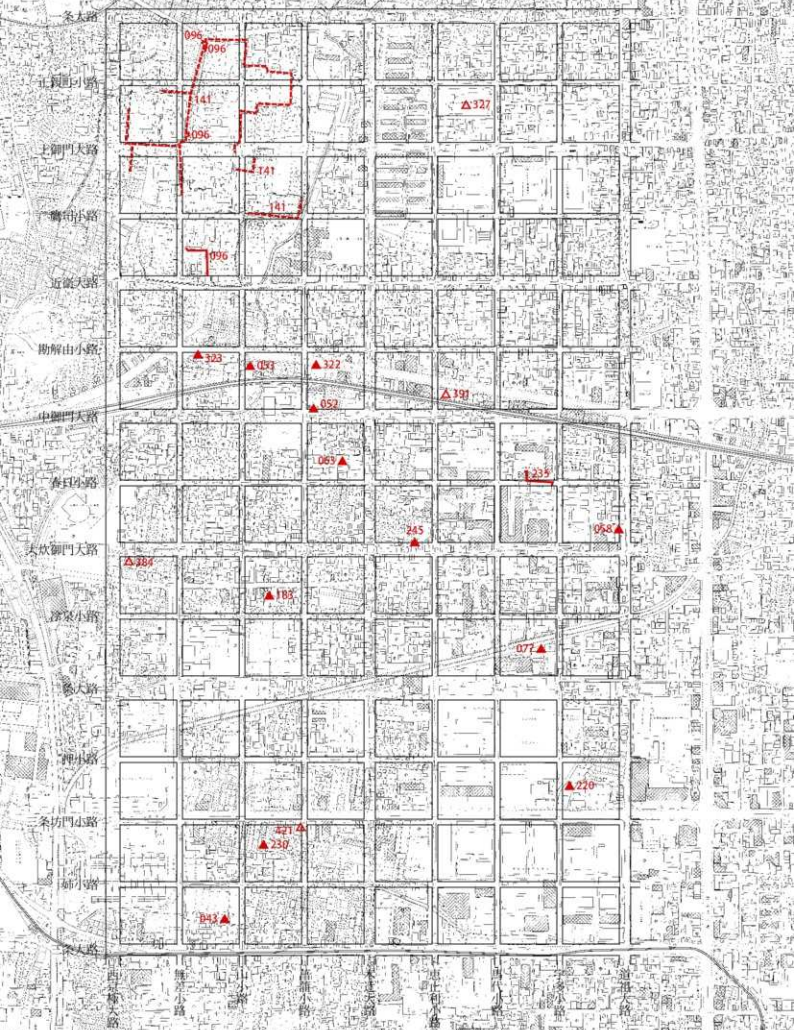


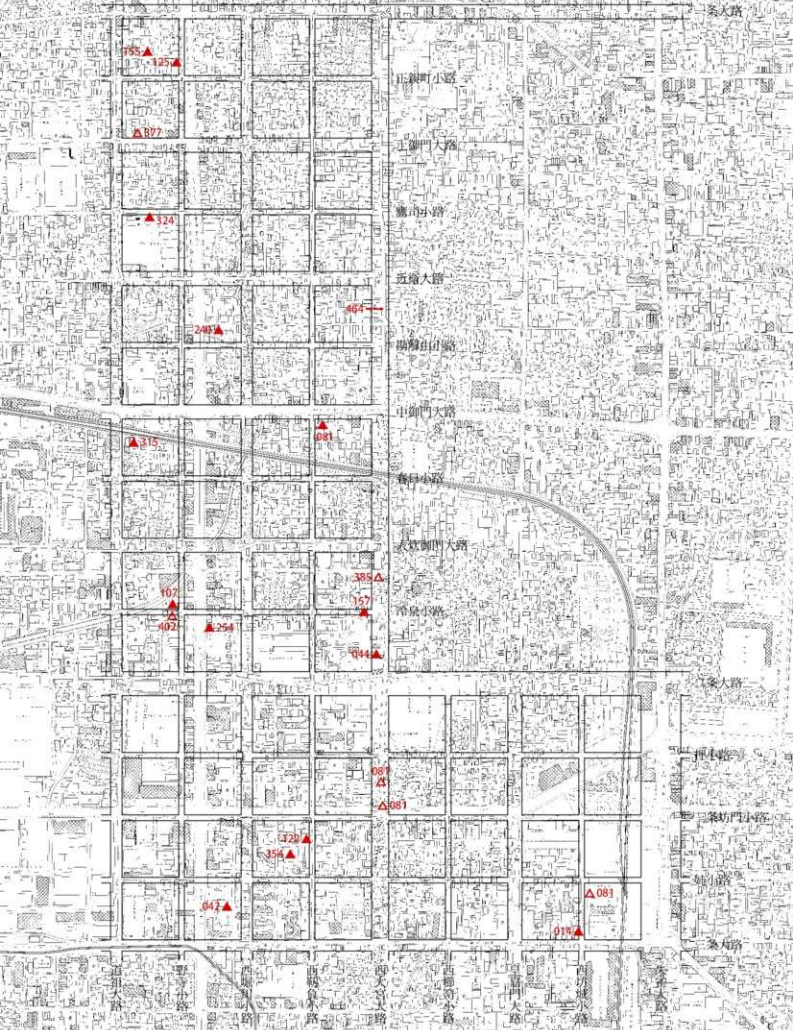




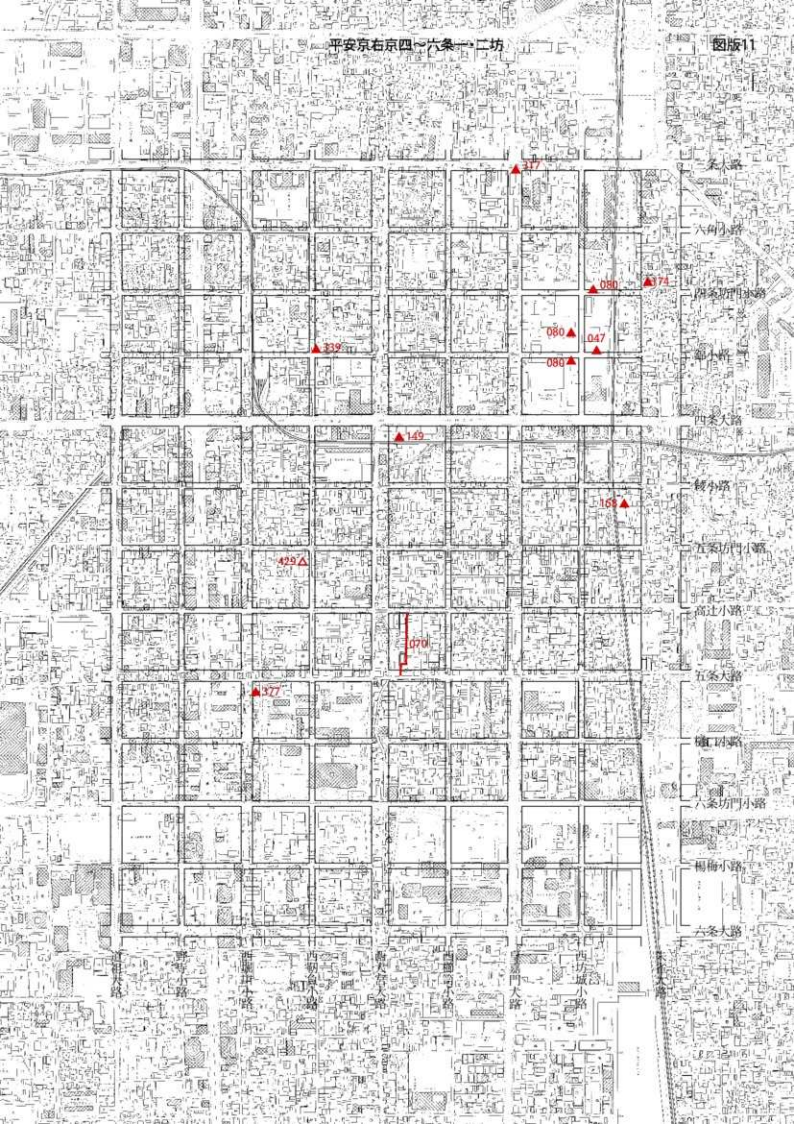














大条大路

左女牛小路

七条横門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条横門小路

堀小路

八条大路

堀小路

九条横門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無名小路

山小路

高麗小路

木辻大路

惠止利小路

堀八小路

宇多小路

道場大路

▲008

▲459

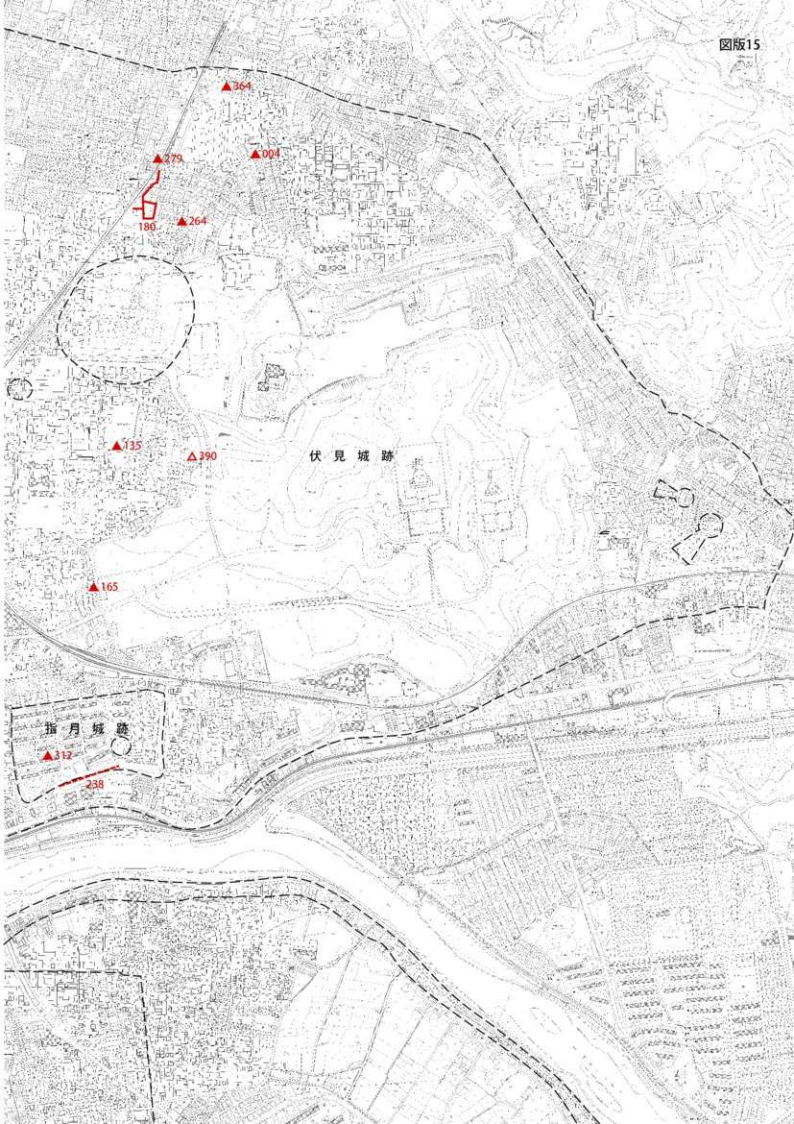
▲179

▲221

▲285

▲178







田宗寺跡
134▲

仁和寺院家跡
▲184

草木町遺跡
266▲

村ノ内町遺跡

太秦馬場町遺跡
▲397

常盤東町古墳群
▲418
▲829 ▲154 ▲427 ▲028

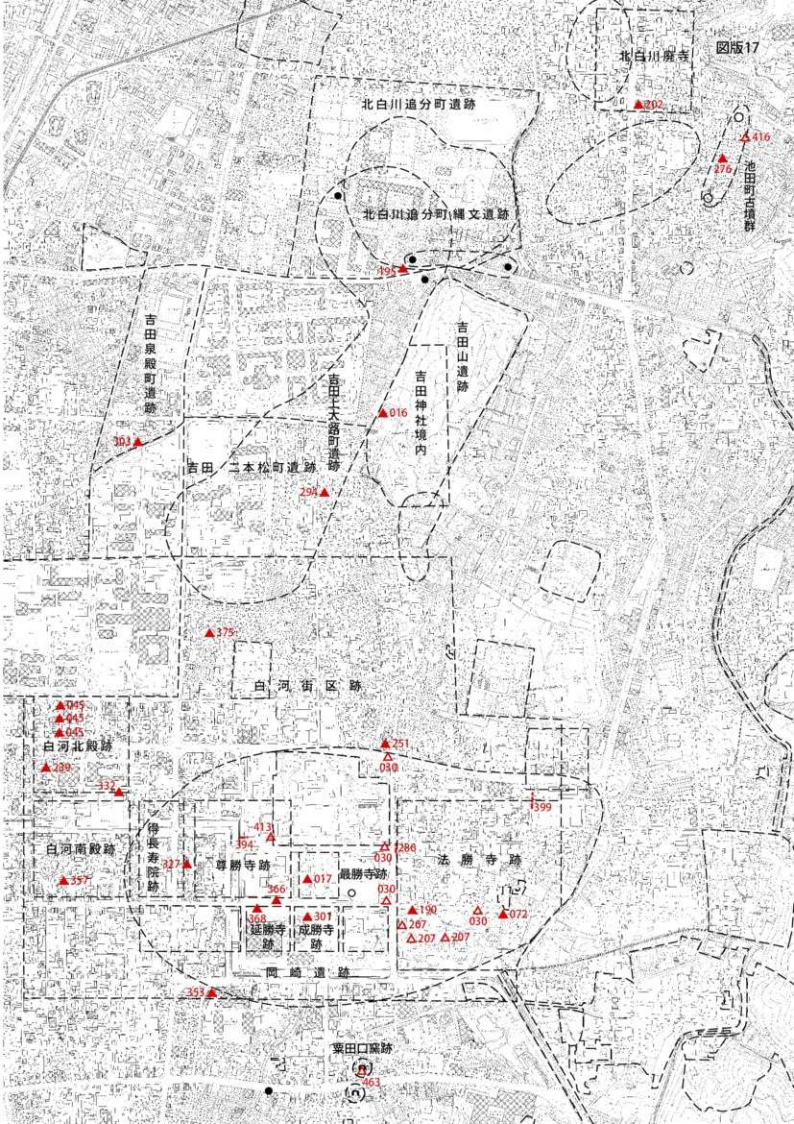
上ノ段町遺跡
▲302
▲367

森ノ東瓦窯跡
▲395
和親式部町遺跡

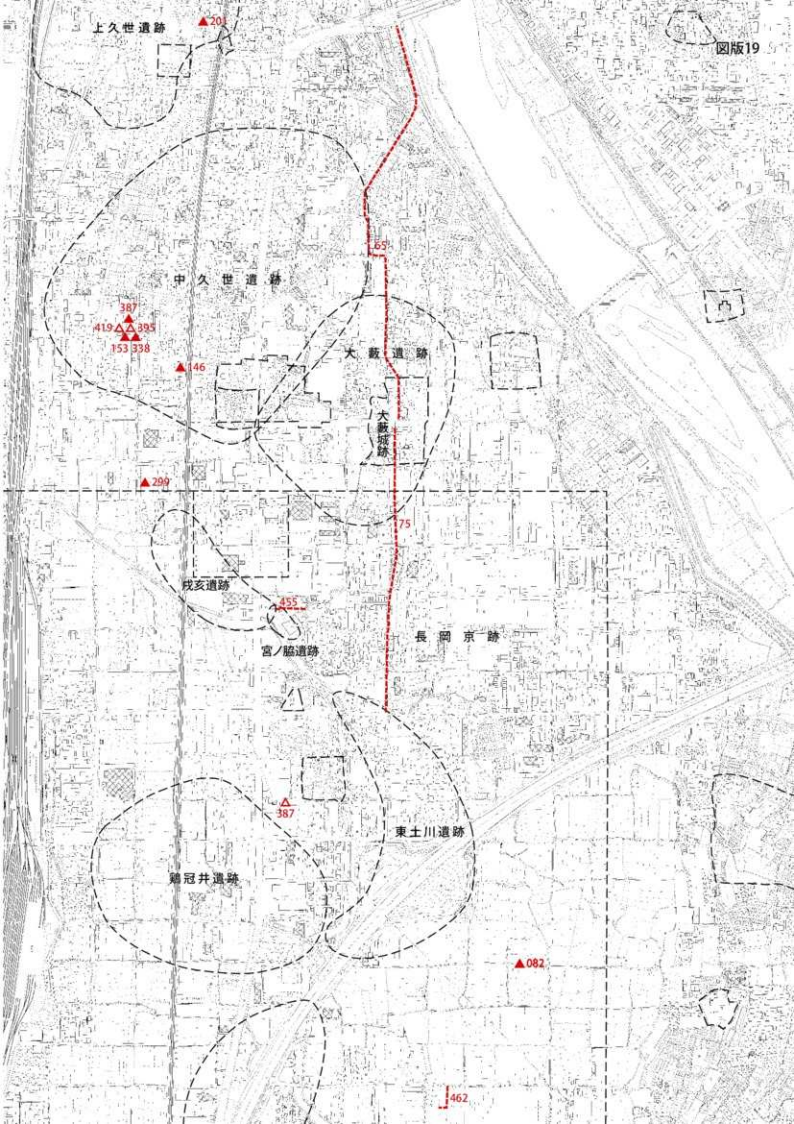
西野町遺跡

梅津坂本町遺跡
▲054

▲293
門田町遺跡







上久世遺跡 ▲201

中久世遺跡

▲387
▲419 ▲395
▲153 338

大藪遺跡

大藪堀跡

嵯峨遺跡

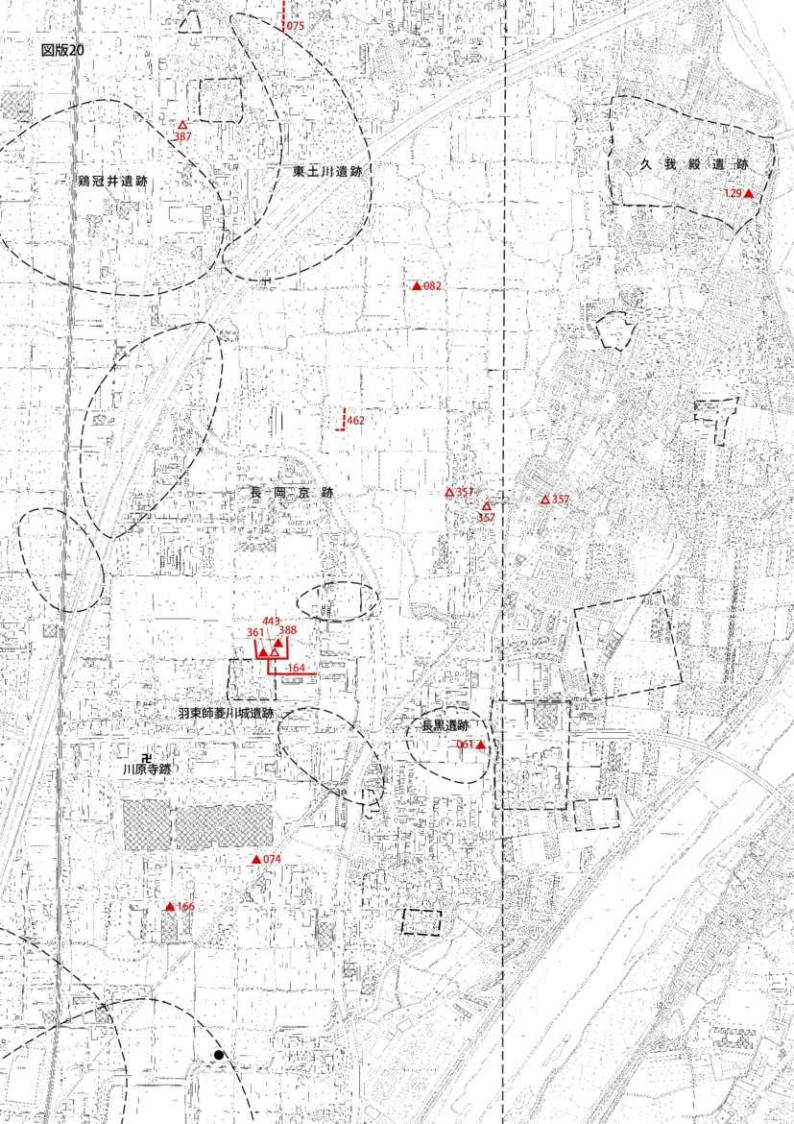
宮ノ船遺跡

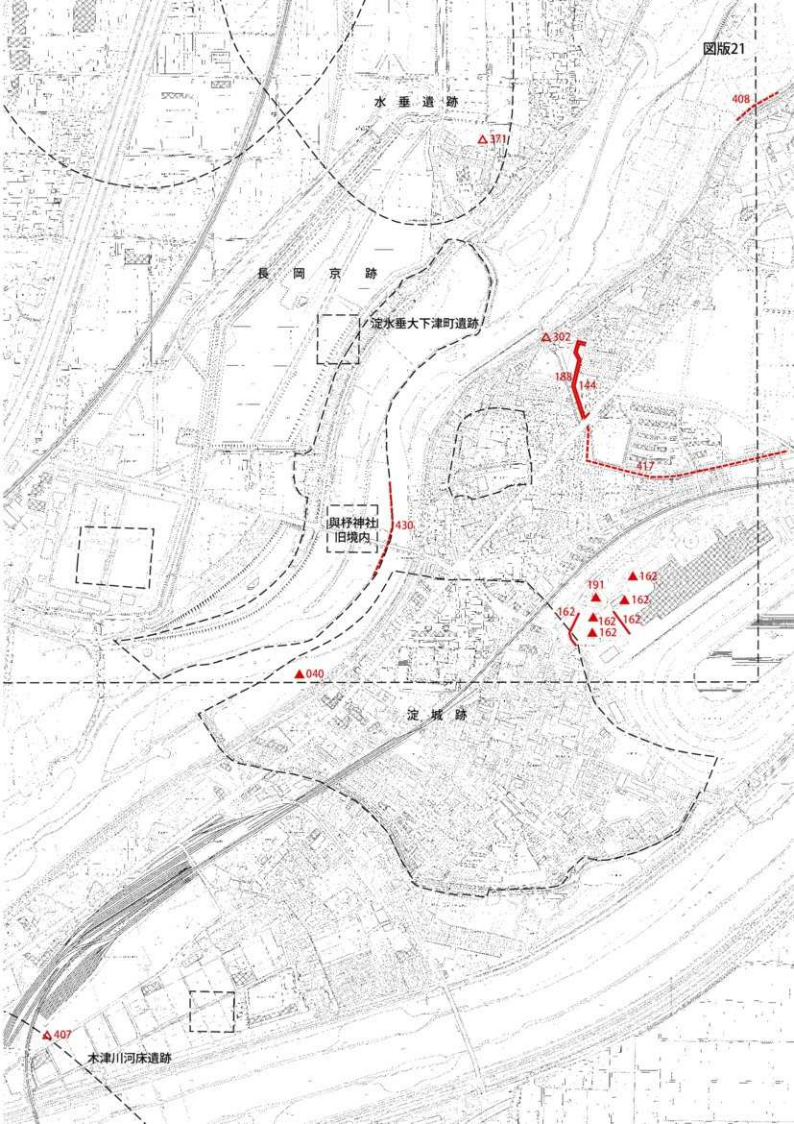
長岡京跡

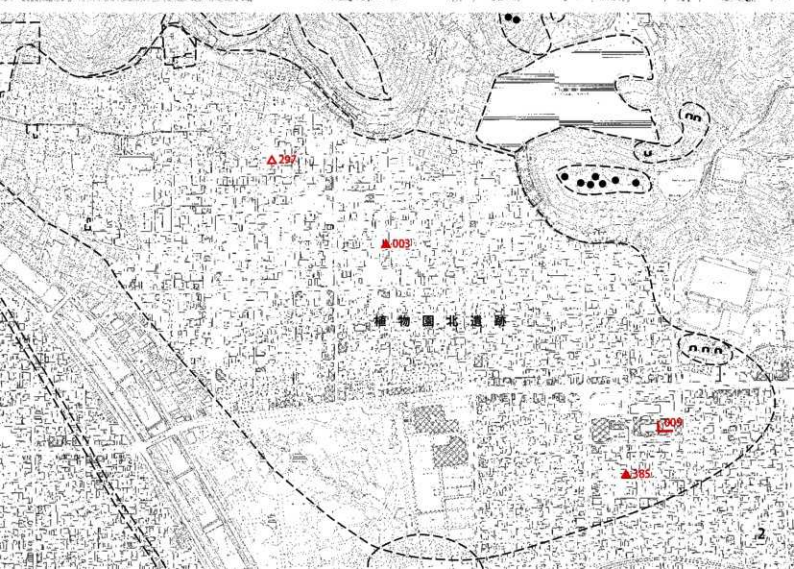
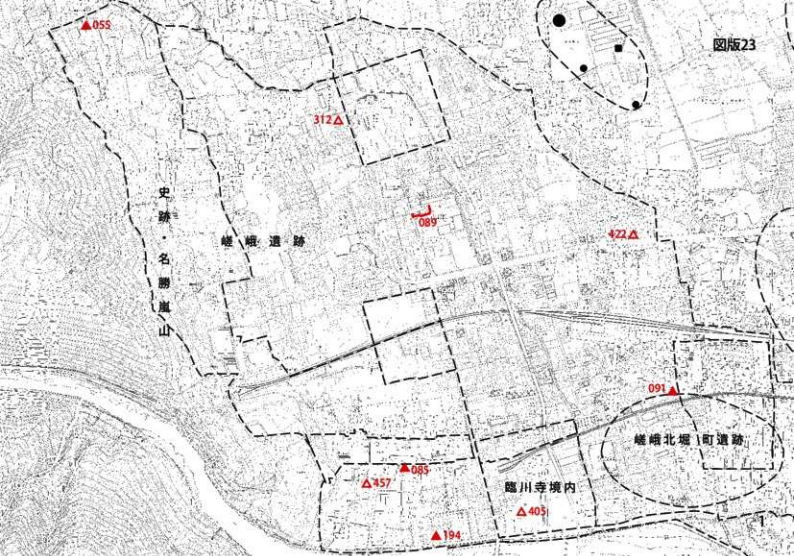
東土川遺跡

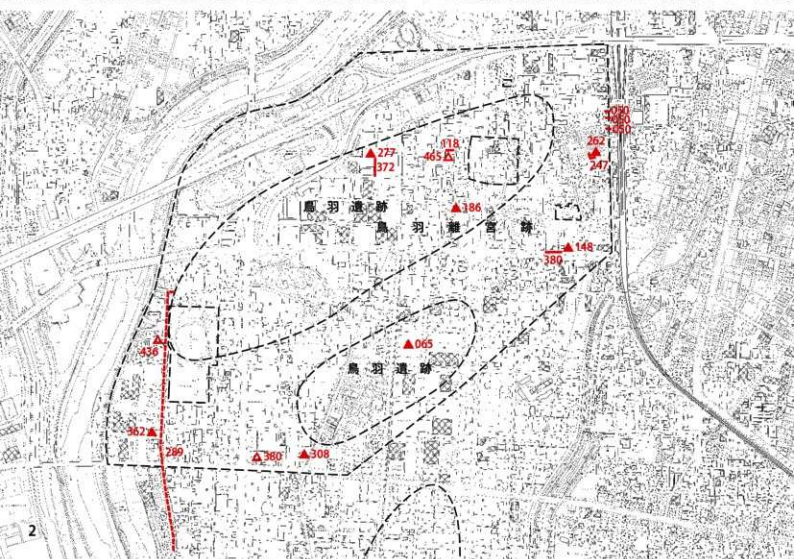
鷺冠井遺跡

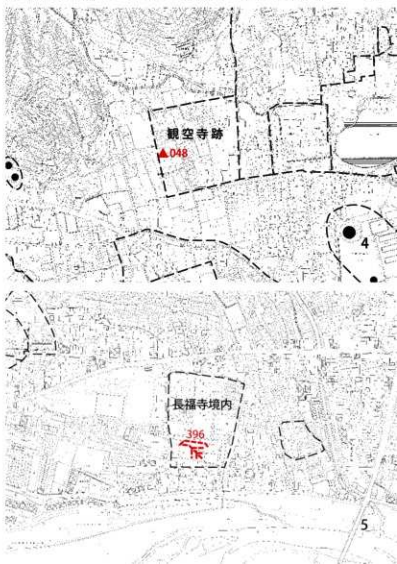
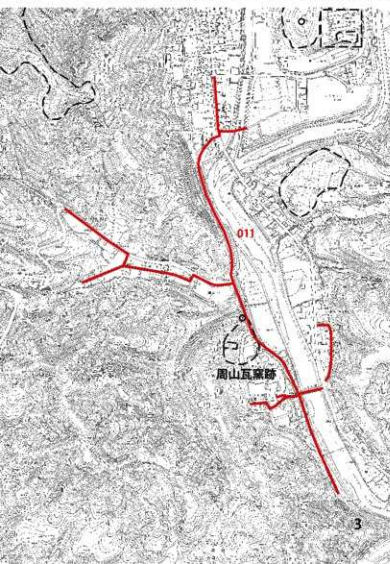
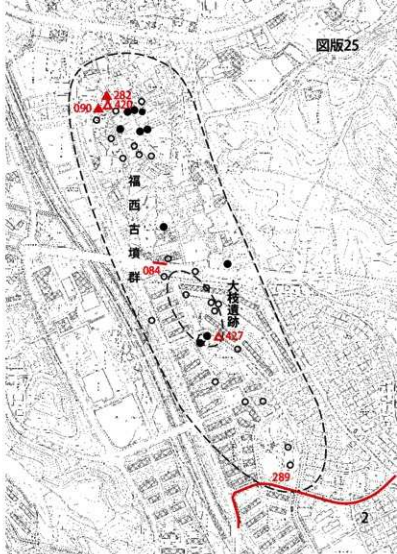
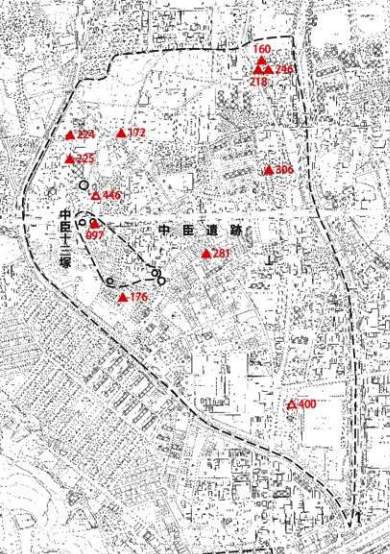
462

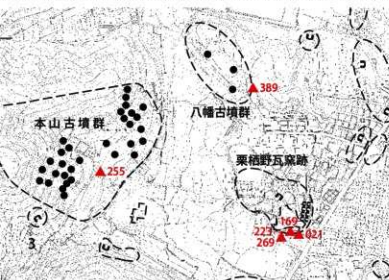
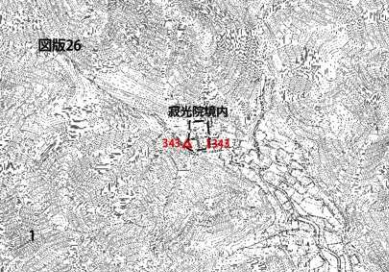


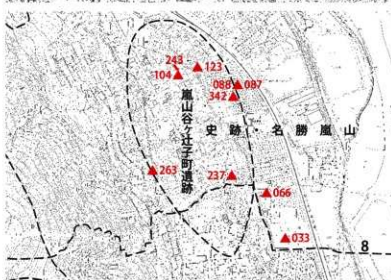
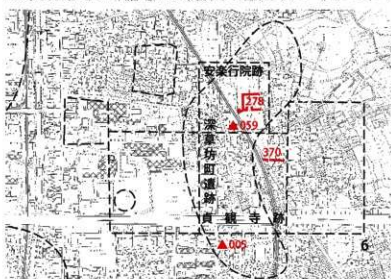


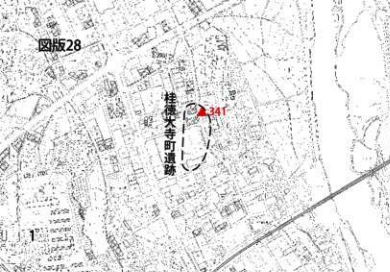














1 石組み井戸検出状況（北西から）



2 石組み井戸石積状況（北西から）



3 木杭出土状況（南から）

図版 30 遺構



1 整地土検出状況（南西から）



2 東壁断面（西から）



1 No 4 対象地南壁断面 (北西から)



2 No 3 断割り北壁断面 (南から)



3 No 3-7 遺物出土状況：遺物報告No.7 (南東から)



1 No.10 掘り北壁断面（南から）



2 No.16 掘り北壁断面（南西から）



1 No 9 斯割り北壁断面 (南から)



2 No 9-11: 西側石垣裏込め (南から)



1 No.6対象地東壁断面(西から)



2 ②地点 石積と護岸捨石(北から)

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成27年度

発行日 2016年3月31日

発行 京都市文化市民局

編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

住所 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394

Y・J・Kビル2階

TEL.(075)366-1498

印刷 洛東印刷株式会社

TEL.(075)501-1010